

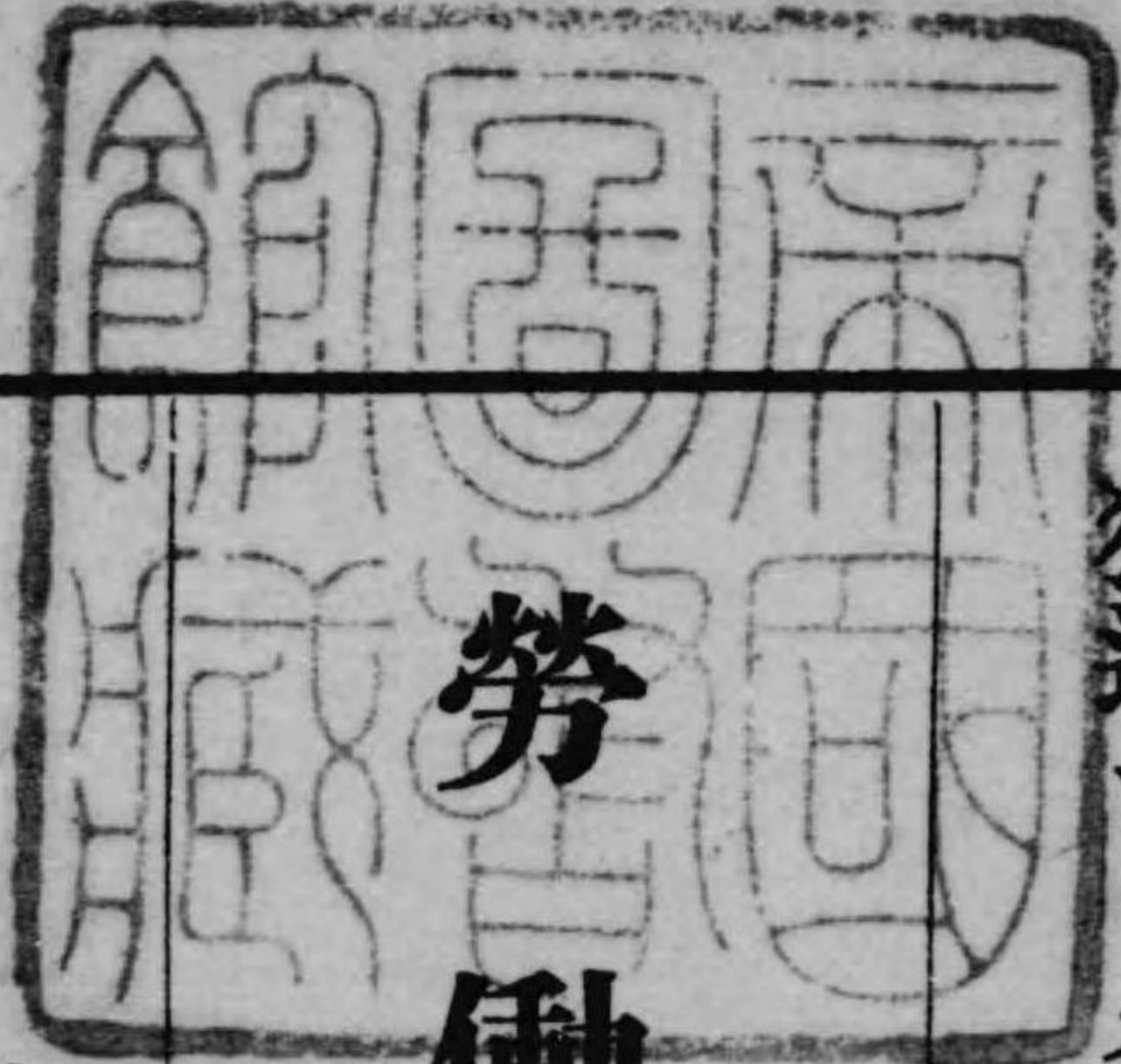
362
87

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



362-87



獨逸マールネス教授著

青木節一
小島精一

共譯

勞働保險論

東京集成社藏版

大正
8. 2. 5
内交

序

本年九月から東京帝國大學法科大學に「社會保險論」と云ふ講義課目が新設されて、私に其の擔任を命ぜられた。蓋し現代は社會改良の時代である。此の社會改良の時代に於て、社會保險、即ち我が國で一般に勞働保險と稱せらるゝものゝ高調されるのは、春雨地に注いで草木の自ら萌え出づるが如きものであらう。我々が日日手にする新聞紙上に、社會問題、勞働問題などに關する何等かの記事の見えない日は殆ど無い。否、實

に其の記事で満されて居ると言ふ方が却て適切な位である。萬事に保守的な我が政府でさへ、近年頻に労働保険の調査を急いで居るのも、蓋し時勢の要求の然らしめた爲であらう。東京帝國大學で新しい講義の設けられたのも亦、同様の理由に基くものと思ふ。さて、私が此の講義を擔任するに當つて最初に遭遇した困難は、我が國語で記された適當な参考書の乏しいことであつた。今日まで我が國で公にされた書物が無いでは無いが、まだ私を満足させるだけの創作も翻譯も目に觸れないので、學生に推薦する参考書に困つ

て居る折柄、友人の小島君と青木君とがマーネス教授の社會保険論を翻譯して見たい様な意思を表示されたので、私は大に賛成して、少しばかり相談相手に成つた様な次第である。

マーネス教授 (Prof. Alfred Manes) はベルリンの高等商業學校教授で、法學博士と哲學博士と二つ學位を持つて居る。彼は同校で保険學と社會保険論と二課目講義して居る。其の社會保険論の教科書が即ち今翻譯された此の書物であるから、其の學術上の價值は特に私の筆を煩すにも及ぶまい。尙ほ此の外に彼の著書に

は「保險學」や「保險學辭書」などと云ふ世界的の大著述がある。又彼の主宰する「獨逸保險學會」や、その機關たる「保險學雜誌」の如きも、同じく斯學の明星として遍く承認されて居るのである。斯くの如き學歷を持つ人の手に成つた本書、殊に労働保險では世界に模範を示したドイツ人の手に成つた本書が、我が國の讀書界に歓迎されることを、私は信じて疑はない。

東京帝國大學法科大學經濟統計研究室にて

大正七年十二月十二日

森 莊 三 郎

自 序

1 From status to contract(身分ヨリ契約ヘ)ト之レ Maine カ名言ナリ。蓋シ洵ニ社會進歩ノ實相ヲ盡セルモノニアラスヤ。然レトモ抑モ斯ノ如キ現象ハ悦フヘキカ將タ悲シムヘキカ余等之ヲ知ラスト雖モ社會進歩ノ一階梯トシテ否ム能ハサル事實ナルヲ如何セン。頃者米騒動ノ際千葉縣下ノ一村ハ自己ノ權利ニ基カスシテ他ノ施與ヲ受クルヲ肖トセストノ理由ニヨリテ施米ヲ辭退シタリト謂フ。此一事ハ以テ社會傾向ノ一斑ヲ知ラシムルニ足ラン。今ヤ徒ニ貧民救濟ヲ叫フノ時ニアラス。國家ハ下層階級者ノ人格ヲ認メ之ヲシテ自助獨行以テ窮迫ヲ事前

ニ防カシムルノ策ヲ講セサルヘカラス。之レ余等カ非才ヲ願
ミス敢テ本書ヲ公ニシタル第一ノ理由ナリ。

二 今日我國ハ社會政策ノ時代ニアリ。殊ニ労働者問題ニ孰キ
テハ政府ハ銳意ソノ解決方法ヲ企圖シツヽアリ。世界ノ大戦
幸ニシテ熄ミ經濟生活ノ一新生面將ニ開カレントスルニ方リ
早クモ識者間ニ失業労働者問題ノ聲ヲ聞ク。而シテ労働問題
ニ關スル編者ハ其數尠ナカラスト雖モ労働保險ニ關スルモノ
ニ至リテハ洵ニ寥々タリ。本書翻譯第二ノ理由ハ又茲ニ在リ。

三 余等淺學ニシテ然モ自ラ揣ラス、敢テ本書ヲ公ニシタリト雖
モ固ヨリ衷心忸怩ノ感ナキニ非ス、且ツ誤譯難解ノ點少ナカラ
サル事亦自ラ知ル。然レトモ若シ本書ニ依リテ社會保險ノ一

端ヲ指示スルヲ得ンカ、余等ノ望ハ即チ足レリ。

四 本譯書ニハ「労働保險論」ナル表題ヲ冠シタリ。原著ハモト「社
會保險論」ニシテ内ニ労働保險、使用人保險及ヒ失業保險ノ三者
ヲ包含セシメタルモ、我邦ニハ未タ社會保險ナル名稱ナキカ故
ニ一般ノ諒解ニ困難ナルヘキヲ虞リ、且ツハ労働保險モ之ヲ廣
義ニ解スルトキハ使用人保險並ニ失業保險ヲモ包含セシメ得
ヘキヲ以テ、故ラニ題スルニ「労働保險論」ナル名稱ヲ以テセリ。
讀者乞フ之ヲ諒セヨ。

五 翻譯ニ就テハ屢々東京帝國大學法科大學助教教授法學士森莊
三郎先生ノ御指導ヲ辱ウシ又出版ニ臨ミテハ特ニ序文ヲ賜ハ
レリ。茲ニ併セテ感謝ノ意ヲ表ス。

大正七年十二月二十二日

法科大學經濟統計研究室ニテ

譯者識ス

〔附記〕

- (一) 帝國勞働保險法ノ條文ハ力メテ之ヲ指示セリ。
- (二) 我邦ニ未タ無キ制度ノ名稱若クハ翻譯ナキ術語ハ原語ヲ附記セリ。

勞働保險論

目次

第一編 總論

第一章 社會保險ノ概念

- 第一節 概念ノ說明……………一
- 第二節 目的及ヒ性質……………九
- 第三節 類似ノ施設……………一六

第二章 社會保險ノ沿革及ヒ意義

- 第一節 第一期……………二四
- 第二節 第二期(帝國勞働保險法制定マテ)……………三一
- 第三節 第三期(帝國勞働保險法時代)……………三六
- 第四節 使用人保險法……………四四

目次

第五節 外國ニ於ケル沿革……………三二

第六節 經濟上ノ意義……………七〇

第三章 社會保險ノ組織及ヒ普及……………七七

第一節 獨逸ニ於ケル組織概觀……………七七

第二節 外國ニ於ケル組織概觀……………九九

第三節 統計……………一〇五

第一編 各論……………二八

緒論……………二八

第一章 疾病保險……………二〇

第一節 被保險者……………二〇

第二節 保險擔當者……………二五

第三節 保險ノ客體(給付)……………三三

第四節 財源ノ調達……………一四八

第五節 事業ノ管理……………一五一

第二章 傷害保險……………一五五

第一節 被保險者……………一五五

第二節 保險擔當者……………一七三

第三節 保險ノ客體(給付)……………一七七

第四節 財源ノ調達……………一八八

第五節 事業ノ管理……………一九四

第三章 癱疾、老衰、及ヒ遺族保險……………二〇五

第一節 被保險者……………二〇五

第二節 保險擔當者……………二一〇

第三節 保險ノ客體(給付)……………二一五

第四節 財源ノ調達……………二二三

第五節 事業ノ管理……………二二七

第四章 使用人保險……………二二四

第一節 被保險者……………二四三

第二節 保險擔當者……………二四七

第三節 保險ノ客體(給付)……………二五二

第四節 財源ノ調達……………二五八

第五節 事業ノ管理……………二六三

第五章 其他ノ社會保險……………二六六

第一節 失業保險……………二六六

第二節 其他ノ保險……………二七九

第三節 結論……………二八三

目次畢

勞働保險論

獨逸マーネス教授原著

青木精節 一 共譯



第一編 總論

第一章 社會保險ノ概念

第一節 概念ノ說明

國民經濟上ノ見地ヨリ定義ヲ下ス時ハ最廣義ノ社會保險(Sozialversicherung) im weitesten Sinne)トハ相互主義ニ基クアラユル經濟的施設ニシ

第一編 總論 第一章 社會保險ノ概念

テ労働者階級及ヒ中産階級使用人、企業従事者、小獨立企業者、手工業者、其他ヲ含ムノ偶然ノ事情ニヨリテ生シタル緊切ナル財産ノ需要ヲ填補スルヲ目的トスルモノナリト謂フヲ得ヘシ。

財産ノ需要ノ最モ主タル場合ハ労働力ノ一時的休止及ヒ永久的休止ニヨリテ生ス。死亡、老衰、廢疾、傷害、疾病、妊娠、失業等ハコノ主タル原因ニ算フルコトヲ得ヘシ。

概念ノ構成分子トシテ特ニ重要ナルハ相互主義ナルコト之ナリ。相互主義ハソノ前提トシテ多數ノ人及ヒ多數ノ經濟ノ存在ヲ必要トシ之カ相互ニ相結合シテ一方カ他方ヲ扶クルノ義務ヲ負フコトヲ要ス。從テ填補ニ對スル法律上ノ請求權ヲ生スル場合ニ於テノミ初メテ保險ノ問題ヲ生スルモノト謂フヲ得ヘシ。而シテ此ノ請求權カ私法上ノ契約ニ基クモノナリヤ公法上ノ強制ニ基クモノナリヤノ問題

ハ社會保險ノ概念ニ何等加フル所ナキナリ。若シ夫レ何等法律上ノ請求權存在セス單ニ恩惠的行動ヲ期待シ得ルニ過キカ保險ノ概念茲ニ跡ヲ絶チテ貧民救濟ノ問題ヲ生スルニ至ル。

次ニ經濟上ノ施設トシテ社會保險ハ有償ナルコトヲソノ性質トス。被保險者タル各労働者ハ直接自力ニ依ルカ又ハ間接ニ他人例ヘハ企業家ノ手ヲ經ルカ何レカニ依リテ出捐ヲナスノ義務ヲ有ス。然レトモ出捐ハ必シモ金錢的ナルヲ要セス労働力ノ提供モ亦可ナリ。斯ノ如クシテ集メラレタル各出捐高ハ財産需要ヲ生シタルアラユル場合ニソレヲ填補スルニ充分ナル額ニ達スルヲ要ス。然レトモ被保險者タル労働者カ直接又ハ間接ニ金錢若クハ勞務ニヨル出捐ニ基キ請求スルコトヲ得ヘキ額ヨリ更ニ多額ノ支拂ヲ受クルカ如ク即チ何等カノ形式ニ於テ割増金ヲ受クルコトアルハ往々見聞スル所ナレトモカ

クノ如キ場合ニ於テハ社會保險ハ既ニ純然タル保險ノ性質ヲ喪失スルモノニシテ寧ロ保險ト救済トノ結合セルモノナリト稱スルコトヲ得ヘシ。

次ニ需要ハ偶然ナル事情ニ因リテ生スルコトヲ要ス。是レ故意ニ需要ヲ生セシムル場合ヲ出來得ル限リ排除シ又一面ニ於テハ需要カ一般的ニ不定ナルカ又ハ單ニソノ發生ノ時期若クハ額或ハ存續力不定ナラサルヘカラサルヲ意味スルモノナリ。斯ク財産ノ需要カ偶然ニ生スルコトヲ要スル外ニソノ需要ハ緊切ナルコト及ヒ統計ニ取リ得ヘキコトヲ條件トス。然ラサレハ合理的ノ評價ヲナスコト能ハスシテ社會保險ナル制度ハ經濟上ノ施設トシテ見ルコトヲ得サルニ至ラン。

需要ノ填補ハ金錢ニテナスヘキカ金錢的價値現物給付(其他醫術ニ

ヨリテ助力ヲナシ病院ニ收容スル等)ニテ足レリヤハ保險ノ概念ヲ構成スルニツキ重要ナラス。同様ニ填補ハ一時的給付即チ元本濟清ニヨリテナスヘキカ回歸的ノ給付即チ定期金ニ依ルヘキカニ就テモ亦同シ。又填補ハ資金ヲ豫メ蒐集スル方法ニ依リテ行ハルルヤ又ハ單ニ出捐者ニ信用ヲ與ヘ後ニ至リテ蒐集スル方法ニ依リテ行ハルルヤノ問題モ亦茲ニ論スルノ要ナシ。

上述セル所ニヨリテ社會保險モ亦純粹ナル保險タルコトニ於テハ多數ノ私營保險(Privatversicherung)ト異ルナシ。然レトモ私營保險ニアリテハソノ組織ハ私經濟上ノ立場ニ立ツコト主タルニ反シ社會保險ニアリテハ社會政策ヲ基礎トナス。故ニ余ハ労働保險ナル名稱ノ代リニ社會保險ナル語ヲ採用セリ。蓋シ從來行ハレタル労働保險ナル名稱今尙ホ存在スト雖モ労働者以外ノ者ヲモ含ムニ至リ名實相伴ハ

サルカ故ニ此ノ名稱ヲ用フルコトヲ避ケタルナリ。

上述ノ廣義ノ社會保險ハ次ノ三個ノ體様ヲ採ルコトヲ得ヘシ。

(一)私設ノ保險株式會社又ハ保險相互會社ニヨリテ行ハルル任意保險。我國(獨逸國)ニ於テモ盛ニ經營セラルルモ主トシテ英國及米國ニ於テ行ハルル簡易保險(Volksversicherung, Industrial Insurance)ノ如キ此ノ類ナリ。

(二)勞働者ノ自由獨立ノ組織ニヨリテ行ハルル任意保險。例ヘハ英國ノ共濟組合(Friendly Society)ニ於ケルカ如シ。

(三)勞働保險ニシテ國家的強制ノ性質ヲ帶フルモノ。此ノ最後ノ種類ハ本來ノ社會保險換言スレハ狹義ノ社會保險ト稱スヘシ。之ハ一八八一年ニ起リタルモノヲ濫觴トシ爾來今日ニ至ルマテ獨逸ニ於テ最モ廣ク行ハレタルモノニシテ獨逸人口ノ約三分ノ一乃至二分ノ一

之ニ加入ス。即チ六千五百萬人ノ人口中三千萬人ニ及フ。一八九五年ヨリ一九一一年ニ至ルマテ七百萬人以上ノ加入者ニ對シテ支拂ハレタル保險金額ハ無慮八十億馬克ヲ超エタリ。

斯ク著シキ發達ヲ遂ケタル原因ヲ究ムレハ一ニ保險ノ強制ニ歸セサル可カラス。而シテコノ強制タルヤ本來ノ社會保險ニ於テハ概念上必要不可缺モノタリ。ソノ強制實行ノ方法ハ種々アルモ獨逸ニ於テハ次ノ四方面ニ之ヲ分ツコトヲ得ヘシ。

(一)保險ノ種類

(二)被保險者(Versicherte Personen)

(三)保險擔當者(Versicherungsträger)

(四)保險ノ給付(Versicherungsleistungen)

惟フニ本來ノ社會保險ハ社會政策時代ノ產物ニシテ實ニ保險思想

ノ本質的特異的ノ發達ヲ意味ス。蓋シ保險ハ從來原則トシテ自由意思ニソノ基礎ヲ有シ時トシテ強制ヲ認メタルコトアリシモ未タ社會政策的ノ附隨目的ヲ有スルニ至ラザリシナリ。

本著ハ獨逸ニ於ケル狹義ノ社會保險ヲ研究スルヲ以テ主タル目的トス。蓋シソノ理由ハ本來社會保險カ獨逸ニソノ源ヲ發シ從テ獨逸ニ於テ最も盛ニ發達シタルカ爲メノミニアラスシテ他ノ多數諸國カ全部ト云ハス一部分ナリトモ範ヲ獨逸ノ社會保險ニ採リツツアルカ爲メニシテ未タ獨逸ノ制度ニ親炙セサル國ニ於テモ遠カラサル未來ニ我制度ヲ採用セン際ノ一助タランコトヲ期シタルナリ。

然レトモ狹義ノ社會保險ト謂フモ保險ノ個々ノ種類ヲ指スモノニアラス。コノ語ハ寧ロ集合名詞ト見ルヲ適當トス。社會保險ナルモノハ數多ノ保險ノ種類ノ一系統ニシテ次ノ如ク種別セラル。即チ疾

病保險(Krankenversicherung) 傷害保險(Ungfallsversicherung) 癱疾保險(Invalidentversicherung) 老衰保險(Altersversicherung) 遺族保險(Hinterbliebenenversicherung) ノ中ニ寡婦及ヒ孤兒保險(Witwenund Waisenversicherung)ヲ含ム其他使用人保險(Angestelltenversicherung)及ヒ失業保險(Arbeitslosenversicherung)之ナリ。ソノ範圍ニ至リテハ一國ノ社會政策發達ノ程度ニ從ヒ或ハ狹ク或ハ廣シ。

第二節 目的及ヒ性質

獨逸帝國ニ於ケル社會保險ノ基本觀念ヲ最も明瞭ニ諒解セシメソノ性質ヲ最も適切ニ表明スルモノ勞働保險法第一草案ノ理由書ニ若クモノナシ。今ソノ主タル部分ヲ掲ケン。

「一八七八年十月二十一日ノ法律審査委員會ニ於テ社會民主々義ノ危險ナル運動ニ關シテ論議セラレタルカ結局此法律ノ發布ヲ必要ナ

ラシメタル危険ナル現象ハ勞働者ノ地位改善ヲ目的トスル積極的手段ニ依リテ撲滅セサル可カラストノ意見ニ一致セリ。

抑モ國家カ保護ヲ必要トスル人民ヲ認メテ從來ヨリハ一層厚ク之ヲ救済スルハ單ニ人道及ヒ基督教ノ義務ノミニアラス苟モ國家維持ノ政策ニシテ無資産階級——最モソノ數多ク且最モ無教育ナル階級ノ腦裡ニ國家ナルモノハ單ニ彼等ニトリテ必要不可缺施設タルニ止マラス實ニ彼等ノ幸福ヲ増進スルモノナルコトヲ銘記セシムルヲ以テ目的トナス限リハ又ソノ任務ト認メサル可カラサルナリ。而シテ此ノ任務ヲ達センカ爲メニハ立法的手段ニ依リテ彼等ニ顯然タル直接ノ利益ヲ與ヘ以テ國家ハ決シテ社會上優良ノ地位ニ位スル階級ノ保護ノミヲ目的トスルモノニアラスシテ彼等ノ需要及ヒ利益ヲモ併セテ顧慮スルモノナルコトヲ知ラシムルニ若クハナシ。

カクノ如ク立法ニ依リテ此ノ目的ヲ達セントセハ立法ニ社會主義的分子ヲ包容スルコトトナルヤノ疑ハ一應尤モナルモカカル疑問ハ全然新ニ起リシモノニ非スシテ基督教ノ精神ヨリ發生セル近代國家觀念ノ向上發展ニ伴ヘルモノナリ。即チ斯ノ如キ國家觀念ニ從ヒ國家ハ現存ノ權利保護ヲ目的トスル保守的任務ヲ有スル外ニ適切妥當ナル設備ヲナシ須ヒ得ヘキアラユル手段ヲ盡シテ全國民殊ニ弱者ニシテ保護ヲ要スルモノノ幸福ヲ積極的ニ増進センコトヲ一任務トナスモノナリ。

今日ノ國家ニノミ特有ニシテ古代及ヒ中世ニ於テソノ比ヲ見サル貧民救済事業ヲ法律ヲ以テ規定スルハ此ノ意味ニ於テソレ自身社會主義的分子ヲ含ムモノニシテ事實無資産階級ノ地位向上ヲ目的トスル手段ハ國家ノ貧民救済ノ基本觀念ノ發達ニ基クモノナリト謂フヲ

得ヘシ。」

立法者ノ此ノ宣言ニ從ヘハ社會保險ノ目的ハ次ノ二ツニ區別スヘシ。

(一)社會的目的

無資産階級ノ物質上ノ地位ヲ向上セシメサルヘカラス。

(二)内治的目的

即チ保險ニヨリ物質的ニ向上シタル階級ヲシテ現在國家ノ維持發達ニ更ニ大ナル利害ヲ感シ選舉ニ當リテハ穩健ナル社會改良黨ニ味方セシメサルヘカラス。

特ニ獨逸ノ社會保險ノ組織ニヨレハ以上述ヘタル以外ノ文化目的ヲモ達スル事ヲ得ヘシ。

(三)公衆衛生上ノ目的

保險ニヨリテ増進セラルル合理的ノ醫療病院ノ施設殊ニ傳染病第一ニ肺結核ノ撲滅ノ設備之等ハ國民ノ健康ヲ著シク増進セシムル結果ヲ生ス。現國民ニ對スル保健方法宜シキヲ得ル時ハ從ツテ未來ノ國民ニ好影響アリ。社會保險ノ方法ニヨル勞働者住宅制度ノ發達ニ至リテハソノ價值頗ル大ナリ。

(四)對外政策上ノ目的

保險ニヨル一國兵力ノ中堅タル壯丁ノ體力増進ハ國防力ヲ強ム。

(五)倫理上ノ目的

社會保險ハ他ノ保險ト同シク家族的生活ヲ促進ス。

(六)國民教育上ノ目的

社會保險ニヨリテ組織立テル自力救濟將來ニ對スル適切ナル用心ノ思想ヲカクノ如ク思想ヲ有セサル階級ニ鼓吹スル事ヲ得ヘシ。

(七) 産業政策上ノ目的

保險ノ思想ハ益々一般的トナルヘク又出來得ル限リ廣キ範圍ニ亘ツテ財產需要ノ填補ヲ欲スルノ傾向モ大トナルヘシ。然レトモ社會保險ハ常ニタタ最小限度ノ支拂ヲナシ得又ナスヘキモノナルカ故ニ從ツテ任意保險ノ需要増大スヘシ。私營保險即チ保險業ハカクシテ益々隆盛ニ赴カン。

次ニ社會保險ノ條件ニ至リテハソノ條件自體並ニ條件ノ範圍モ普通ノ保險ニ於ケルト異ル所ナシ。然レトモ保險ニ社會政策的性質ヲ帶ヒシメンカ爲メニハ多少ノ制限ヲ認ムルノ要アリ。社會保險ニ於テハ大體貧窮者ヲ目的トスルモノナルカ故ニ財產ノ需要ヲ必要トスル場合ノ起ラン事ヲ望ム心——更ニ進ンテ謂ヘハ保險金ノ支拂ヲ得シトノ欲望特別ニ強キモノアリ。蓋シ之ニヨラスンハ得ル事ヲ得サ

ル特殊ノ利益アレハナリ。又社會保險加入ノ強制モアル範圍ニ止メサルヘカラス。就中國民ノ餘リ廣キ範圍ニ亘ルヘカラス。殊ニ自己ノ財產ニヨリ任意ニ保險ニ加入スル事ヲ得ル地位ニアル者ニハ強制ヲ及ササルヲ可トス。

依是觀之保險加入ヲ人ノ任意ニ委スレハ少シモ行ハレス又ハ行ハルトスルモ頗ル不充分ナル場合ニ於テノミ強制保險ヲ實行スヘキモノナリ。洵ニ強制保險ハ義務教育ト同一列ニ置ク事ヲ得ルモノタリ。蓋シ義務教育ハ或ル範圍ニ於テ必要ニシテ甚タ有用ナルモノナレトモ之ヲ擴張シテ國民ハ高等學校又ハ大學ニ學ハサルヘカラストスルニ至リテハ大ナル誤ナリ。義務教育ハ充分ナル最小限度ニ於テ各人ニ精神的富ヲ與フル事ヲ要シ又與フル事ヲ得ルモノニシテ最小限度ヲ超エテ更ニ最大限度ニ於テ教育ヲ受クルヤ否ヤハ各人ノ自治ニ委

セサルヘカラス。是レ保險ノ保護ニ於テモ亦同シ。故ニ保險ノ強制ハ第二義的ノ手段ナリト謂ハサルヘカラス。然リト雖モ翻ツテ見ルニ物質上極メテ悲惨ナル境遇ニアル經濟主體ニ對シテハコノ強制コソ誠ニ利益アルモノナレハソレカ爲メ強制保險ノ國民經濟上社會政策上ノ價值ハ愈々大ヲ加フト謂フヲ得ヘシ。

次ニ社會保險ヲ行フ事ニヨリ社會政策上ノ負擔ヲ無制限ニ内國生産ニ課スル事ヲ許ササルモノアリ。蓋シ一國ノ社會保險ノ費用ハソノ勞働ノ生産費中ニ少クトモソノ一部トナリテ表ハルル事明ナレハナリ。惟フニ他ニ先チテコノ制度ヲ採用シタル國ニ於テ著シキ發展ヲ遂クルニ至ランカ初メテ社會保險ノ國際化ヲ見ルニ至ラン。

第三節 類似ノ施設

抑モ事物ノ本質ハ比較對照ニヨリテ最モ明瞭ニ諒得スル事ヲ得ヘシ。サレハ吾人若シ社會保險ノ本質ヲ充分ニ明ニセント欲セハ他ノ類似ノ施設トノ間ニ如何ナル差異アリヤヲ研究スルヲ要ス。

社會保險ハ他ノ保險ト同シク經濟的豫防策ノ一種ナリ。ソレ故社會保險法ヲ以テ國家的救濟制度ノ一トシテ公法ニ屬セシムルヲ常トス。

サレハ社會保險ハアル程度ニ於テ私營保險ト相對立ス。前者ハ國家的規律ニ服スルニ反シ後者ハ原則トシテ契約ニ基ク。又前者ニアツテハ保險者ト被保險者トノ間ノ法律關係ハソノ意思ノ有無ニ拘ラス——否ソノ意思ニ反シテモ生セシメラルルニ比シ後者ニ於テハ兩者ノ間ノ合意ニヨリテ成立ス。

社會保險ノ要素タル強制ハ私營保險ニ屬スル他ノ施設ニ於テモ亦

之ヲ見出スヲ得ヘシ。即チ勞働者階級以外ノ者ニ對シテ行ハルル強制保險ノ公的施設アリ。例ヘハバーデンニ於ケル強制不動産火災保險 (Zwang-Immobilien-Feuerversicherung) 又ハ年金金庫 (Pensionskasse) ノ如シ。

然レトモ他ノ一面ニ於テ勞働保險ノ設備カ私營保險的制度ノ性質ヲ帶フル事アリ。例ヘハ同業組合ノ設立ニカカリ私的賠償責任ノ結果ニ對シテ企業家ヲ保護スル保險制度ノ如シ。尙コノ兩保險制度ハ法律上必スシモ相反スルモノニアラス。又經濟上ヨリ見ルモ多クノ關係ニ於テ同一性ヲ有ス。

社會保險ハ物質上ノ損害ニ對スル保障ヲ目的トスル事私營保險ト異ル所ナシ。兩者共ニ出來得ル限り多數ノ經濟單位ノ出捐ヲ必要トシ共同的ニ財源調達ニ參與スル事重要ニシテ且財産ノ需要ノ同一ナル事殊ニ積極的損害或ハ貯蓄能力ノ喪失ニ對スルモノナル事ヲ要ス。

社會保險カ國家ニヨリテ強制力ヲ附與セララルルノ事實ヲ以テ直チニ社會保險ニ自力救済ニ基ク施設タルノ性質ナシト斷スル事ヲ得ス。何トナレハ自力救済 (Selbsthilfe) ヲ以テ全く獨力ニシテ自己ノ保障ヲ立ツルノ謂ニ解スル事ナク相互ニ相倚リ相扶ケ以テ團體ヲ構成シコノ團體ノ組織的救済ヲ以テ自力救済ノ意ニ解セスハ私的ノ任意保險モ亦自力救済ノ性質ヲ有セサルモノト謂ハサル可カラサレハナリ。蓋シ貯蓄ノ如ク個人カ全然獨立孤立シ他ノ貯蓄者ト何等ノ關係ヲ有スル事ナキ自力救済トハ自ラソノ趣ヲ異ニス。サレハ國家ノ規定ニヨリテ成レル強制金庫 (Ningenschatz) ハ尙ホ之ヲ公力救済ナリト謂フヲ得ス。寧ロ國家ハ強制保險ノ制度ヲ設ケテ自救ノ一般的實行ニ必要ナル條件ヲ定メ得ルニ過キサレナリ。尙ホ又社會保險ニ於ケル被保險者ノ出捐ト保險機關ノ反對給付トノ關係カ私營保險ニ於ケルソレト

異ルノ故ヲ以テ社會保險ニハ保險タルノ性質ナシト謂フ事ヲ得ス。私保險ニ於テハ他ノ被保險者ニ比シ需要ノ一層大ナル事ヲ期待スル者ハ從ツテ又大ナル出捐ヲナササルヘカラス。固ヨリ社會保險ニ於テモ給付ト反對給付トノ間ニ正比例ノ關係ヲ保ツノ原則ハ全然ナキニアラサルモ私營保險ニ比スレハ甚タ少ク寧ロ被保險者ノ出捐ヲ出來得ル限り均等ニ定ムルヲ常トス。而シテ著名ナル經濟學者就中アドルフ・ワグナー(Adolf Wagner)氏ノ如キカ社會保險ニ行ハルルコノ原則ヲ以テ唯一ノ正當ナルモノトシ從ツテ又私營保險ニ於テモ斯クアルヘシト主張スルノ事實ハ偶々以テ社會保險カソノ出捐ニ一種特別ナル性質ヲ有スルニ拘ラス純粹ノ保險タル事ヲ證スルモノト謂フヘシ。次ニ社會保險カ勞働者保護ニ對スル關係ハ恰モ普通ノ保險カ一般的豫防ニ對スル關係ニ相似タリ。例ヘハ充分ナル火災豫防ヲ目的ト

シテ制定セラレシ建築ニ關スル警察法規出テテ火災ノ慘害ノ發生減シタルカ如ク勞働者ノ生命身體ニ關スル保護規定ハ傷害又ハ疾病ノ發生ヲ困難ナラシムルノ目的及可能性ヲ有ス。社會保險ハ實ニ勞働者ノ保護ヲ完カラシムル一制度ナリ。然モ亦一面ヨリ見レハ勞働者保護モ亦アル範圍ニ於テ社會保險ノ制度ニヨリテ實行セラレ或ハ増進セラレルモノナリ。

更ニ翻ツテ見ルニ被保險者ハ或ハ單ニ一部分ノ出捐ヲナスヲ以テ足リ(例ヘハ獨逸ノ疾病、癱疾、老衰、遺族及使用者保險ノ如キ)或ハ獨逸ノ傷害保險ノ如ク何等金錢上ノ給付ヲナス事ヲ要セサル事アルノ事實ハ人ヲシテ社會保險又ハ少クトモソノアル範圍ハ貧民救濟ノ施設ナリト觀念セシメタリ。然レトモ之レ固ヨリ妥當ナラス。被保險者タル勞働者ノナス出捐ハ彼カ内國ノ生産ニ盡ス勞働力ニ存スルモノニ

シテ若シ勞働者ニ對シテ全部若クハ一部分出捐ヲ免除スル保險制度ナシトセハ彼等ハ從來ヨリ一層高キ賃銀ヲ受ケサルヘカラス。即チ社會保險ニ相當スル保險ニ加入シ得ル丈ケノ賃銀ヲ餘分ニ要求セサルヲ得ス。蓋シ通説ニ從ヘハ賃銀ハ勞働者カ所得能力ヲ喪失シタル場合ニソノ生活ヲ保障スルニ足ル額ナラサルヘカラサレハナリ。

之ニ反シテ社會保險ニ對スル國家ノ補助ハ勿論保險ニ對スル保護的出捐ト解スヘキモノナレトモ社會保險ハ固ヨリ貧民救濟トハ全クソノ趣ヲ異ニス。何トナレハ貧民救濟ニアリテハ慈善ヲ要素トスルモノニシテ貧民ハ個人的ニ之ヲ要求スル權利ヲ有スル事ナシ。救貧法(Armenetze)ハタタ社會全體ニ對スル救貧組合ノ義務ヲ規定スルニ過キス。之ニ反シテ社會保險ニアリテハ被保險者タル勞働者ハ正確ニ約束シタル填補ヲ請求スル事ヲ得ル個人的ノ權利ヲ有ス。國家ノ

機關ハ法定ノ場合ニ一定額ノ保險金ヲ支拂フノ義務ヲ勞働者ニ對シテ負フモノナリ。又貧民救濟ハ多クハ經濟上ノ生活カ不能又ハ困難トナリタル場合ニ於テ初メテ行ハルルモノナルニ反シ社會保險ハ之ニ先チテ豫防的ニ行ハルルモノナリ。アル人ノ言ヲ藉リテ謂ヘハ「保險制度ハ社會政策ノ用ニ供セラルル一機械ニシテ救貧制度ハ概シテ社會政策ニ屬セス。貧民救濟ハ寧ロ必要缺クヘカラサル弊害ニシテ社會政策カソノ任務ヲ果ス事少ナケレハ少キ程益々廣キ範圍ニ亘リテ實行セサルヘカラサルモノナリ。」更ニ相違ノ點ヲ擧クレハ貧民救濟ニアリテハ家計困難ノ證明ヲ必要トスルニ反シ保險ニ於テハ老衰ノ事實、疾病、死亡、廢疾ノ發生ノ事實アレハ足ル。ソノ他獨逸ノ社會保險ニ於テハ勞働者又ハ使用人ハソノ内部ノ保險事務ニ關與シ得ルニ反シ貧民救濟ニ於テハ全ク此事ナシ。

第二章 社會保險ノ沿革及意義

第一節 第一期

社會保險ニヨリテ實行セラレタル保護ハ保險法(Versicherungsgesetze)ノ發布以前ニ於テハ一部分他ノ法律ニヨリテ行ハレ又ハ法律以外事實上ノ關係ニヨリテソノ目的ヲ達セラレ居タリ。

經濟上及法律上之ヲ次ノ三體様ニ區別スル事ヲ得。

(一)企業家ニヨル保護

(二)勞働者組合ニヨル保護

(三)公共團體ニヨル保護

此等ノ狀態ヲ一瞥スレハ社會保險ノ制度ハ如何ナル事項ト結合シ又之ニヨリテ如何ナル新シキ事實ヲ創設セルカラ知ルニ足ラン。

疾病救濟ハ親族間相互ノ扶養請求權ニ關スル法規ハ別トシテ疾病ニ罹レル傭人ニ對スル雇主ノ救護義務ヲ規定スル法規ニ於テ存在シタリ。獨逸普通商法(Allgemeines Deutsches Handelsgesetz)ハ商業使用人ノ爲メ船員法(Seemannsordnung)ハ船員ノ爲メ疾病者ニ對スル救護義務ヲ夫々雇主又ハ船主ニ負ハシメタリ。

更ニ重要ナルハ羅馬法ニ源ヲ發シ Lex Aquilia ト内容ヲ同クスル傷害ニ對スル救濟制度ニシテ特定ノ場合ニ於テ特定ノ階級ニ損害賠償責任ヲ認メタルモノナリ。數多ノ特別法ハコノ普通法上ノ規定ヲ擴張シタルカ損害賠償責任ノ原則ヲ最モ廣ク認メシメタルハ一八七一年六月七日ノ帝國責任法(Reichshaftpflichtgesetz)ナリトス。

帝國責任法第一條ニヨレハ鐵道營業人ハ損害カ不可抗力又ハ旅客自身ノ過失ニヨリテ發生シタル事ヲ證明スルニ非レハ營業ノ爲メニ

生シタル旅客ノ死傷ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノナリト規定セラル。又同法第二條ハ鑛山石坑鑿開業又ハ製造工場ノ營業人ノ責任ヲ規定シ代理人若シクハ代表者又ハ營業者シクハ勞働者ノ指導監督ノ任ニ當ル者カ業務ノ執行ニ關シ過失ニヨリテ之ヲ死傷セシメタル時ハ營業人ハ因リテ發生シタル損害ノ賠償ヲナスノ責ニ任スル事ヲ定ム。茲ニ過失トハ當時ノ工業條例 (Gewerkeordnung) 第二百十條ニ反スル行爲ノ意ニ解スヘキモノニシテ此百二十條ト謂フハ營業人カ勞働者保護ノ爲メ如何ナル設備ヲナスヘキカラ一般ニ規定シ又數多ノ警察法規ニヨリテ補充セラレタルモノナリ。尙ホ帝國責任法ハソノ第三條ニ於テ損害賠償ノ方法及範圍ヲ詳細ニ規定ス。即チ同條ニ依レハ死亡ノ場合ニ於テハ療養及埋葬ニ要シタル費用及療養中所得能力ノ喪失又ハ減少ニヨリテ受ケタル財産上ノ損害ヲ賠償スヘキ

モノトス。若シ死亡ノ當時ニ於テ死亡者カ第三者ニ對シテ法律上ノ扶養ノ義務ヲ有シタル場合ニ於テハ第三者モ亦扶養義務者ノ死亡ニヨリ失ヒタル利益ノ賠償ヲ請求スル事ヲ得。又傷害ノ場合ニ於テハ被害者カ傷害ノ爲メニ一時的又ハ永久的ニ所得能力ヲ喪失シ又ハ減少セシメラレタルカ爲メニ生シタル財産上ノ不利益及治療ニ要シタル費用ノ賠償ヲ請求スル事ヲ得。

カクノ如ク疾病及傷害ニ對スル救濟策存シタルニ反シ癱疾及老衰ニ關シテハ之ヲ救濟スヘキ法律上ノ規定ヲ缺ケリ。タタ坑夫組合金庫及同職組合金庫 (Knappschafts-Innungskasse) ノ設アリシノミ。多クハ老衰又ハ癱疾勞働者ノ救濟ハ貧民救濟ヲ以テ之ニ充テタリ。

コノ坑夫金庫ハ舊ハ坑夫間ノ組合ニシテ鑛山作業獨特ノ危險ハ夙ニ坑夫ノ強制的結合ヲ促シ今日ノ社會法ノ根本觀念ヲ初メテ實現セ

シメタルナリ。カクテコノ組合ノ法規カ廣ク普及スルニ至ルヤ茲ニ
 プロシヤノ一八六五年七月二十四日ノ舊鑛業法(Minergesetz) (一九〇六年
 六月十九日改正)ノ發布トナレリ。之ニヨレハ組合ハ疾病ノ場合ニハ
 施療藥品賃銀ノ代償ヲ與ヘ重大ナル過失ニ因ルニアラスシテ勞働力
 ヲ喪失セシ場合ニハ癱疾者トシテ終身救濟ヲ施シソノ他埋葬費ヲ給
 シ寡婦又ハ孤兒ノ保護ヲナス事トナレリ。
 強制保險ハ又一八七六年四月三日ノ法律ニヨリテアル範圍ヲ限リ
 テ認メラレタリ。コノ法律ニヨレハ職人助手及工場勞働者ノ保護ノ
 爲メニ登記シタル救濟金庫ヲ規定シ尙ホ且彼等カ任意ノ救濟金庫ノ
 一員タラサル場合ニ於テハ強制的ニ前記ノ救濟金庫ニ加入セシムル
 ノ權利ヲ市町村及市町村組合ニ認メタリ。
 以上ノ例ニ舉ケタルカ如ク舊時ノ救濟策ハ企業家及勞働者組合ニ

關スルモノナリキ。尙ホソノ他公共團體ニヨル例ヲ掲ケンニ先ツ第
 一ニ國家的貧民救濟ヲ舉クルヲ要ス。即チ一八七〇年六月六日ノ細
 民住宅支給 (Unterstützungsvohnsatz) ニ關スル帝國法及同法施行法ハ救濟
 ヲ要スヘキ者ニ對シテハ必要ノ限度ノ生活費疾病ノ場合ニ於テハ必
 要ナル手當及死亡ノ場合ニハ相當ナル埋葬費ヲ給スル事ヲ規定ス。
 然レトモ前ニモ述ヘタルカ如ク此ノ場合ニ於テモ亦コノ法律ノ爲メ
 ニ救濟ヲ請求スルノ權利發生スルモノニアラサル事ハ之ヲ銘記スル
 ヲ要ス。

右述ヘタルカ如キ狀態カ永久ニ維持セラルルモノニアラサル事ハ
 何等ノ證明ヲ要セス。吾人ノ經濟生活ノ發展ニ連レテ勞働者階級ノ
 活動ヲ必要トスルニ從ヒ又我獨逸國カ農業國ヨリ工業國ニ變遷シ行
 クニ從ヒ右ノ狀態ノ變化スル事愈々大ナルヲ加ヘン。天然力ハ從來

ヨリハ一層盛ニ工業ニ用ヒラルヘシ。機械ノ使用ハ増加シ危險ナル化學ノ材料ノ應用ハ増大スヘシ。加之個々ノ事業ニ使用セララル労働者ノ數モ増加シ又同シ狭キ場所ニ以前ヨリ多クノ人間カ相集マル事トナルヘシ。カクシテ労働者ノ物質上ノ境遇ハ何等改善セララル事ナクシテ獨リ危險ノミ増シ行クニ至ル。蓋シ獨立獨行ノ可能性ハ小企業ヨリ大企業ニ遷ルニ從ヒ益々減少シ行クモノナレハナリ。

若シ夫レ已ニ労働者ト企業家トノ間ニ存スル利害ノ衝突ニ至リテハ責任法ニ基ク訴訟ニヨリテ尙ホ一層激烈ヲ加ヘン。而シテカクノ如キ訴訟ニ於テ長キ論争ノ後假令労働者又ハソノ相續人カ勝訴トナルトスルモカクノ如キハ少クトモ災害發生ノ場合ニ於ケル労働者ノ保護ヲシテ迅速且安全ナラシムル所以ニアラサリシナリ。

改善ノ必要ナル事ハ萬人固ヨリ之ヲ知ル。然レトモ如何ナル道ヲ

選フヘキカノ問題ニ逢着シテハ各人ノ意見ハ遂ニ一致スル所ヲ知ラサリシナリ。

第二節 第二期(帝國労働保險法制定マテ)

ビスマルクノ編纂ニカカリ獨逸帝國社會政策ノ「マグナ・カルタ」トモ稱スヘキ一八八一年十一月一日ノ皇帝ウキルヘルム一世ノ勅書ハ次ノ如キ方針ヲ發表セリ。曰ク

「既ニ今年二月朕ハ社會問題ニ關スル朕ノ確信ヲ發表セシメタリ。即チ社會的障礙ノ除去ハ專ラ社會民主的運動ヲ抑壓スルノ方法ノミニ依ルヘカラスシテ同時ニ又労働者ノ福祉ノ積極的増進ニ之ヲ求ムヘキ事ヲ説ケリ。朕ハ議會ヲシテコノ任務ノ重大ナル事ヲ更ニ感銘セシムルヲ朕ノ義務ナリト信ス。而シテ祖國ニハ國內ノ平和ヲ新シ

ク且永續的ニ確保シ救濟ヲ要スルモノニハ更ニ一層安全ニシテ且豐富ナル補助ヲ與フル事ヲ得ンカ朕ハ天帝カ朕ノ國家ニ授ケ給ヒシコレ等ノ功蹟ヲ顧ミテ更ニ大ナル満足ヲ感セスンハアラサルヘシ。朕ハ此ノ目的到達ノ事業ニ對シテハ總テノ聯邦政府ノ同意アル事又帝國議會ハ何等ノ黨派心ヲ有スル事ナク之ニ翼賛スヘキ事ヲ信シテ疑ハサルモノナリ。

政府カ前議會ニ提出シタル勞働者傷害保險法案ハ議會ノ討論ノ結果コノ意味ニ於テ更ニ改正ノ議ニ附セラレ改メテ審議セラルルコトトナレリ。而シテ業務疾病金庫制度ノ統一の組織ニ關スル提案ハ之ヲ補充的ノモノトシテ審議セラルヘシ。然レトモ老衰及癱疾ニヨリテ所得能力ヲ失ヒタル者ニモ亦公力救濟ヲ要求スルノ權利ヲ從來ヨリ尙ホ強ク認メサルヘカラス。

斯クノ如ク保護ヲ全カラシムルニ適切ナル手段方法ハ之ヲ發見スルニ頗ル困難ナルモ然モ之レ基督教の國民生活ノ道德的基礎ニ立ツ公共團體最高ノ任務タラサルヲ得ス。若シ幸ニシテコノ國民生活ノ實力ヲ養ヒ國家ノ保護救濟ノ下ニ一致協同ノ團體ヲ作ツテコノ實力ヲ糾合スルヲ得ンカ國權ノミニヨリテハ到底果ス事能ハサルコノ任務ヲ容易ニ遂行シ得ルニ庶幾ラン。若シ果シテ斯ノ如キ方法ニヨルトスルモ目的ハ適切ナル手段ヲ選フニアラサレハ到底貫徹スル事能ハサルナリ。

上述ノ綱領ハ如何ナル具合ニ實行セラレタルヤ茲ニ少シク之ヲ説カントス。

然レトモコノ方面ニ於ケル種々ノ立法事業ノ統計ハ日尙ホ淺キ爲メ充分ナラス。爲メニ社會改良ノ大事業ヲ實行スルニツキ議院内及

ヒ議院外ニ於テ如何ナル大困難ト闘ハサル可カラサリシカラ知ラシムルニ足ラス。洵ニカクノ如キ團體保險(Massenversicherung)ハ未ダソノ例ヲ見ス。從ツテコノ事業ノ實行ニ關シテハ精密ナル統計ヲ缺キタリキ。故ニ一面ニ於テハ事實上ノ關係ヲ學問的ニ充分研究スル事ナクシテコノ顯著ナル大事業ヲ始メタル社會保險ノ創造者ニ對シテ多少ノ批難ハ免レストスルモ又他ノ一面ニ於テ彼等ノ爲政上ノ先見ノ明アルト又社會ニ對スル思慮深キ事トニ對シテハ固ヨリ最高ノ賞讃ヲ吝ム事能ハス。蓋シ何人モ今日ノ社會保險ヲ目シテ凡テノ方面ニ於テ完全ナルモノナリトナスモノハアラサルヘキモ然モ何人ト雖モ社會保險ヲ無用ナリトシテ廢止スル事ハ之ヲ眞面目ニ考慮スルモノナカルヘケレハナリ。

二三ツノ根本的改良ハ議會ニ對スル高壓手段ニヨリ九年間ノ内ニ實

行セラレタリ。余ハ或時余ノ甚タ尊敬スルアル草案起草者ト雜談ノ際此ノ改革ハ餘リニ勿急ニ過キタリト詰問セリ。蓋シ余ハ當時事ヲ始ムルニハソノ熟スルヲ待チ新シキ行動ヲ採ルニ際シテハ廣キ範圍ノ經驗ヲ集メサル可カラサル事ヲ信シ居タレハナリ。然ルニ彼答ヘテ曰クビスマルクノ手ニ依リテ全部ヲ改良シ盡サスンハ社會カ一步進ムマテニハ數代ヲ要スヘシ。カノ黨派及階級ノ利益ノ壟斷ニノミ是レ汲々タル議會ニ奈何ソ社會改革ノ大事業ヲナスノ能アラシヤト。答ヘ得テ痛切ナリト謂フヘシト。之レシユモトラト(Schmoller)氏ノ傳フル所ナリ(經濟原論第二卷、一九〇四年版)。而シテ同氏カ獨逸ノ改革ヲ稱シテ「所謂資本的國民經濟改良ノ意味ニ於テ世界史上ニ一新生面ヲ開キタルモノ」トセルハ洵ニ適切ナル言ト謂フヘシ。

立法ノ沿革ノ梗概ハ次ニ之ヲ掲ケン。

- (一)一八八三年六月十五日ノ疾病保險法
- (二)一八八四年七月六日ノ工業ニ對スル傷害保險法
- (三)一八八五年五月二十八日ノ傷害及疾病保險ノ擴張ニ關スル法律
(殊ニ交通運輸業ノ方面ニ向ツテノ擴張)
- (四)一八八六年三月十五日ノ官吏及軍屬ノ傷害ノ救濟ニ關スル法律
- (五)一八八六年五月五日ノ農林業ニ従事スルモノノ傷害及疾病保險
法(一及ニニ舉ケタル法律ノ農業ノ方面ニ向ツテノ擴張)
- (六)一八八七年七月十一日ノ土木工事従業者ノ傷害保險ニ關スル法
律
- (七)一八八七年七月十三日ノ船員ソノ他航海ニ従事スルモノノ傷害
保險ニ關スル法律
- (八)一八八九年六月二十二日ノ癱疾及老衰保險ニ關スル法律

コノ最後ノ法律ハ激烈ナル論争ノ結果政府ニヨリテ實行セラレ其
ノ後直チニ從來ノ法律ノ改革事業開始セラレタリ。即チ次ノ如シ。

- (九)一八九二年四月十日ノ疾病保險法(一八八三年法律草案ノ修正)
- (十)一八八九年七月十三日ノ疾病保險法
- (十一)疾病保險法ノ改正ニ關スル一九〇〇年六月三十日ノ法律
- (十二)傷害保險法ノ改正ニ關スル一九〇〇年六月三十日ノ法律(傷害
保險ニ關スル舊法律ノ類聚)
- (十三)一九〇〇年六月三十日ノ俘虜ノ傷害ノ救濟ニ關スル法律
- (十四)一九〇一年六月十八日ノ官吏及軍屬ノ傷害ノ救濟ニ關スル法
律(一九〇六年五月三十一日ノ軍人年金法(Militärpensionsgesetz)ニヨリテ一
部廢止セラレ)
- (十五)疾病保險法ノ改正ニ關スル一九〇三年五月二十五日ノ法律

尙ホコノ外鑛夫組合制度ニ關スル各聯邦ノ法律(例ヘハ一八六五年ノ鑛業法ノ改正ニ關スル一九〇六年六月十九日ノプロシヤ法、一九〇九年二月十二日ノザクセン法等)工場法ノ改正ニ關スル一八九七年七月二十六日ノ法律(同職組合疾病金庫ニ關シテ)ソノ他聯邦ノ數多ノ施行法及ヒ法律實施ニ關スル規定、帝國ト外國トノ間ノ國際條約等アリ。各法律ハ絶エス被保險者ノ範圍ヲ擴メ給付額ヲ増加シ管理機關ヲ完備シ豫防ヲ完全ナラシムルニ努力セリ。此等ノ改革運動ハ一九〇一年七月十九日帝國勞働保險法ノ制定ト共ニ一段落ヲ告ケタリ。後一九一一年十二月二十日ニコノ法律ニ更ニ使用人保險法ヲ追加セラレタリ。

第三節 第三期(帝國勞働保險法時代)

我獨逸ノ先見ノ明アル經濟學者ハ夙ニ我カ社會保險ノ實行ニ際シテ全問題ヲ統一的ニ規定スル事ヲ唱道シタルカ一八九五年ノ冬ニ至ツテハ既ニ種々ノ保險ヲ融合統一スルノ氣運一般ニ認めラレタリ。一八九五年帝國保險院ノ最初ノ院長トシテ令名アリシベジケル博士ノ案ニ成レル統一法案カ内務省ニ於テ審査セラレタリ。當時ノ提案ノ中心點ハ廢疾保險ニ於ケル保險料徵集ノ形式タル切符制度ヲ廢止スルニアリタリ。又他ノ提案ノ要點ハ傷害、廢疾及養老年金等諸種ノ年金保險ノ合併、疾病保險ノ分離、過剩資本蒐集ノ廢止手續ノ簡略、費用ノ節減等ニアリキ。

コノ間ニモ社會保險法ノ統一又ハ少クトモソノ簡易ヲ目的トスル提案次第ニ多キヲ加ヘタリ。

扱テ如何ナル方法ニヨリテ此ノ目的達セララルヘキヤ困難ナル問題

ナルモ幸ヒ一九〇四年末ニ埃匈國政府ノ公ニセル社會保險改良ニ關スル綱領ナルモノニヨリテ問題解決ノ端緒ヲ得タリ。

カクノ如ク改良運動相次イテ起リタリシカ途ニ立法者ノ手ニヨリテ勞働保險事項ノ訴訟手續及審級組織ノ變更ニ關スル基礎確立セラレ一九〇八年五月五日ニ各聯邦政府ニ通牒セラレタリ。而シテ之カ一九〇八年十月下旬ノ數度ノ會議ニ現ハルルヤ多クノ利害關係方面ヨリ盛ナル批評ヲ受ケタリ。斯クシテ集メラレタル材料ニ基キテ一九〇九年一月中ニ脱稿シタル帝國勞働保險法草案成リ後多少ノ修正ヲ加ヘ一九〇九年四月二日ニ聯邦議會ニ提出シ又公表セラレタリ。是ニ於テ又盛ナル批評論難ヲ受ケツノ結果大修正加ヘラレ一九〇九年三月十二日ニ至リテ新草案帝國議會ニ提出セラレタリ。次イテ一九一〇年四月十八日ヨリ二十日マテノ第一審査委員會ノ議ニ附セラ

レタル後一九一〇年五月ヨリ翌年四月ニ亘ル委員會ニ廻附セラレ次テ一九一一年五月ニ開カレタル全院委員會ニ附議セラレ五月三十日遂ニ大多數ノ投票ニヨリ可決セラレルニ至レリ。斯クテ法律ノ公布セラレタルハ實ニ一九一一年七月十九日ナリトス(一九一一年八月一日ノ官報第四十二號五百九頁以下參照)。

帝國勞働保險法ハ千八百五條ヨリ成リ之ヲ六編ニ分ツ。第一編ハ帝國勞働保險ノ範圍、保險擔當者、執行官廳其他ニツキテノ一般的规定及ヒ法律上ノ救濟期間送達、手数料、定義等ノ一般的规定ヲ含ム。第二編ハ疾病保險、第三編ハ傷害保險、第四編ハ廢疾及遺族保險、第五編ハ保險擔當者相互間及ヒ保險擔當者ト他ノ義務者トノ關係、第六編ハ訴訟手續即チ審判手續ノ確定、特別手續等ヲ規定ス。此ノ改良的立法カ如何ナル傾向ヲ有スルヤハ次ニ掲クル草案理由書ノ序言ニ於テ明ニ之

ヲ知ル事ヲ得ヘシ。

一八八一年十一月十七日ノ勅書ニ指示セラレタル平和的事業ノ價值及ヒ意義ハ假令社會保險改正ノ議提案セラルルモ爲メニ何等減スル所ナシ。

論難攻撃ハ事業自體又ハソノ基本觀念ニ加ヘラレタルモノニアラス。此ノ草案ハ缺點ノ數多ク又ソレ自身トシテ見ル時ハ重大ナルモ全體ノ範圍及ヒ效果ニ對シテハ大ナル影響ナキカ如キ缺點ハ之ヲ補正スルニ吝ナルモノニアラス。

斯ノ如キ缺點ハ之ヲ避クルコト能ハサリキ。蓋シ皇帝ノ勅書ニアルカ如キ立法ノ任務ハソノ新シキカ爲メト範圍大ナルカ爲メトニ依リテソノ缺點ハ必然的ニ生スルモノナレハナリ。而シテ一時ニ重要ナル材料ヲ蒐集スルハ事頗ル難クタタ一部分ノ材料ヲ漸次

ニ集ムルコトヲ得ルニ過キサカ故ニ彌コノ缺點ハ多キヲ數フルニ至ル。斯ノ如キ痕跡ハ今日ニ於テモ尙之ヲ認ムル事ヲ得ヘシ。加之獨逸ノ社會保險ノ實施以來國民生活ニ對シ特ニ經濟上甚大ナル變化ヲ與ヘタルカ爲メ國民生活狀態ト密接ノ關係アル社會的救濟モ亦從ツテ變化セサルヲ得ス。若シ社會的立法ニシテ社會生活ト必要ナル接觸ヲ維持セントセハ立法事業モソノ變化ニ追隨セサル可カラス。同様ニ工業ノ方面ニ於テモ亦然リ。即チ工場法カ行ハレテヨリ數多ノ變化ヲ經驗シ來リ又今日尙ホ絶エス經驗シツツアルカ此等ノ變化ハ根本規定ノ缺點ヲ示スモノニアラスシテ寧ロ國民生活ノアラユル方面ニ於ケル急速不斷ノ變遷ヲ反映スルモノニ過キサカナリ。

固ヨリ獨逸ノ労働保險ハ更ニ完成ヲ加フル事ヲ要シタリ。

社會保險ノ利益ヲ之ニ關係アル階級ニ出來得ル限り速ニ享樂セシメントノ希望ハ容易ニ壓服スル事能ハサル困難ノ多キ爲メニ一頓挫ヲ來スニ至レリ。殊ニ疾病保險ノ方面ニ於テハ各人獨特ノ事情ハ彼等ヲシテ平等ニ被保險者ノ列ニ入ル事ヲ妨ケ爲メニアラユル階級ヲ網羅スル事能ハサリシカ此種ノ差別的待遇ハ之ヲ永續スルヲ許サス。特ニ主トシテ立法及ヒ其ノ實施ニ對シ同種ノ救濟ヲ爲スヲ妨ケタレハナリ。而シテカノ困難ハ依然トシテ存在ス。而モ依然トシテ大ナリ。然レトモコノ障礙ニ對シテハ之ヲ征服スル事ヲ試ミサル可カラス。本草案ハ實ニ之ヲ以テソノ主タル任務トナス。

更ニ社會的立法ノ目的タル大問題ニシテ今日マテ未タ着手セラレサルモノ尙ホニアリ。即チ被保險者自身ニ對シテハ其ノ疾病傷

害癡疾及老衰ノ場合ニ救濟策アレトモソノ遺族ニ關シテハ之ヲ保護スヘキ策ナキ事之レナリ。

既存ノモノノ改良ト未成ノ部分ノ完成トハ手ヲ携ヘテ進マサル可カラス。コノ兩者ハ相互關係ニ立ツモノニシテ之ヲ分離センカ遂ニ全功ヲ奏スルヲ得サルニ至ラン。

コノ法律發布セラルルヤ改革ノ餘リニ急激ナル事ヲ批難スルモノアリシカ立法者ハソノ當ラサル事ヲ辯護セリ。ソノ謂フ所ニ從ヘハ現情ハ正ニ先見ト制限トノ必要ヲ戒告ス。而シテ本保險參加者ノ給付能力及ヒ給付意思ノ如キハ強ク之ヲ要求スヘカラサルナリ。サレハ改革ヲシテ數年ヲ滯ラシメサラシカ爲メ熟セサル問題ハ之ヲ延期シタリ。ソノ結果永年抱懷シタル希望ノ斥ケラレタルモノ多々アルヘクソレ自身トシテハ尤モナル要求モ希望通りノ程度ニ満足セラ

レサリシモノ亦多カルヘシ。何レニセヨ法律ニヨリテ改良セラレタル範圍ハ社會ノ福祉増進ノ行程ニ於ケル重要ナル一進歩ヲ指示スルモノナリ。

要スルニ帝國勞働保險法ハ被保險者ノ範圍ヲ擴大シ遺族保險(寡婦保險及ヒ孤兒保險)ノ制度ヲ採用シ關係官廳ノ組織ヲ變更シ從來疾病保險ニ於テ特ニ最モ紛糾錯雜セル訴訟手續ヲ簡略ニシ以テ判決ヲ統一スル事ヲ得シメ又同時ニ帝國保險院ノ責任ヲ輕カラシメタリ。而シテ政府カ目的トシタル改革ノ最重要ナルモノ一即チ社會保險ノ全種類ヲ管轄スヘキ保險局ヲ定メ以テ共通基礎ヲ作りタル事ハ多クノ方面ヨリ盛ニ攻撃セラレタリ。蓋シ此ノ事タルヤ偶々以テ法律審査ノ際ニ黨派政策的ノ確執ヲ事トシ一般社會政策的觀察ノ如キハ少シモ顧ミサリシ事實ヲ曝露スルモノニシテ誠ニ慨嘆ニ堪ヘサルナリ。

疾病保險ニアリテハ保險義務者ノ範圍擴張セラレタリ。殊ニ農林業ニ従事スル勞働者、企業従事員、都會及地方ノ雇人、不定ノ勞働者、巡回工業者、家内工業従事者、藥劑師ノ助手及ヒ見習劇場及ヒオーケストラ所屬員、教師及ヒ教員等ニ保險義務ヲ及シタリ。而シテ市町村ニヨル疾病保險ハ廢止セラレ又少クトモ疾病金庫ノ數ヲ減スル爲メ特殊ノ建築工事疾病金庫(Baukrankenkasse)任意補助金庫(Freie Hilfskasse)及ヒ業務疾病金庫ノ許可ハ制限セラレタリ。之ニ反シテ地方疾病金庫(Land-Krankenkasse)ノ制度新設セラレテ傭人ハ總テ之ニ屬スル事ヲ得ルニ至レリ。疾病金庫ニ對スル掛金額及ヒ管理費ニ關シテハ三分主義ニ代フルニ折半主義ヲ以テスヘキ筈ナリシカ政府ノコノ提案ハ通過セザリキ。然レトモ新ニ金庫機關ノ比例選舉制度定メラレタリ。尙金庫ト醫師トノ間ノ紛議ハ遂ニ解決セラレサリシモ使用人ノ關係ヲ法律

ヲ以テ規定セルハ甚タ意義アリト謂フヘシ。

次ニ傷害保險ハ帝國勞働保險法ニヨリテ變更セラレタル所最モ少シ。法律ハタ、保險義務アル職業團體ヲ擴張シタルニ過キス。全年金ノ五分ノ一ヲ限度トスル年金カ特定ノ期間ヲ限リテ與ヘラル、事トナリ又任意ノ傷害保險ニ加入スルノ權利カ一定ノ人的團體ニ許容セラレタリ。ソノ他年金ノ中止、年收勞銀ノ算定及ヒ同業組合ニ依ル代償ノ給與方法等ニ關スル規定ニツキテ改正行ハレ其結果同業組合ハソノ組合財産ノ運用方法ニツキ制限ヲ受クルニ至レリ。即チ少クトモソノ四分ノ一ハ之ヲ以テ帝國又ハ各聯邦ノ公債ニ應ゼサル可カラサルモノトス。尙積立金ニ關シテ同業組合カ屢々表示シタル希望ハ一部分滿サレタリ。又年金確定ノ手續ニ被保險者タル勞働者ノ關與スルコトハ同業組合之ヲ欲セサリシカ故ニ法律ハ之ヲ禁止シタリ。

廢疾保險ニアリテハ帝國勞働保險法ハ保險義務者及ヒ保險權利者ノ範圍ヲ擴大セリ。即チ劇場及ヒオーケストラ所屬員ハ保險ヲ強制セラレ帝國及ヒ各聯邦ノ官命ニリテ外國ニ滞在スル獨逸國人ハ之ニ加入セルモノト定メラル。又二人以内ノ勞働者ヲ使用スル小事業主ニ強制保險ノ範圍ヲ及ホシ得ル事聯邦政府ノ權限トセラレタレトモ此事家内工業者ニ及ハサリシハ誠ニ遺憾ナリ。次ニ保險義務ノ免除ニ關シテモ變更アリ。更ニ又治療ニ關スル新規定ハ誠ニ適切ナリト稱スヘシ。ソノ他改善ト見ルヘキ數多ノ變更ハ年金中止、掛金手續等ニ於テ之ヲ見タリ。尙ホ中産階級ヲモ包含スヘキ社會保險制定ノ希望ハ任意ノ附帶保險制度 (Zusatzversicherung) ヲ規定スル事ニヨリテ之ヲ達セン事ヲ計リタリ。保險義務者及ヒ保險權利者ニシテ若シ此種附帶保險ニ加入セント欲セハ一馬克ヲ下ラサル附帶切符ヲ受取證書ニ

貼付スル事ヲ得。附帶年金ハ廢疾狀態ノ存續期間中支給セララルヘキモノトス。

扱テ更ニ遺族保險ナルモノカ廢疾及ヒ老衰保險ト共ニ帝國勞働保險法ノ同一編中ニ編入セラレタルカ爲メ從來ノ法典ニ對シテ大變更ヲ必要トスルニ至レリ。

既ニ勞働保險法ノ第一草案ノ理由書中一般的寡婦孤兒保險ヲ定メ法律ヲ以テ之ニ強制ヲ認ムル制度ニ關シテハ多少ノ記載存セリ。即チ一八八一年ノ上掲理由書ニ曰ク「コノ困難ヲ凌駕スル事ノ可能ナリヤ否ヤハ今日ニ於テ未タ解決スルノ氣運ニ達セス。蓋シ斯ノ如キ事項ヲ法律ニヨリテ規定スルカタメニハ專ラ工業ナル理由ノミニヨリテハ徵收スヘカラサル財源ノ存在ヲ要スルカ故ナリ」ト。ソノ後一九〇三年十二月二十五日ノ關稅法(Zolltarifgesetz)ハ諸種ノ規定ヲ設ケテ寡

婦及ヒ孤兒保險ノ實行ヲ容易ナラシムルニ努メタルカコノ規定ニヨリテ見レハ既ニ永キ以前ヨリ國家的補助ヲ受クル寡婦及ヒ孤兒保險カ眞面目ニ期望セラレタル事ヲ知ル。

上述ノ所謂 Lex Trimbornニ囑シタル期望ハ勿論實行セラレス。ソノ結果全ク別種ノ財源ニヨラサル可カラサリシ事ハ他ノ書ノ載スル所ナリ。

然レトモ又舊キ勞働保險法ニ基キテ相當ニ意義アル寡婦及ヒ孤兒保險制度ノ既ニ存在スル事實ハ之ヲ看過スル事ヲ得サルナリ。加之例ヘハプロシヤ鐵道管理局ノ如キ一八九一年以來約二十五萬人ノ履員ニ對シ寡婦及ヒ孤兒保險ヲ施行シタリ。ソノ他ノ諸管理局(殊ニバイエルンザクセン及ヒバーデン)モ亦此種ノ制度ヲ有ス。更ニ獨逸ノ坑夫組合金庫カコノ方面ニ於テナシタル所モ大ニ見ルヘキモノアリ。

最後ニ特記スヘキハ一九〇七年以來寡婦及ヒ孤兒保險ノ制度カ航海業ヲモ包含スルニ到レル事之ナリ。傷害保險法第十一條ノ施行ニ依リテ聯邦會議ノ決議ニ基キ次ノ事項ヲ航海業組合ニ許容スルヲ得ル事トナレリ。即チ本組合ノ責任ヲ以テ廢疾保險ノ制度ヲ設ケ本組合所屬ノ企業ニ從事スル勞働者及ヒ同時ニ傷害保險並ニ廢疾保險双方ニ加入セル企業主ヲ之ニ參加セシムル事之ナリ。然レトモカクノ如キ施設ハ當該被保險者ノ遺族ノ爲メニ組合カ同時ニ寡婦及ヒ孤兒保險ヲ設ケタル場合ニ於テノミ許サルヘキモノナリ。結局寡婦及ヒ孤兒保險制度ヲ一般的ニ採用スヘキヤ否ヤハ主義ノ問題ニアラスシテ單ニ費用ノ問題ニ過キサリキ。

帝國勞働保險法ハ遺族保險制度ヲ定メテ寡婦及ヒ孤兒ノ救濟ヲ計リタルモ之ヲ單ニ從來ノ廢疾及ヒ老衰保險ノ擴張ト看做シ從ツテ全

然之ニ包含セシメタリ。ソノ結果コノ救濟請求權ノ發生ハ死亡者カ廢疾年金ヲ受クルニ必要ナル條件即チ一定ノ待期ヲ經過シ且ツ期待權ヲ正當ニ保持シ來リシヤ否ヤニ繫ルモノトセラレタリ。

次ニ新法實施ノ標準ニツキテ謂ヘハ此ノ新規定ハ直チニ施行セラレ其實施ノ標準中多少疑義ヲ存スヘキモノハ總テ當局者ノ解決ニ一任セラレタリ。立法者ハ此ノ點ニ於テ敢テ簡單ナル規定ヲ設ケテ關係官廳ニ出來得ル限り自由ナル裁量ノ餘地ヲ與ヘタリ。而シテ斯ノ如キ標準ノ主ナルモノハ次ノ如シ。即チ新規ノ疾病金庫ノ設立ノ準備新シキ同業組合ノ設立手續ニ關スル法規ノ新設ニヨリテ必要トナレル諸種官廳ノ變革等之ナリ。一九一二年一月一日ヨリ帝國勞働保險法第四編廢疾及ヒ遺族保險ニ關スル諸規定ハソノ施行ニ要スル變更ヲ加ヘテ實施セラレタリ。新法ノ他ノ規定ニ至リテハ聯邦會議ノ

同意ヲ以テ發布セラルル勅令ニヨリ實施ノ時期確定セラルヘシ(恐ラク一九一三年ナルヘキカ)。

第四節 使用人保險法

使用人保險(Angestelltenversicherung)制度ノ確立ハ社會保險ノ方面ニ於ケル一新時期ヲ劃スルモノナリ。社會保險ナルモノハ初メハ無產者階級ノ物質的境遇ヲ改善スルノ一手段ト考ヘラレタリシカコノ使用人保險制定セラルルニ及ンテハ中產階級ノ生計ハ一層向上スルニ至ルヘキコト期待セラル。最近マテ社會保險ノ範圍ヲ以テ殆ト專ラ賃銀労働者階級ニ局限シ從ツテ社會保險ヲ稱シテ労働保險(Arbeiterversicherung)トナシタルハ固ヨリ適當ナリシモ今ヤ之ニ根本的ノ大變更加ヘラレタリ。吾人ハソノ政治的、經濟的、倫理的及ヒ心理的結果ニ關シ

テ正ニ慎重ナル考慮ヲ費スヲ要ス。從來吾人ハ生命ニ關スル種々ノ危険ナル出來事ニ對シテハ先ツ労働者ヲ保護スル事ヲ努メ來レリ。然ルニ埃太利ニ於テハ労働者ニ老衰及ヒ癱疾ノ救濟ヲ與フルニ先チテ政治上最モ勢力アル中產階級ニ對スル社會保險ヲ創設シタリ。是レ蓋シ政治上及ヒ財政上ノ原因ニ基クモノト稱スヘキナリ。カク、如キ性質ヲ有スル法律トシテ最初ニ現ハレタルハ公私ノ業務ニ服スル使用人ノ年金保險ニ關スル一九〇六年十二月十六日ノ埃太利法ニシテ正ニ此種立法ノ一新紀元ヲ劃スルモノト稱スヘク實ニ又一九一一年十二月二十日ノ獨逸使用人保險法ノ母法ナリ。從ツテ其發達ト本質トハヤカテ又帝國法ニ對スル前提條件タルヘキナリ。

上掲ノ埃太利法カ普通私的使用人階級ト稱セララル一團ノ人々ヲ保護セントスル傾向ヲ示セルハ實ニ疑フヘカラサル顯著ノ事實ナリ。

而シテ此種階級ノ特色トシテ同國官憲ノ手ニ成リ一九〇六年ノ法律變更ヲ主張セル一著作ノ言明スル所ヲ聽クニ大體左ノ數項ヲ舉クルヲ得ヘシ。

(一)過激主義ヲ遵奉スル事

(二)同階級ヲ組織シテ一定ノ秩序ヲ與ヘントスル努力ハ諸種ノ困難ニヨリテ成功セサル事

(三)同階級ニハ其首領トノ間ニ親密ナル關係存シ鞏固ナル協同ヲ現示スト雖モ同時ニ國家及ヒ其ノ保護ニ對シテハ充分之ヲ信賴シ以テ今日ニ到レル事。

等即チ事ナリ。

前書ノ更ニ敘フル所ニ從ヘハ埃太利ノ特殊ノ政治狀態ニ於テハ同階級ハソノ數及ヒ經濟上ノ意義ノ増加ト共ニ又絶エス政治上ノ地位

ノ向上シ來リシカ尙ホ將來益々重要ヲ加フルニ至ルヘシ。サレハ埃太利ノ穩健ナル社會政策主唱者間ニ於テハ實ニ次ノ如キ意見ノ抱懷セラルルヲ見ルナリ。曰ク「一度新ナル社會問題ヲ根本的ニ解決スヘキ要求カ日程ニ出現スルノ日ハヤカテコノ階級カ天秤ノ指針標タルノ時ナルヤ必セリ。且ツ今日ニ於テモコノ階級カ國家及ヒ其現行秩序維持ノ支柱ニシテ又物質文明ノ中心タル事疑ナキ所ナリ」ト。

之レ埃太利政府ノ見解ニシテ政府ハコノ私的使用人中中産階級ニ屬スル一部ニ無産化及ヒ過激主義ノ危險迫リツツアルモノト確信セラルカ故ニコノ階級ノ爲メニ特ニ保險制度ヲ施設シ以テ忠實ニシテ満足セル眞個ノ中堅國民ヲ得ン事ヲ期望セルナリ。

然レトモコノ埃太利法ハ使用人ヲモ立法者ヲモ満足セシメサリキ。既ニ屢々上ニ掲ケタル年金保險法修正記録ニ於テ保險ニ關スル上級

官吏ハ實ニ次ノ如ク謂ヘリ。即チ「コノ保險法ニ包含スル難解欠缺不明矛盾等ノ欠點ハ忽チ曝露セラレ之カ修正ハ目下ノ急務ナリトス」ト。我獨逸ノ立法者ハ明ニ模範ヲコノ奧太利法ニ採リタルニモ拘ラス多クノ著シキ變更ヲ加ヘタルヲ見ル。先ツ第一ニ法典ノ編成ニ於テ然リ。奧太利法ハ單ニ九十五個條ヲ收ムルニ反シ我法ニ於テハ條文數實ニ三百九十九ヲ算ス。ソノ他被保險者ノ範圍ニ關シテ規定ヲ設ケ及ヒ奧太利法カ最大限ヲ定メサルニ反シ五〇〇〇馬克ノ保險限界ヲ設ケタル等皆改善ト稱スヘシ。然レトモ使用人及ヒ事業主ニ對スル負擔分配ニ關シテハ何レカ勝レルカ疑アリ。蓋シ奧太利法ニアリテハ下級ノ四賃銀階級ニ於テ使用人ハ三分ノ一事業主ハ三分ノ二ヲ負擔シ上級ノ賃銀階級ニ至リテ初メテ我國ト同シク折半主義ヲ採レルナリ。タ、遺憾ナルハ保險擔當者ノ組織ニ關シテ奧太利ノ夫レト

同様ノ規定ヲナシタル事之ナリ。奧太利法ニテハ癱疾及ヒ老衰保險ヲ認メサルカ故ニ特別ノ年金支給所(Pensionsanstalt)ヲ採用セサル可カラサリシナリ。然レトモ若シ我國ニ於ケルト同様ニ地方保險所(Landesversicherungsanstalten)及ヒ帝國保險院(Reichsversicherungsamts)存在セハ決シテ斯ノ如キ方法ヲ採ラザリシナルヘシ。而シテ斯ル手續ヲ採用セル法因ハ之ヲ稍詳細ニ觀察スル時ハ直チニ其非ナル所以ヲ知ラシムルニ到ラン。

惟フニ一九一一年七月十九日ノ帝國勞働保險法ニヨリテ社會保險ヲ簡易ナラシメントノ要求ハ上掲ノ方面ニ於テ一部分満足セラレタレトモ同時ニ他方ニ於テ社會保險ヲシテ紛糾錯雜セシメタリトノ譏ヲ免レス。蓋シ使用人保險ハ追加保險トシテ社會保險ニ加ヘラレタルモノナルカ故ニ數千人カ同時ニ新設ノ使用人保險ト舊來ノ癱疾保

險トニ加入シ得ル事トナリ癱疾保險ニ加入セル使用者(即チ使用者階級ノ大多數者ニシテ全員二百二十五萬人中約百二十五萬人ヲ算ス)ハ七十歳ニ達シ或ハ癱疾者トナリシ場合ニ於テ年金ヲ得ルノミナラス滿六十五歳ニ達シ又ハ職業上ノ原因ニ基ク癱疾者トナリシ場合ニハ使用者保險ニヨリテ保險金ノ給付ヲ受クル事トナルヘシ。多數ノ人ハコノ兩保險ニ加入スルノミナラス又疾病及ヒ傷害保險ノ利益ヲモ受ク。而シテ上述ノ四保險ハ夫々擔當者ヲ異ニスルカ故ニ此等異種ノ保險擔當者及ヒ所屬官廳ノ間ニ立チテ事件ヲ何レニヨリテ定ムヘキカハ多クノ裁判官及ヒ辯護士ノ困難トスル所ナルヘク又カクノ如キハ新制度ニ對シテ一般國民ノ聲望ヲ得シムル所以ニアラサルナリ。尙一九一一年ノ初期ニ現ハレタル獨逸ノ草案ハ一九〇七年及ヒ一九〇八年ノ内務省ノ記録ニ基キテ起草セラレタルモノナルカ之ハ帝國

議會ノ協賛ヲ經テ一九一一年十二月二十日ニ發布セラレタル法律ト同シク次ノ如キ諸編ヲ包含セリ。即チ保險ノ範圍、保險ノ客體、保險擔當者、裁判所及ヒ上級裁判所、給付ノ填補ソノ他ノ手續規定之ナリ。

更ニ本法ニ對シテハ諸種ノ論難行ハレタリ。固ヨリ黨派ノ利益ヲ顧慮スルノ餘リ社會政策ノ重大ナル使命ヲ沒却スルカ如キ唾棄スヘキ批評ハ姑ク之ヲ措クモ使用者保險ヲ老衰保險及ヒ癱疾保險ノ一部トシテ之ニ編入スル事ナク徒ニ紛糾セル組織ヲ採用セルカ如キ將タ又比較的多額ノ保險料ニ對シテ保險金額ノ割合少ク技術的基礎不充分ニシテ且ツ使用者ニ對シテ更ニ意義アル年金金庫並ニ保險契約ニ充分注意ヲ拂ハサリシ事ノ如キハ攻撃ノ主要點ト謂フヘク辯護セント欲スル者ノ正ニ熟慮スヘキ所トス。

第五節 外國ニ於ケル沿革

抑モ現代ニ於ケル社會保險發達ノ沿革ヲ充分ニ明ニセントセハ相當價值アル外國ノ法律ヲモ亦參看セサルヘカラス。之レ敢テ茲ニ外國ニ於ケル沿革ト題シテ叙說セント欲スル所以ナリ。

(一) 埃太利。

先ツ我先驅ニ倣ヘルモノハ埃太利ナリ。同國ニ於テハ一八八七年十二月二十八日強制傷害保險制定セラレ後一八八八年三月三十日ニ至リテ強制疾病保險追加セラレタリ(コノ兩法ニ對シテ一八八九年四月四日及ヒ一八九四年七月二十日ノ兩度ニ於テ多少ノ修正ヲ加ヘタリ)。後一八八九年七月二十八日ノ法律ニヨリ鑛山從業者ニ關スル強制廢疾保險ノ規定アリ。更ニ最近ニ至リ一般的ノ老衰及ヒ廢疾保險

制度ヲ設クルノ計畫ヲ以テ諸種ノ研究着手セラレ又同時ニ勞働保險法ヲ統一セン事ヲ企圖シツツアリ。

又一九〇六年十二月十六日ノ法律ニヨリテ使用人ニ對スル年金保險ノ制ヲ設ケタルカ是レ全ク新規定ニ屬シ之ニ依リテ初メテ從來ノ勞働保險ハ中産階級ニマテ及フ事トナレリ。コノ法律ハ細末ノ點ニ於テ缺點アリ。早晚改正セララルヘキモノナリ。

(二) 洪牙利

洪牙利ニ於テハ一八九一年ノ強制疾病保險、一九〇七年ノ一般傷害保險ヲ有シ又既ニ數十年前ヨリ鑛山從業者ノ廢疾保險ニ關スル規定ヲ有ス。

(三) 瑞西

同國ニ於テハ一八九九年ノ國民議會及ヒ階級議會ノ同意ヲ經タル

強制傷害保險法案ハ一九〇〇年ノ國民投票ニ於テ否決セラレタルカ後政府カ有機的ニ疾病保險ト傷害保險トヲ併合シソノ他重要ナル變更ヲ加ヘテ出シタル新提案ハ一九一二年二月國民投票ニ於テ可決セラレタリ。又同國特有ノモノニ軍屬保險法ナルモノアリ。

(四)佛蘭西

佛蘭西ニ於テハ一八九四年六月二十九日ノ法律ニヨリ坑夫ニ對スル疾病保險ノ強制ヲ規定シタリ。後一九一〇年四月五日ノ法律ニヨリ獨逸法ニ倣ヒテ義務的老衰保險ヲ定メタルカ將來之ニ癡疾保險ヲ追加セントシツツアリ。然レトモ事實上コノ老衰保險法ノ施行ハ勞働者側ノ激烈ナル反對ヲ蒙レリ。尙傷害保險ニツイテハ一八九八年ヨリ一九〇七年ニ亘リテ數多ノ法律發布セラレタルカ之レタタ一部分狹義ノ勞働保險ノ性質ヲ帶フルニ過キス。

(五)白耳義

一九〇三年十二月二十九日佛法ニ倣ヒテ強制傷害保險制度ヲ定メタリ。但シ未タ立法事業ソノ緒ニツキタルニ過キス。

(六)西班牙

一九〇〇年一月三十日ノ法律ニヨリ強制傷害保險ヲ規定シ佛法ニ則レリ。

(七)希臘

一九〇一年二月二十一日同様ノ規定ヲ設ケタリ。

(八)伊太利

上掲(五)乃至(七)ノ諸國ハ規定未タ大ニ見ルヘキモノナキニ反シ伊國ニ於テハ既ニ一八九八年三月十七日ノ傷害保險法ニヨリ強制保險ノ制度ヲ採用セリ。コノ法律ハ後一九〇四年一月三十一日ニ至リテ改

正セラレタリ。尙同國ハ一九一二年ニ至リテ生命保險ヲ國家ノ經營ニ移シ以テ社會保險ノ普及ヲ計レリ、

(九)和蘭

一九〇一年一月二日ノ法律ニヨリ(一九〇二年及ヒ一九〇八年ニ擴張セラレタリ)傷害保險ヲ規定ス。

(一〇)ルクセンブルグ

一九〇一年七月三十一日、一九〇八年四月二十一日及ヒ一九〇九年十二月二十日ノ法律ニヨリ強制疾病保險ヲ、一九〇二年四月五日、一九〇八年四月二十一日及ヒ一九〇九年十二月二十日ノ法律ニヨリ強制傷害保險ヲ規定シタリ。

(一一)丁抹

一九〇五年四月一日ヨリ船員ニ對スル強制傷害保險一九〇八年五

月二十七日ヨリ農業ニ對スル強制傷害保險ノ制度存在ス。

(一二)諾威

一九〇九年九月十八日ノ法律ニヨリ疾病保險ノ強制ヲ認め一八九四年七月二十三日ヨリ強制傷害保險法行ハル(一九〇六年六月十二日及ヒ一九〇八年六月三十日ノ改正一九〇八年八月八日ヨリ特別ノ漁夫保險アリ)。

(一三)フィンランド

一八九五年十二月五日ヨリ強制傷害保險法船員ニ對シテハ一九〇一年一月二十三日ヨリ規定サル。

(一四)瑞典

一九〇一年七月五日ヨリ強制傷害保險法實施セララル。

(一五)英吉利

義務的傷害及ヒ癱疾保險ノ制度ハ一九一一年十二月十六日ノ國民保險法ニヨリテ確定セラレタリ。又全國ニ行ハルル強制失業保險存在スルモ現時ニ於テハ未タ一定種類ノ職業ニ限ラレタリ。然ルニ傷害救済ノ方面ニ於テハ責任法施行セラレテ勞働者ノ保險ヲ全然私設ノ傷害保險ニ委シツツアリ。尙英國ニ於テ企業家ノ責任ヲ擴張シテ勞働者ノ業務上ノ疾病ニ及ホシタルハ甚タ注目ニ値ス。

(一六)其他ノ諸國殊ニ濠洲及ヒ新西蘭

諸種ノ強制保險ノ計畫ハ他ノ歐洲諸國ニ於テ盛ニ行ハレ近時ニ於テハ太平洋ヲ越エテ英國ノ廣大ナル植民地北米合衆國及ヒ南米ノ諸國ニマテモ傳播スルニ至レリ。

此ノ中濠洲及ヒ新西蘭ニツキテハ特ニ注目ヲ要ス。但シ其然ル所以ハ此等ノ國カ今日マテ本來ノ社會保險ノ方面ニ於テ遂行シタル活

動如何ニヨルニアラス。タタ新西蘭ニ於テハ一八九九年以來而シテ全濠洲聯邦ニ對シテハ一九一〇年一般人民救済法規定セラレ其ノ效果ヲ見ルニ稍ヤ我カ老衰及ヒ癱疾保險ニ對應スルモノアルカ故ナリ。ソノ組織ヨリ見レハ勿論純粹ノ保險制度トナスヲ得ス。寧ロ一面ニ掛金ノ義務ナク又他ノ一面ニ於テ何等確定的ノ請求權ナキカ故ニ保險ト貧民救済トノ中間ニ位スルモノト云フヘク丁抹、アイスラント及ヒ佛蘭西ノ養老制度又ハ英吉利ノ養老年金法ニ類スルモノナリ。

上述ノ如ク強制的ノ社會保險ハ未タ大ニ認めラレスト雖モ多數文明國ハ少タトモ疾病及ヒ傷害保險ニ關スル任意保險ノ制度ヲ有ス。然レトモ我獨逸ノ癱疾保險ニ相當スヘキモノニ到リテハ尙未タ外國ニ於テ之ヲ見出ス事ヲ得サルナリ。

最後ニ強制保險ノ思想ノ普及ニ與ツテ力アリシハ國際勞働保險會

議之レナリ。同會議ハ一八八九年以來二年又ハ三年毎ニ開カルルヲ常トセリ。之ト相連絡シテ活動スルモノニ各國ノ國際社會保險委員會アリ。

第六節 經濟上ノ意義

社會保險ノ經濟上ノ意義ニツキテハ社會保險ノ目的ヲ説キタル際既ニ多少之ニ觸レタリ。本節ニ於テハ之ヲ更ニ詳述セント欲ス。社會保險ノ效果ハ既ニ上來述ヘタルカ如ク直接ト間接トニ分ツ事ヲ得ヘシ。

直接ニハ第一ニ勞働者及ヒ之ニ近キ階級ノ物質上ノ地位ヲ向上及ヒ保全スルニアリ。即チ之ヲ統計ニ徵スルニ一八八五年ヨリ一九一〇年末ニ到ル期間内ニ勞働者ニ支拂ヒタル保險金額ハ約八十億馬克

ニ達セリ。而シテ勞働者カ自力ニテ出捐セル額ハ其ノ半ハニモ達セス。實ニ彼等ハコノ期間ニ支拂ヒタル金額ヨリモ五十億馬克以上餘分ニ受取リタルナリ。今日獨逸ニテ日々支拂フ保險金額ハ殆ト二億萬馬克ニ及フ。是レ勞働者ノ收入ノ増加セル事ヲ示スモノナリ。然レトモ勞銀ノ増加ハ實ニ此種ノモノニ止マラス更ニ他ノ方面ニ於テモ著シキヲ見ルナリ。

例ヘハ工業的同業組合ニ於ケル一被保險者ノ賃銀ハ一八八六年ニ六百二十四馬克ナリシニ比シ一九〇九年ニハ九百七十二馬克ニ増加セリ。然レトモ其ノ實質的意義ヲ知ラント欲セハ此間ニ於ケル生活費ノ増大セル事ハ固ヨリ考慮セサルヘカラス。

次ニ勞働者ノ物質上ノ地位向上ハヤカテ衛生状態ノ改善ヲ招來シタリ。茲ニ特筆スヘキハ廢疾保險制度ノ結果トシテ七十一ノ肺療院

建設セラレ又一九一〇年末ニ至ルマテニ三億六千二百萬馬克以上ヲ費シテ勞働者ノ住宅ヲ建築シ低率ノ賃借料ヲ以テ之ヲ貸出シタリ。更ニ勞働者階級ニ對シテ道徳上精神上好影響ヲ與ヘタルハ疑ナキ所ナリ。蓋シ不名譽ナル貧民救濟ノ保護ヲ受クルト疾病傷害癆疾老衰ノ際ニ保險金ノ請求權アリトノ自覺ヲ抱クトハソノ人生觀ニ及ホス影響ニ大ナル差異アレハナリ。從來ノ貧民救濟ト異リ年金ノ受領ニ際シテハ勞働者ハ選舉權ヲ行使スルノ權利ヲ有シソノ完全ナル獨立ト自尊トヲ保障セラル。尙勞働保險規定殊ニ廣キ範圍ニ於テ保險ノ組織ニ際シ許容セラレタル自治法ニヨリテ勞働者モ亦保險ノ裁判及ヒ監督ニ關與スルノ權利ヲ附與セラレタルハ看過スル事ヲ得サルナリ。而シテ是等義務保險ノ實施カ貧民救濟ノ全組織ニ對シテ重大ナル影響ヲ與ヘタルハ當然ノ事ト云フヘク實ニ多クノ場合ニ於テ從

來ノ貧民救濟ノ應急策ヲ不必要ナラシメタリ。且ツ從來ノ意味ニ於ケル貧困ノ發生ヲ妨クルノミナラス貧民救濟ノ衝ニ當ル人カソノタメニ負ヒシ甚大ナル負擔ヲ除去又ハ輕減セシメタリ。蓋シ保險ニアリテハ有力ナル組合ニ財源徵收ノ任ヲ負ハシメ從來勞働者ニ與ヘツツアリシ貧民救濟ノ代リニ多クノ場合ニ於テ一定ノ收入ヲ要求スルノ權利ヲ與フルト同時ニ又被保險者ニハ自ラ出捐ヲナスヘキ事ヲ命シテ以テ負擔ノ均等ヲ計リシカ故ナリ。カク社會保險ニヨリテ貧民救濟ノ負擔ヲ輕減セシメタルニ拘ハラス尙ホ細民ハ絶エス増加ス。然レトモコノ現象ハ次ノ如キツアーン(Nathan)氏ノ言ニ依リテ容易ニ説明シ得ヘシ。曰ク文明ノ發達ニヨリテ一難問解決セラレタリト見ル間ニ又一難問生ス。即チ文明ノ進歩ニ伴ヒテ不斷ニ新シキ問題ノ提出セララルルヲ見ル。貧民救濟ハコノ理ニ依リテ新任務ヲ課セラレタ

ルナリ(中略)貧苦ニ窮シツツアル者ノタメニスル應急救濟策ニ代リテ現時ノ健全ナル社會發達ヲ目的トスル窮迫豫防策顯ハレタルナリト(一九一〇年ノ海牙社會保險會議ニ於ケル演說ニヨル)。若シ社會保險ナルモノナカラシカ恐ラク細民ノ數更ニ多キヲ加フルニ至ラン。

尙社會保險ハ雇主ニ利益アリ。蓋シ物質上健康上及ヒ道德上向上シタル勞働者ハ多クノ場合ニ於テ從來ニ比シ勞働心ニ富ムカ故ニ其勞働ノ質及ヒ量ハ改善セラルヘケレハナリ。

然レトモ又勿論社會保險ハ勞働者階級ニ惡影響ヲ與フルコトナシト斷スヘカラス。殊ニ保險制度過度ニ普及スルニ至ラハ勞働者ヲシテ自立ノ心ヲ失ヒ國家ノ助力ニ依頼スルノ念慮ヲ助長セシメ尙恐ルヘキハ詐欺ニヨリテ保險金ヲ得ントスルノ餘リ所謂「年金ヒステリー」ナル現象ヲ見ルニ至ラシムルコト之ナリ。而シテ又コノ結果企業家

ニ對シテモ不利益ヲ醸スニ至ラン。尙今日時トシテ主張セラルルカ如ク社會保險制度ハ國民經濟上決シテ斯ル弊害ヲ生スル事ナシトスルモ此ノ制度ヲ謳歌スル官廳出版物ノ稱スルカ如ク果シテ此ノ爲メニ費シタル勞力カ國民經濟上充分ニ報イラルヤ又實際上良好ナル效果アリヤニ至リテハ未タ確證ナキカ故ニ之ヲ信スル事能ハサルナリ。固ヨリ社會保險ヲ實行スルニヨリテ貧民救濟ノ負擔ヲ除去シ勞働者ノ能率ヲ高メ國民經濟上重要ナル目的ヲ達セシメ又國防力ヲモ強ムル事疑ナキ所ナルモ一方コノ保險制度ヲ採用スルニヨリテ獨逸ノ生産カ外國ノ夫ニ比シ過重ノ負擔ニ苦シムノ結果ヲ齎ス事ナキヤ。勿論多クノ場合ニ於テハ企業家カコノ負擔ヲ除去スルヤ疑ナシ。然レトモ社會保險制度ニ要シタル費用ノ所謂再生産力ノ存否及ヒ其程度ニ至リテハ特別ノ研究ニ俟テ初メテ異論ナク之ヲ證明シ得ヘシ。

上來余ノ指摘セル缺點ハ相對的比較的ノモノタルカ故ニ他ノ諸國カ我國ト同シ程度ニ社會保險ヲ採用スルニ至ラハ自ラ消滅ニ歸スヘキナリ。

尙經濟上ノ意義ノ比較的少ナキモノニ保險加入權ナルモノアリ。之ハ強制保險ニ結合セル任意ノ保險加入權ニシテ諸種ノ方面ニ於テ存在ス。或ハ強制ニ服セサル人ノ加入ニ關シ或ハ強制保險ニ定メラレタル期間經過後ノ保險ノ繼續ニ關シ更ニ高額ノ填補ヲ得ルカタメノ保險等ニ關シテ存在スルモノナリ。

吾人ノ經驗ニ依レハ社會保險ハタタ強制アルカ故ニ相當ノ成績ヲ舉クル事ヲ得ルモノニシテ任意加入制度ヲ設クル範圍甚タ狹シ。又國家カ任意ノ保險加入ヲ獎勵スルモ其ノ加入者ノ掛金ニ對シテ國家ノ補助アラサル限りハソノ效ナキモノト謂ハサルヘカラス

第三章 社會保險ノ組織及ヒ普及

第一節 獨逸ニ於ケル組織概觀

社會保險ノ目的ニシテ立法ニヨリテ實行スル事能ハサリシ一思想アリ。ソノ然リシ所以ハ獨逸ノ立法者カソレニ關シテ理論上征服スヘカラサル困難ノ存スル事ヲ發見シタルカ爲メニアラスシテ全ク黨派政策ノ理由ニ基ク。ビスマルク公ハ全體ニ亘ル改革ヲソノママ直チニ實行セントスルコトナク先ツ量多ケレハ質惡シ(Qu. trop embrause mal etroit)ナル原則ニ從ヒ將來建ツヘキ建物ノ爲メニ豫メ基礎ヲ確立スル事ニ努ムルヲ以テ策ノ勝レルモノトナスト主張セリ。又曰ク「若シ帝國政府ニシテ社會ノ組織改良ノ全計畫ヲ同時ニ實行セント試ミシカ社會ノ各階級ハ目前ノ任務ノ餘リニ大ナルカ爲メニ驚愕シ反對

ノ矢ヲ放ツニ至ラン。故ニ社會改革ノ道ハ一步々々進マサルヘカラ
スト。

吾人ハ社會保險ニ對スル單一ノ立法ナク又一個ノ統一の組織ナク
タタ數多ノ組織カ多種多樣ニ錯雜スルニ至リシ事及ヒ労働保險ノ諸
種ノ部門互ニ分離獨立シ從ツテ非經濟的ニ相分立セル事ハソノ罪ヲ
政治的黨派ノ現狀ニ歸セサルヲ得ス。新帝國労働保險法ハ我カ立法
ノ此ノ根本的缺點ヲ補フ事能ハス。使用人保險法モ亦政策上ノ判斷
ヲ誤リテ此ノ缺點ヲ一層重大ナラシムルニ過キサリキ。

此ノ事實ハ社會保險ヲ説明スルニ當リテ先ツ認メサルヘカラス。
サレハ保險ノ個々ノ部門ハ分離シテ研究スヘク社會保險ノ組織全體
ヲ系統的ニ概觀スルハタタ狭キ範圍ニ於テナスヲ得ルニ過キス。茲
ニハ先ツ一般的ノ諒解ヲ目的トスルニ止メ特別ナル研究ハ更ニ第二

編ニ之ヲ讓ラン。

本來被保險者カ所得不能ニ陥リタル場合ニ於ケルソノ經濟上ノ不
利益ヲ除去スル事ヲ目的トスルモノナル事ハ各部門ニ共通ナル點ナ
リ。然レトモ如何ナル場合ニ於テモ之カ保障ノミヲ目的トシ又ハ如
何ナル場合ニ於テモ之ヲ與フルモノナリト謂フ事ヲ得ス。

疾病保險及ヒ傷害保險ニアリテハ疾病及ヒ傷害ニ依リ所得能力ニ
障害ヲ來シタル場合ニ收入ヲ維持増加セシメ、コノ障害ノ存續期間適
當ノ療養ヲ與フル事ヲ保障スルヲ目的トス。

廢疾保險ハ労働者カ所得不能ニ陥リタル事ヲ證明シ且ツ帝國法ニ
依ル傷害保險ニ基キテ填補セラレサル總テノ場合ニソノ年齢ノ如何
ニ拘ハラス救濟ヲ與フル事ヲ目的トナス。

老衰保險ハ労働者一定ノ年齢ニ達シタル時所得不能ノ證明ヲ要セ

スシテ救済ヲ與フル事ヲ目的トス。蓋シ一般社會見解上高齢者ハ多クノ場合多少取得能力ヲ制限セラルト見ルカ故ナリ。

使用人保險ハ使用人ノ方面ニ於テ癱疾及ヒ老衰保險ノ目的ヲ合一シ同時ニ之ト遺族保險トヲ結合セルモノナリ。

遺族保險ハ労働者ノ寡婦及ヒ孤兒ノタメニ帝國保險法ニヨリテ設ケラレタルモノナリ。

同一人カ總テ上掲ノ保險ニ加入シ得ルニアラス。主トシテ財政上ノ理由ニ基キ被保險者ノ範圍ニハ自ラ一定ノ制限設ケラレタリ。但シ各種ノ保險毎ニ必スシモ其ノ制限ノ標準同一ニアラサルハ亦勿論ナリ。

若シ吾人カー一九一〇年ニ獨逸人口ハ六千四百萬人以上ヲ算シソノ中約千七百萬ノ労働者アリ而シテ人口中約千四百萬人ハ疾病保險

ニ千六百萬ノ癱疾及ヒ老衰保險ニ二千四百萬人ハ傷害保險ニ加入セル事ヲ悟ラハ労働者其他舊社會保險ニ加入セル階級ハ總テ保險ノ個々ノ部門ニ包含セラルルモノナル事ノ證明ヲ得ン。從ツテ労働者ノ約五分ノ四ハ總テノ保險ノ部門ニ加入スルノ利益ヲ得ツツアリト謂フヲ得ヘキナリ。

又從來社會保險ヲ稱シテ労働保險トナシタルモ之レ労働者以外ノモノ殊ニ労働者階級ニ近接セル他ノ階級ヲ含マストノ謂ニアラス。企業従事員職工長ノ類及ヒ小企業者ノ如キ之ニ加入スル事ヲ得ルモノタリ。又他方ニ於テハ労働者タリトモ必シモ總テ被保險者タルモノニアラス。又將來ニ於テモ除外例アリ得ルナリ。反之國籍及ヒ男女ノ性ノ如何ハ原則トシテ保險ニ影響ナシ。獨逸人タルト外國人タルト又男タルト女タルトヲ問ハス皆平等ニ保險ノ利益ヲ受ク。更

年齢スラ原則トシテハ顧慮スルヲ要セサル事ヲ注意セサルヘカラス。保險ノ各部門ニ共通ナル點ハ強制加入者ト任意加入者トノ區別ヲ設クル事之レナリ。而シテ又強制加入者ノ間ニ於テモ直接ニ帝國法ノ規定ニ依リテ加入セル者ト先ツ地方法又ハ官廳ノ命令ニ依リテ加入セル者トノ區別ヲ設ク。

被保險者ノ階級ニ關シテハ上述ノ如ク保險ノ各部門ニ通スル同一性アリ。而シテ保險擔當者ニツキテモ亦同シ。

原則トシテ強制金庫タル性質ヲ有スル點ハ共通ナリ。單ニ加入ニ就キテ強制存スルノミニアラス。又ソノ如何ナル機關ニ加入スヘキカニツキテモ強制行ハル。即チ労働者、使用人等ハ法律ニ依リ單ニ一般的ニ加入スヘキノミナラス又法律ニ依リテ特定ノ金庫ニ加入スル事ヲ要ス。更ニ諸種ノ保險機關ニ共通ナル點ハ機關ハ主トシテ自治

體ニシテ企業家ト労働者又ハソノ他ノ使用人ハ合意シテ團體ヲ作り之ニ特ニ財政上管理ヲ委ヌル事ニ在リ。

次ニ保險擔當者ノ各自異ルト同シク又ソノ給付モ種々アリ。然レトモタダ給付ノ範圍ハ法律ニ依リテ嚴格ニ規定セラレ而シテ金錢支拂ヲ以テ原則トスルノ點ハ總テ相同シ。尙又保險機關ノ總テノ給付ハ契約ニヨリテ制限廢止又ハ拋棄スル事ヲ得ス。一般ニ讓渡ヲ禁止セラレ又アル範圍ニ於テ質權ノ目的トナス事ヲ得ス。又社會保險ノ給付ハ貧民救濟ノ給付ト異リ其ノ利益ヲ享受スル被保險者ニ對シテ貧民救濟ニ於ケル如キ選舉權喪失等ノ法律上ノ不利益ヲ被ラシムル事ナシ。

保險ノ各部門ハ相互ニ分離ストハ謂ヘ相排除スルモノニアラス。一方ニ於テ疾病、傷害、廢疾及ヒ老衰ノ間ニ密接ナル關係アリ。他方ニ

於テ帝國勞働保險ノ意味ニ於ケル勞働者ト使用人保險法ノ意味ニ於ケル使用人トノ間ニ離スヘカラサル關係アルカ故ニ同一原因ニ基キテ諸種ノ救濟ヲ生スルノ結果ヲ來ス。又一方ニ於テ保險法ハ完備セルモノニアラサルカ故ニ一個ノ救濟ヲ以テシテハ所得能力喪失ノアラユル場合ヲ包含スル事能ハサルヘキ場合モ數多考ヘラルヘキナリ。同一人カ同一原因ニヨリ所得能力ヲ喪失シテ傷害及ヒ癱疾ノ兩保險ノ利益ヲ受クル事アリ。例ヘハ業務上ノ傷害ヲ受ケ繼續的ノ所得能力喪失ヲ來ス場合ノ如シ。又疾病保險ノ保護ヲ受ケツツアル罹病勞働者或ハ癱疾保險ノ利益ヲ蒙リツツアル癱疾者ニ對シ業務上ノ傷害ヲ生スルカ如キ場合モ考ヘ得ヘクカクノ如キ際ニハ疾病保險ト傷害保險又ハ疾病保險ト癱疾保險トノ競合ヲ生ス。是ニ於テカ各保險擔當者相互ノ關係ヲ規定スルノ必要アリトス。

獨逸ノ立法者ハ例ヘハ次ノ如キ方法ニ依リテ二重保險ヲ廢止セン事ヲ企テタリ。即チ疾病保險ノ保護ノ下ニ立ツ罹病勞働者カ若シ業務上ノ傷害ヲ受ケタル場合ニハ原則トシテ疾病保險ノ給付完了ノ時ニ初メテ傷害保險ニ依ル給付ヲ受クル事ヲ得ト定メタリ。又此弊ヲ除去センカ爲メニハ更ニ他ノ方法ニ依レリ。即チ例ヘハ傷害保險機關ノ義務ヲ或ル範圍ニ於テ疾病保險ニ移轉スル事ノ如シ。此種ノ外ニ尙法律ハ病者看護ノ引受ヲ傷害保險擔當者ニ認メ又治療手當ノ實行ニツキテハ癱疾保險擔當者ト使用人保險擔當者トノ間ニ抵觸ヲ生スル事ナシトセス。此等數多ノ例ハ保險ノ各部門カ互ニ相競合スルモノナル事ヲ知ラシムルニ足ラン。因是觀之余ハ我社會保險ハ更ニ一層大ナル統一ノ下ニ立タサルヘカラサルヲ確信セント欲ス。更ニ財源ハ調達ニアリテモ保險ノ各部門ハ互ニ一致ノ點ヲ有スル

事尠シ。蓋シ財源ハ傷害保險ニアリテハ全部。老衰、廢疾及ヒ遺族並ニ使用人保險ニアリテハ二分ノ一。疾病保險ニアリテハ三分ノ一ハ之ヲ事業主ニ求メサルヘカラス。從ツテ被保險者ハ傷害保險ニ於テハ少クトモ直接ニハ何等ノ拂込ヲナス事ナク、老衰、廢疾、遺族並ニ使用人保險ニ於テハ二分ノ一、疾病保險ニ於テハ三分ノ二ノ金錢拂込ヲナスヲ以テ足ル。加之老衰、廢疾及ヒ遺族保險ノ各年金ニ對シテハ國家ノ補助金アリ。但シ使用人保險ニツキテハ此事ナシ。

尙保險給付ヲ受クルカ爲メノ必要條件ニツキテハ根本的ノ差異存ス。即チ疾病保險ニ於テハ勞働不能ヲ主トシ傷害保險ニ於テハ所得不能、廢疾保險ニアリテハ廢疾、又ハ滿七十歳ニ達シタル事、使用人保險ニアリテハ從業不能、又ハ滿六十五歳ニ達シタル事ヲ必要トス。又保險料徴收ノ方法即チ保險技術上ノ手續ニ於テ大ナル差別アリ。例ヘ

ハ賦課式保險料制度(Umlageverfahren)自然保險料制度(Kapitaldeckungsverfahren)及ヒ平均保險料制度(Premienverfahren)等ノ如シ。

官廳ハ總テノ保險擔當者ニ對シ之ヲ監督スル權利ヲ有ス。特ニソノ法律上及ヒ定款上ノ規定カ遵守セララルヤ否ヤヲ監視シ罰則ヲ制定、執行シテソノ遵守ヲ強制ス。又官廳ハ議事録、書類、帳簿等ヲ検査シ金庫ヲ檢閲スルノ職權ヲ有ス。監督機關タル官廳ノ主ナルモノ次ノ如シ。

(一)内務省

(二)保險局

(三)帝國保險院

(四)地方保險院

(五)各省大臣

事業ノ管理業務ノ執行ニツキテハ保險ノ各部門ニ共通ナル點甚タ少シ。ソノ主タル共通點ヲ舉クレハ

(一)保險擔當者ヲ名譽職、ナス事ハ今日ニ於テハ統一的ニ規定セラレタル事、

(二)事業主及ヒ被保險者ノ代表者ハ爾來比例選舉ノ原則ニ依リテ選出スル事。

(三)保險擔當者選舉ニツキテハ女子モ選舉人又ハ被選舉人タル資格ヲ有スル事。但シ女子ハ保險官廳ニ選任セラルル事ナシ。

(四)財産ノ基礎及ヒソノ利用ノ統一セラレタル事。

(五)保險擔當者監督ノ統一セラレタル事。國家官廳ハ保險擔當者ニ對シテモ保險官廳ト同シク法律上ノ補助ヲ與フ。

(六)期間送達禁止罰則ニツキテハ規定統一セラレタル事。

帝國社會保險ノ各部門ニ於テハ今後酒癖者ニハ全部又ハ一部分現物給付ヲナスヲ得ル事トナレリ。之ハ當該救貧組合又ハ其住所地方市町村役場ノ申請ニ基キテ給付ス。又酒癖矯正所ニ收容スル事モナシ得ヘシ。又帝國勞働保險法ニ依レハソノ場所ニ行ハルル普通ノ日傭人ノ日給ヲ以テ地方貸銀トナス。上級保險局ハ之ヲ男女十六歳以下ノ者、十六歳乃至二十一歳ノ者及ヒ二十一歳以上ノ者等夫々ノ被保險者ニツキテ定ム。但シ從業地トハ事實上業務ノ執行セラルル場所ヲ謂フ。又醫師及ヒ齒科醫師ノ治療トハ免許醫師及ヒ免許齒科醫師ノ治療ノ意ナリ。他ノ者例ヘハ看護人、助産婦、若クハ齒科技術者等ノ助力ハ醫師若クハ齒科醫師ノ要求ニ依リ又ハ應急手當ヲ要シ醫師又ハ齒科醫師ヲ呼フ事能ハサル場合ニ限り許サル。

更ニ又社會保險ノ各部門ニ共通ナルハ係争事件ニ審級制度ヲ採用

セル事及ヒ保險官廳ニ於ケル裁判手續ノ無料ナル事之ナリ。辯護人ヲ訴訟代理人トナスヘキ強制ハ訴訟手續ノ如何ナル場合ニモ存在セス。然レトモ被保險者ハ勿論代理人ヲ用フル事ヲ妨ケス。辯護人ニ對スル報酬ハ勅令ニ依リ増加スル事ヲ得サル一定率ヲ定メラレタリ。今日マテ社會保險ノ改良ヲ論シタル主ナル著書ニ依レハソノ記載千差萬別ナレトモ共通的基础ヲ確立スル事ヲ要求スルニ於テハ皆同シ。政府ノ公ニセル草案ハ専門ノ官吏即チ所謂保險局員ヲ有スル獨立ノ保險局ヲ設クヘキ事ヲ記載セリ。然レトモ之ニ對シテハ特ニ激烈ナル反對アリ。蓋シ勞働者及ヒ企業家ハ斯ノ如キ組織ノ爲メニ莫大ノ費用ヲ要シ然モ官僚政治ニヨリテ自治ノ範圍ヲ狭メラルル事ヲ虞レタレハナリ。

何レニセヨ重要ナル場合ニハ下級審ヲ共通ニスルノ思想ハ共通的

審級制度ト共ニ實行セララル事トナレリ。社會保險ノ官廳トシテハ爾後保險局 (Versicherungsamts) 保險監督局 (Oberversicherungsamts) 帝國保險院 (Reichsversicherungamt) 及ヒ地方保險院 (Landesversicherungsmts) 之ニ當ル事トナリタリ。

保險局ハ決シテ獨立ノ官廳ニアラス。寧ロ下級行政官廳ノ勞働保險ノ一課トシテ設ケラレタルモノナリ。タタ唯一ノ保險監督局ヲ有スルニ過キササル聯邦ニ於テハ獨立ノ官廳トシテ之ヲ設クル事ヲ得。ソノ局長トシテハ下級行政官廳ノ長官例ヘハ郡長警察部長市長等任命セララル。尙ホ一名若クハ數名ノ常任局長代理人ヲ任命スル事ヲ得。而シテ代理人ハ勞働保險ノ方面ニツキテ基本的知識ト經驗トヲ有シコノ任ニ適スル者ナル事ヲ要ス。保險局員トシテハ少クトモ十二名ノ保險代表者ヲ選任ス。之ハ比例選舉ノ原則ニ依リ企業者及ヒ被保

險者ヨリ選出ス。此等ノ保險局員ハ從來特ニ疾病保險ノ目的ノ爲メニ用ヒラレタル數多ノ司法及ヒ行政官廳ノ職務ヲ執行スル事トナリソノ費用ハ國庫及ヒ公共團體ノ資金ヨリ填補セラレ。局員ハ多種多樣ナル任務ヲ果ササルヘカラス。今之ヲ列舉スレハ社會保險事項ノ通知、保險代表者選舉ノ指揮、疾病金庫及ヒ其組合ノ監督、コノ金庫ノ外部組織ノ決定ニ參與スル事、金庫ノ役人ノ認可、患者規則ノ裁可、係爭事件及ヒ抗辯ノ判決之ハ疾病保險ニ限ラス他ノ二保險ニ於テモ亦然リ等ナリ。尙傷害ノ發生原因ノ取調ニモ參與シ同業組合ニ企業ノ通告ヲ爲スヲ助ケ技術上ノ監督官吏トナリ癆疾及ヒ遺族保險ニ於ケル申請、抗辯及ヒ係爭事件ノ裁決ヲナシ年金給否ノ決定ヲ與ヘ其他諸種ノ職務ニ携ル。

保險局ノ上ニハ保險監督局アリ。以テ廣義ノ勞働者階級ノ勞働保

險ニツキテノ從來ノ裁判所ニ代ル。之ハ原則トシテ上級行政官廳ノ管轄區域ニ對シテソノ官廳ノ一部トシテ若クハ獨立ノ官廳トシテ設ケラレタルモノニシテ疾病金庫ノ上級監督官廳及ヒ疾病金庫係爭事件ノ控訴審タリ。

第三審ニシテ終審タルハ帝國保險院ナリ。今後ハ疾病保險ニ關スル重要事件ニツキテモ亦然リトス。之ト相並ヒテ地方保險院ナルモノアリ。從來ニ比シ大ナル管轄權認メラレタリ。

總テノ審級ヲ通シテ審判ニハ局外者參與ス。之ハ保險局ニ就キテノ説明ノ際論及シタル如ク平等選舉ニヨリテ選出セラレ保險監督局ニアリテハ陪審員トシテ參與シ帝國保險院又ハ地方保險院ニアリテハ常任ニアラサル參審員タリ。上掲ノ三官廳ハ同シク監督權、管理權及ヒ司法權ヲ有スルカ故ニ一ヲ以テ他ヲ律スル事可能ナリトス。コ

ノ中司法權ハ又總テノ審級ニ於テ判決ト決定トニ分レ又之ハ審級ニ依リテ異リタル名稱ヲ有ス。即チ保險局ニアリテハ *Beschluss und Spruch-anusschluss* 保險監督局ニアリテハ *Beschluss und Spruchkammer* 帝國保險院及ヒ地方保險院ニアリテハ *Beschluss und Spruchsenat* ト謂フ。

決定手續ハ法律カ明文ヲ以テ判決手續ヲ行フヘキ事ヲ規定セサル場合ニ總テ行ハル。特ニ判決手續ハ被保險者ノ請求權(給付ノ存否ナルカ)ソノ額ナルカラ問ハスニ關シテ行ハル。ソノ他保險擔當者又ハ第三者カ被保險者ノ請求權ノ爲メ蒙リタル損害ノ賠償請求權ニ就テモ亦然リ。之ニ反シテ決定手續ハ如何ナル場合ニ爲スヘキカニ關シテハ一々之ヲ列舉スルコト頗ル困難ナルモノ、ソノ主ナルモノハ保險擔當者相互間又ハ保險擔當者ト被保險者若クハ企業家トノ間ノ係争事件ノ場合ナリトス。又保險擔當者ノ行政法上ノ問題ニ就キテモ亦然

リ。其他保險義務ノ確立、保險義務ノ免除、疾病金庫ノ開始或ハ閉鎖、企業ニ對スル保險擔當者ノ管轄、保險擔當者ノ定款、服務規定ノ認可等モ亦決定手續ニ依リテ定メラル。

次ニコノ手續ハ保險官廳ニ於テ如何ニ進行スルカ又裁決及ヒ命令ハ如何ニ之ヲ爲スヘキカニツキテハ規定頗ル統一ヲ缺ク。法律モタタ保險官廳ノ聯合ニツキ一部分ノ規定ヲ設ケタルニ過キス。

大多數ノ民衆ニ對シ又辯護士ニ對シ實際上ノ意義遙ニ大ナルハ決定手續ヨリモ判決手續ナリトス。然レトモ判決モ亦保險ノ各部門毎ニ異リタル規定ニ從フ。其結果請求權ノ主張ニ關シテハ一部分甚々相反スル規定ノ行ハルルヲ見ルナリ。

帝國保險院ハ一八八四年ニ設立セテレタル帝國社會保險最高ノ審級ニシテ立法、行政、統轄及ヒ司法ノ活動ヲナス。

帝國保險院ハ院長一名、主事二名、議長二十三名、常任委員四十名、一時補助員九名之ニ加ハル。及ヒ陪席判事及ヒ補助陪席判事九十九名ヨリ成ル。聯邦會議、企業家及ヒ被保險者ハ各代表者ヲ選ヒテ之ニ出席セシム。

又本院ハ最高行政官廳トシテ同業組合ノ監督、即チ定款ノ検査及ヒ認可、業務執行ノ監督、危險率ノ検査、災害豫防規定ノ發布、財政状態ノ監督ヲ行フ。次ニ最高司法官廳トシテ行政訴訟ノ裁決ヲナス。然レトモ主トシテ抗告ノ上訴審トシテ活動ス。尙ホ施行細則ノ發布ノ權アリ。

帝國保險院ノ裁決ハ七名ノ部員議長一名、聯邦選出者一名、常任委員一名、陪席判事二名、企業家及ヒ被保險者ノ代表者各一名ヨリ成ル。判決部並ニ五名ノ部員ヲ有スル決定部ニヨリテ行ハル。裁判ノ統

一ヲ計ル爲メ別ニ十一名乃至十三名ヨリ成ル一部アリ。

帝國保險院ノ事務ハ一部分地方保險院ノ爲メニ制限ヲ受ク。地方保險院ハ從來バイエルン、ザクセン、ウエルテンベルヒ、バーデン、ヘッセン、メクレンブルク、グ及ヒロイスニ存在セリ。

外國ノ立法トノ關係ニツキテハ共通規定アリ。以下之ヲ略述セン。他國カ我帝國社會保險ニ相當スル救護制度ヲ設ケタル場合ニハ一國ヨリ他國ノ領域ニ跨ル企業ニ對シ、又一時他國ノ領域内ニ從業スル被保險者ニ對シテ如何ナル範圍ニ於テ帝國勞働保險法又ハ他國ノ救護規定カ適用セララルヤノ問題ニ關シテ帝國宰相ハ聯邦會議ノ同意ヲ經、相互主義ノ保障ノ下ニ他國ト協定スル事ヲ得。又同様ニ平等ニ外國ノ臣民ノ保險ハ我帝國勞働保險法ノ規定ノ適用ヲ受ケス、一國ノ救護ノ實行ハ他國ノ領域ニ於テハ手控ヘラルル事アルヘキ事ノ協定

ヲナスヲ得。之レ彼我ノ均衡ヲ計リタルモノナリ。コノ協定ニ於テハ企業家ノ出捐義務ハ輕減又ハ免除スル事ヲ許サス。此等ノ規定ハ帝國社會保險ニ代ル他ノ救濟制度ニ就テモ同様ニ行ハル。

上來一般獨逸社會保險ノ組織ヲ概觀シタルカ、次ニハ各個ノ保險ノ部門ニツキ更ニ獨立ノ觀察ヲ爲スノ要アルヲ見ル。而シテ又各個ノ部門ニツキテモ尙ホ特ニ次ノ諸點ヲ詳細ニ研究スルノ要アルナリ。

- (一) 被保險者
- (二) 保險擔當者
- (三) 保險ノ給付
- (四) 財源ノ調達
- (五) 事業ノ管理

此等ノ項目ニ就キテハ各論ニ於テ之ヲ論セントス。

第二節 外國ニ於ケル組織概觀

外國ノ社會保險ニ就テハ次ノ三制度ニ之ヲ別ツコトヲ得ヘシ。

- (一) 任意保險制度
- (二) 混合保險制度
- (三) 強制保險制度

一、任意保險制度

此制度ハ私營保險所ニ加入スル事又ハ私營保險所ヲ設置スル事カ勞働者及ヒ企業家ノ任意ニ委セラルルモノニシテ何等強制ヲ必要トセス。今日ニ於テハ北米合衆國之ヲ採ル。各人ハ疾病、傷害、廢疾又ハ老衰ノ場合ニハ自ラ自己ノ爲メ、家族ノ爲メ、救濟ヲ講セサルヘカラス。コノ方面ニ於テハ職業、本籍又ハ宗教ヲ標準トシテ結合スル勞働者ノ

金庫施設多數ニ存在ス。此等ニ於テハ保險ノ目的トシテ救濟セラルル場合ハ上掲ノ外向數種アリ。例ヘハ機械保險、同盟罷工ノ際ニ於ケル救濟保險、失業保險等是ナリ。一方企業家モ私營保險ニ加入シ其勞働者ニ生シタル事故ニ依リテ自己カ負擔スヘキ責任危險ヲ填補セントス。

二、混合保險制度

此制度ハ保險權利ト保險義務ト何レヲ採用スルカヲ各人ノ任意ニ委シタルモノニシテ私的擔當者ト公的擔當者ト共ニ之ニ與ル。

此制度ヲ採用スルハ佛蘭西ト伊太利ナリ。今次ニソノ一斑ヲ説カントス。

(一)佛蘭西法

同法ハソノ名稱ニ從ヘハ勞働者ノ業務傷害ニ對スル責任保險ナル

モ實際ハ尙傷害ニ對スル損害賠償ノ方法ヲ規定シ並ニコノ目的到達ヲ容易ナラシメンカ爲メ勞働者ニ對シテ賠償責任アル企業家又ハ保險所ノ支拂不能ヲ防護セン爲メ國庫ニ依ル擔保財產ノ規定ヲ設ケタリ。コノ保險ニハ企業家ハ法律ニ依リ直接ニ義務ヲ負フ事ナシ。企業家ハ寧ロ自力填補(自己保險ト稱スルハ誤ナリ)ノ方法ヲ採ル事ヲ得ヘシ。然レトモ法定責任ノ規定ハ間接ニ大多數ノ佛蘭西企業家ヲシテ保險所ニ於テ保險契約ヲ締結スルノ方面ニ赴カシメタリ。斯ノ如キ保險所トシテハ株式會社、相互會社及ヒ國立傷害救濟金庫等並存ス。然レトモ私營保險トシテ認可セララルルハ現行法ノ規定ニ從フモノニ限ル。尙企業家ハ保證組合ニ加入スルノ權利アリ。コノ組合ハ少クトモ十名ノ企業家ヨリ成リ全體ニテ千名以上ノ勞働者之ニ從業スルモノニシテ國家ノ認可ヲ要シソノ監督ノ下ニ立ツ。

(二)伊太利法

伊太利ノ傷害保險モ混合保險制度ニ算シ得ヘシ。同保險ハ寧ロ第三ノ制度ニ近シ。蓋シ伊太利法ハ強制的保險ハ之ヲ認ムルモ強制組織ヲ認メサルカ故ナリ。即チ企業家ハ傷害保險ニ加入セサルヘカラス。然レトモ如何ナル種類ノ保險機關ヲ選フヘキヤハソノ任意トス。佛蘭西ニ於テハ事情當然ノ性質ニヨリ法律ノ明文ノ規定ヲ俟タスシテ企業家ハ勞働者傷害保險ニ加入スルニ反シ伊太利法ハ之ヲ強制的ニ規定ス。然レトモ保險機關ノ選擇ニ關シテハ兩國相同シ。

三、強制保險制度

國法ニ依リテ定メラレシ保險擔當者ヲ包含スル我獨逸強制保險制度即チ狹義ノ社會保險法ハ固ヨリソノ個々ノ點ニ於テ多クノ異リタル種類ニ別タル。前ニモ述ヘタルカ如ク最近マテハ如何ナル外國モ

其社會保險ニ就キ我國ノ夫レト類似ノ範圍ヲ有スルモノ一モナカリシナリ。殊ニ獨逸ノ癘疾及ヒ老衰保險ハ今日マテハタタ一九一三年ノ佛蘭西法及ヒ一九一一年ノ英吉利法カソノ一部分ヲ模倣シタルニ過キス。其他外國ノ採用シタル疾病及傷害保險ニアリテモソノ被保險者及ヒ保險ノ給付ノ範圍ハ又狹シ。

曩ニモ述ヘタル如ク強制ノ性質ヲ有スル包括的疾病保險ハ獨逸ノ外ニハ奧太利、洪牙利、ルクセンブルグ、和蘭、瑞典、諾威ニ行ハルルニ過キス。此等ノ諸國ニ於テモ保險ノ給付ノ範圍ハ我國ノ夫レニ比シテ甚タ狹シ。タタ英國法ハ數點ニ於テ我法ヨリ稍々擴張セラレタルノミ。強制傷害保險制度ハ獨逸以外諸外國多ク之ヲ採用ス。奧太利、ルクセンブルグ、和蘭、瑞典、諾威、丁抹伊太利及ヒフィンランド是ナリ。然レトモ此等諸國ニ於テモ我國ノ如ク廣キ範圍ヲ包含スルモノナシ。例

へハ農林業者及ヒ船員ハ外國ノ法律ニヨリテハ保險セラルルヲ常トセス。前述ノ組織強制ハ伊太利ノミナラス、和蘭、瑞典及ヒフィンランド之ヲ缺ク。組織強制ヲ有スル三外國ハ地域ニ依ル管轄ノ制度ヲ實行シタリ。殊ニ諾威及ヒルクセンブルグニ於テハ完全ナル集中主義ヲ採レリ。然レトモ諾威ハ帝國社會保險所ヲ設ケ、全土ヲ管轄シ而シテ專ラ國家ノ經營ニ委シタルニ反シ、同シク全土ヲ包括スルルクセンブルグノ保險所ハ國家ノ監督ノ下ニ立ツ企業家ノ相互主義ニ基ク。之ニ反シ、埃太利ハ多數ノ保險所ヲ設置シ、原則トシテ之ヲ各王領ニ配置シタリ。此保險所ハ企業家ノ相互主義ニ依リ職業ノ如何ヲ問ハス王領内ニテ營マルル企業ノ全部ヲ包含セシム。我獨逸ニアリテハ後述ノ如ク、此等ノ組織トハ異リタル同業組合的分類法ヲ採用セリ。遺族保險ハ未タ外國ニハ行ハレス。使用人保險ハタタ埃太利ニ存

スルノミ。

要之社會保險ナルモノハ如何ニ統一の見解ニ缺クル所アルカ、又目的到達ヲ最モ容易ナラシムル手段方法ハ國ヲ異ニスルニ依リテ如何ニ相違アルカヲ知ルニ足ラン。

第三節 統計

次ニ掲クル統計ハ「労働保險概況」及ヒ「社會的施設トシテノ獨逸労働保險第二卷統計ノ部」ニ據リ帝國保險院ノ報告書ニ依リテ之ヲ補修シタルモノナリ。

一 労働保險加入者ノ範圍

〔第一表〕

年 度	總 人 口	被 保 險 者		
		(一) 疾病保險	(二) 傷害保險	(三) 癡疾保險
一八八五年	四六、七〇七、〇〇〇	四、六七〇、九五九	三、二五一、〇〇〇	
一八八六年	四七、一三四、〇〇〇	四、九四四、二一二	三、八二一、〇〇〇	
一八八七年	四七、六三〇、〇〇〇	五、二二〇、七八二	四、一二一、〇〇〇	
一八八八年	四八、一六八、〇〇〇	五、七九〇、四三一	一〇、三五三、〇〇〇	
一八八九年	四八、七一七、〇〇〇	六、五五七、三三六	一三、三七四、〇〇〇	
一八九〇年	四九、二四一、〇〇〇	七、〇一八、四八三	一三、六八〇、〇〇〇	
一八九一年	四九、七六二、〇〇〇	七、三四二、九五八	一六、五一五、〇〇〇	一一、四九〇、二〇〇
一八九二年	五〇、二六六、〇〇〇	七、四二七、六九九	一六、五一四、〇〇〇	一一、六五〇、四〇〇
一八九三年	五〇、七五七、〇〇〇	七、五七四、九四二	一六、六一八、〇〇〇	一一、八一二、八〇〇
一八九四年	五一、三三九、〇〇〇	七、七五六、六八六	一六、六九一、〇〇〇	一一、九七七、五〇〇
一八九五年	五二、〇〇一、〇〇〇	八、〇〇五、七七七	一六、八九九、〇〇〇	一二、一四四、五〇〇
一八九六年	五二、七五三、〇〇〇	八、四四三、〇四九	一六、一〇五、〇〇〇	一二、三一三、八〇〇
一八九七年	五三、五六九、〇〇〇	八、八六五、六八五	一六、四四七、〇〇〇	一二、四八五、五〇〇

一八九八年	五四、四〇六、〇〇〇	九、三二五、七二二	一六、七四六、〇〇〇	一二、六五九、六〇〇
一八九九年	五五、二四八、〇〇〇	九、七四二、二五九	一七、一〇四、〇〇〇	一二、八三六、一〇〇
一九〇〇年	五六、〇四六、〇〇〇	一〇、一五九、一五五	一七、三九二、〇〇〇	一三、〇一五、一〇〇
一九〇一年	五六、八七四、〇〇〇	一〇、三一九、五六四	一七、三六六、〇〇〇	一三、一九六、六〇〇
一九〇二年	五七、七六七、〇〇〇	一〇、五二九、一六〇	一七、五八二、〇〇〇	一三、三八〇、六〇〇
一九〇三年	五八、六二九、〇〇〇	一〇、九〇九、二八八	一七、九六五、〇〇〇	一三、五六七、二〇〇
一九〇四年	五九、四七五、〇〇〇	一一、四一八、四四六	一八、三七六、〇〇〇	一三、七五六、四〇〇
一九〇五年	六〇、三一四、〇〇〇	一一、九〇三、七九四	一八、七四三、〇〇〇	一三、九四八、二〇〇
一九〇六年	六一、一七七、〇〇〇	一二、四五二、一八三	一九、二二七、〇〇〇	一四、一四二、七〇〇
一九〇七年	六二、〇八三、〇〇〇	一二、九四五、二四二	一九、六七二、〇〇〇	一五、〇二二、五〇〇
一九〇八年	六二、九八〇、〇〇〇	一三、一八九、五九九	二三、六九一、〇〇〇	一五、二三二、〇〇〇
一九〇九年	六三、八七九、〇〇〇	一三、四〇四、二九八	二三、七六七、〇〇〇	一五、四四四、三〇〇
一九一〇年	六四、五五一、〇〇〇	一三、九五四、九七三	二四、一五四、〇〇〇	一五、六五九、七〇〇

〔第二表〕 人口千人中被保險者次ノ如シ

第一編 總論 第三章 社會保險ノ組織及ヒ普及

	一八八五年	一八八八年	一八九一年	一八九四年	一八九七年	一九〇〇年	一九〇三年	一九〇六年	一九〇九年	一九一〇年
(一)疾病保險	100	100	148	151	166	182	186	186	210	216
(二)傷害保險	75	110	133	135	167	210	206	206	273	274
(三)癱疾及老衰保險	1	1	21	23	23	23	23	23	24	24

〔第三表〕 收入ノ爲メニ働ク勞働者(男女共)千人中被保險者數次ノ如シ(奴婢ヲ含ム)

	一八八五年	一八九五年	一九〇九年
(一)疾病保險	1	521	824
(二)傷害保險	251	1100	1480
(三)癱疾及老衰保險	1	791	952

二、保險擔當者及ヒ被保險者

〔第四表〕

	一八八五年	一八八〇年	一八九五年	一九〇〇年	一九〇五年	一九一〇年
一 般	18,971	20,766	21,557	23,697	23,868	23,009
(一)市町村金庫	4,670,959	7,018,483	8,055,797	10,159,551	11,903,794	13,954,973
疾病保險	7,014	7,606	8,059	8,160	8,045	7,972
被保險者	56,584	1,101,364	1,287,650	1,441,644	1,556,944	1,671,827
(二)地區疾病金庫	3,693	4,064	4,455	4,633	4,718	4,749
被保險者	1,534,888	2,746,035	3,450,599	4,474,765	5,637,390	6,844,940
(三)業務疾病金庫	5,473	6,044	6,584	7,384	7,679	7,886
被保險者	1,311,000	1,673,531	1,933,917	2,503,197	2,853,733	3,275,710
(四)建築疾病金庫	83	109	89	68	42	20
被保險者	13,115	29,058	26,566	20,397	25,177	26,665
(五)同職組合疾病金庫	334	448	536	586	699	802
被保險者	24,879	74,448	114,581	189,063	263,787	296,521

第一編 總論 第三章 社會保險ノ組織及ヒ普及

〔第五表〕 傷害保險

年	〔六〕補助金庫		〔七〕坑夫金庫	
	登記セラル タルモノ 被保險者	地方方法ニヨ ルモノ 被保險者	金庫 被保險者	金庫 被保險者
一八八五年	一、八〇五	七三〇、七三三	一四、七八五	三六、七六六
一八九〇年	一、八三六	八二〇、四五五	一四、六六八	四三、八九四
一八九五年	一、三三七	六七一、六六八	六〇、五四三	四〇、二七三
一九〇〇年	一、四四三	八四六、一一〇	四五、五八七	六三、八九三
一九〇五年	一、三五一	八五八、四八八	六六、九七八	七九、三二八
一九一〇年	一、五五六	九二八、六〇六	三六、一〇六	八五、五九六

〔第六表〕 癱疾保險

年	〔一〕同業組合		〔二〕執行官廳	
	組合 被保險者 企業數 人員	組合 被保險者 企業數 人員	官廳 被保險者 官廳數	官廳 被保險者 官廳數
一八八五年	五七	一、九四、九〇二	八三	二、九八、二四八
一八九〇年	一一三	五、三四、二四三	三六	二、〇七、五九〇
一八九五年	一一三	五、二四、八七〇	三九三	一、七、六九八
一九〇〇年	一一三	五、一八、九二九	四二五	一、九、九六五
一九〇五年	一一四	五、二九、六四七	五一六	一、九、三六四
一九一〇年	一一四	六、一五、九〇九	五四六	二、〇、六九四

〔第七表〕 勞働保險總體單位馬克

年	保險所	特別金庫施設	保險擔當者總數	被保險者
一八九一年	三二	八	三元	一一、四九〇、三三〇
一八九五年	三二	九	四〇	一一、四四、五二〇
一九〇〇年	三二	九	四〇	一三、〇一五、一〇〇
一九〇五年	三二	九	四〇	一三、九四八、二〇〇
一九一〇年	三二	九	四〇	一五、六五九、七〇〇

三、收入、支出、財産

〔第七表〕 勞働保險總體單位馬克

年	總收入	掛金	企業者	被保險者	國庫補助金	利子其他雜收
一八八五年	一、四七、三六三	一、三三、八〇七	一、三三、八〇七	一、三三、八〇七	一、三三、八〇七	一、三三、八〇七
一八九〇年	一、五七、七四七	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三
一八九五年	一、五七、七四七	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三
一九〇〇年	一、五七、七四七	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三
一九〇五年	一、五七、七四七	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三
一九一〇年	一、五七、七四七	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三
一八八五年ヨリ 一九一〇年マデ	一、五七、七四七	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三	一、四七、三六三

財 產	總 支 出		支 總		出 支	
	總 額		總 額		總 額	
	總 額	年 別	總 額	年 別	總 額	年 別
支 總	出 五、七九、〇一四	一八八五年	賠 償 額	二、二五九、三二一	七、〇三三、一八九	一八八五年
	支 三、一六二、三三二	一九〇〇年	疾 病 救 濟	九、〇三、九二二	六、〇三、〇二二	一九〇〇年
出	其 他	一、四九五、七二八	其 他	一、四九五、七二八	一、四九五、七二八	一九〇〇年
	管 理 費	四、六三二、六九三	管 理 費	一、九八二、四八七	二、二七六、三〇一	一九〇〇年
財 產	三、七八二、〇九五	一八八五年	三、七八二、〇九五	一八八五年	三、七八二、〇九五	一八八五年
	八三、七〇九、七九三	一九〇〇年	八三、七〇九、七九三	一九〇〇年	八三、七〇九、七九三	一九〇〇年

〔第八表〕 疾病保險

入 收	總 收 入		總 支 出	
	總 額	年 別	總 額	年 別
入	總 額	八、五五、四〇八	總 額	九、八〇九、七〇九
	年 別	一八八五年	年 別	一八八五年
收	企 業 者	一、七三、八七四	企 業 者	三、九一、一〇五
	被 保 險 者	四、五、二一〇	被 保 險 者	一、三〇、三三〇
入	總 額	二、九〇二、〇〇九	總 額	一、〇三、七〇〇
	年 別	一八八五年	年 別	一八八五年

財 產	總 支 出		支 總		出 支	
	總 額		總 額		總 額	
	總 額	年 別	總 額	年 別	總 額	年 別
支 總	出 五、七九、〇一四	一八八五年	賠 償 額	二、二五九、三二一	七、〇三三、一八九	一八八五年
	支 三、一六二、三三二	一九〇〇年	疾 病 救 濟	九、〇三、九二二	六、〇三、〇二二	一九〇〇年
出	其 他	一、四九五、七二八	其 他	一、四九五、七二八	一、四九五、七二八	一九〇〇年
	管 理 費	四、六三二、六九三	管 理 費	一、九八二、四八七	二、二七六、三〇一	一九〇〇年
財 產	三、七八二、〇九五	一八八五年	三、七八二、〇九五	一八八五年	三、七八二、〇九五	一八八五年
	八三、七〇九、七九三	一九〇〇年	八三、七〇九、七九三	一九〇〇年	八三、七〇九、七九三	一九〇〇年

〔第九表〕 傷害保險

年	收 入		支 出		總 額
	企業者ノ掛金	利子其他雜收入	賠償	總額	
一八八五年	一、〇四四、二六四	一、〇四四、二六四	一、〇四四、二六四	一、〇四四、二六四	二、〇八八、五二八
一八九〇年	九八六、三九一	三、七三〇、二八四	八一九、〇五四	一、〇四四、二六四	二、〇八八、五二八
一八九五年	九八六、三九一	三、七三〇、二八四	八一九、〇五四	一、〇四四、二六四	二、〇八八、五二八
一九〇〇年	九八六、三九一	三、七三〇、二八四	八一九、〇五四	一、〇四四、二六四	二、〇八八、五二八
一九〇五年	九八六、三九一	三、七三〇、二八四	八一九、〇五四	一、〇四四、二六四	二、〇八八、五二八
一九一〇年	九八六、三九一	三、七三〇、二八四	八一九、〇五四	一、〇四四、二六四	二、〇八八、五二八
一八八五年ヨリ 一九一〇年マデ	二、七二四、五二八	三、九一〇、二五九	一、〇四四、二六四	一、〇四四、二六四	九、五八八、五二八

年	財 産		出 支		總 額
	死亡手當金	遺族年金	賠償	總額	
一八八五年	一〇、六六七	八、八六七	一〇、六六七	一〇、六六七	二〇、三三四
一八九〇年	二七九、八四二	四、〇九四、〇三九	二四三、三三四	二四三、三三四	二、〇八八、五二八
一八九五年	三一九、〇二九	九、五五五、三七六	四一一、六三三	四一一、六三三	二、〇八八、五二八
一九〇〇年	四九一、四九九	一五、七五〇、一一一	五七八、一一五	五七八、一一五	二、〇八八、五二八
一九〇五年	六三七、〇八三	三三、一八七、三〇五	八〇〇、九五六	八〇〇、九五六	二、〇八八、五二八
一九一〇年	六七四、六五三	三二、二四六、二二七	一、〇一八、六三三	一、〇一八、六三三	二、〇八八、五二八
一八八五年ヨリ 一九一〇年マデ	九八七、五九九	三、五九〇、〇五三	一、〇四四、二六四	一、〇四四、二六四	九、五八八、五二八

〔第十表〕 廢疾保險

年	收 入		支 出		總 額
	掛金 被保險者	國庫補助金 利子其他雜收入	賠償 內 廢疾者看護費 臨時費	總 額	
一九〇一年	100,817.91	755,934	15,299,506	19,198,857	
一九〇二年	135,058.45	1,340,432.7	4,680,675	48,743,800	
一九〇三年	187,070.43	1,340,432.7	9,279,264	103,992,219	
一九〇四年	249,321.89	1,340,432.7	15,830,011	173,177,669	
一九〇五年	306,992.61	1,340,432.7	19,685,505	289,945,258	
一九〇六年	369,676.98	1,340,432.7	22,102,166	398,419,181	
一九〇七年ヨリ 一九〇年マデ	3,997,500.16	5,780,812.03	2,068,433.16	2,955,341.47	29,248,583

財 產	出					
	雜費	裁判費用	管理費 年裁定費	管 理		養老年金
				掛金徵收費	及監督費	
總額	反死	掛傷	掛結	掛婚	疾病年金	
八二,六九〇.五五	二,四八,七七七	二五七,六七一	一,〇五,九八八	二二,八九九,三五一		一五,二九九,〇〇四
四一三,一四五,三五四	三,六八三,〇九六	三四三,九九八	二二一,五七七	六〇,六三三,二五		二四,四九六,七四一
八四五,七五八,〇五一	七,〇三二,九九九	四〇四,〇四一	八三三,一七七	一一,二四三,九五五		六,一三四,〇三三
一,一三三,五四〇,三〇〇	八,九九〇,二五七	六二〇,八九七	一,五三九,六六六	一四,九五七,五五四		一九,四七六,四三三
一,六六二,七五	一三,七九,七五五	九一八,六〇八	二,三五七,三〇三	二二,一九七,五五三		一五,〇一〇,八六九
	一一二,六六〇,四〇三	八八三,四七八	一九,四三九,五七六	三六,九四〇,八〇五		四三,八,五八,九五六

第二編 各論

緒論

社會保險ノ總論ハ一通リ述ヘ終リタルカ故ニ以下更ニ各部門ニツキテ論述スヘシ。順序トシテ先ツ疾病保險ヨリ始メ次ノ各項ヲ研究セント欲ス。

- (一) 被保險者ハ誰ソ
- (二) 保險擔當者ハ誰ソ
- (三) 保險ハ何ヲ給付スルヤ
- (四) 財源ハ如何ニシテ調達セラルルヤ
- (五) 如何ニ事業ハ管理セラルルヤ

只タ本著ハ固ヨリ片々タル小冊子ニ過キサレハ上掲諸項ニ就イテ只タ大綱ヲ把握シテ之ヲ研究スヘク細ニ入り徹ヲ穿チテ殘ス所ナキ敘述ノ如キハ敢テ企テ及フ所ニアラサルナリ。

第一章 疾病保險(帝國勞働保險法第二編參照)

第一節 被保險者(一六五條乃至一七八條)

疾病保險ニ關シテハ被保險者ノ範圍ハ次ノ如ク區分スヘシ。

- (一)帝國法ニヨリテ無條件ニ保險加入義務アル者
 - (二)帝國法ニヨリ一定條件ノ下ニ於テノミ保險加入義務アル者
 - (三)地方法ニヨリテ保險加入義務アル者
 - (四)保險加入權利アル者
- [一]帝國法ニヨリテ無條件且ツ直接ニ賃金ノ程度如何ニヨラス保險加入義務者タルモノハ從來ハ只タ報酬ヲ得テ特定ノ事業ニ從事セル者ニ限ラレシカ現行法ニ於テハ其從事スル職業如何ヲ問ハス(是レ廢疾保險ト同様ナリ)次ノ各種ノ者ニマテ擴張セラレタリ。勞働者

助手、職工、徒弟、家内工業者(此者ハ各種ノ徒弟ト同シク報酬ヲ得ナル業務ニ服スル場合ニアリテモ保險加入義務アリ)及ヒ獨逸海船及ヒ内水船ノ乗組員(一六五條)。

[二]條件付キナレトモ同様ニ帝國法ニヨリテ直接ニ加入義務アル者ハ企業従事者、職工長及ヒ之ニ類スル地位ニアル使用人(但シ以上各種ヲ通シテ本業トシテ之ヲ營ムモノ)、商業使用人及ヒ藥局ノ助手並ニ見習、劇場及ヒオトケストラノ所屬員、教師及ヒ教員並ニ船主。是等ノ者ハ毎年一定ノ勞働收益二五〇〇馬克以前ハ二〇〇〇馬克ヲ超エサル場合ニ限リ保險加入強制ノ下ニ服ス(同條)。

[三]舊法ニ於テハ市町村乃至更ニ廣キ市町村組合ノ定款規定ニヨリ又ハ聯邦會議ノ決議ニ從ヒ帝國宰相ノ處分命令ニヨリ保險強制ノ範圍ヲ擴張スル事ヲ得タリシカ(例ヘハ家内工業者)新法律ハ此ノ範圍

ヲ甚シク制限シタリ。只タ帝國労働保險法施行ノ際前項以外ノ從業者カ地方方法ニヨリテ加入義務アル時ニ限リ該地方政府ハ其加入義務ヲ維持スル事ヲ得ルノミ。但シ此ノ規定ハ實際ニハ殆ント重要ナラス。

[四] 次ノ各種ノ者ノ如ク本保險以外ニ既ニ充分ニ保護セラレタル者ハ法律ノ強制ヨリ免除セラル。即チ帝國聯邦或ハ市町村組合ノ事業又ハ勤務ニ従事スル者並ニ公立學校ノ教師及ヒ教員更ニ一定ノ修業中ノ者軍屬精神上ノ諸組合ノ加入者等之ナリ(一七二條)。

[五] 法律ハ又次ノ場合ニハ申請ニ基キ保險加入義務ノ免除ヲ認メタリ
 (イ) 繼續的ニ只タ僅小ナル労働能力ヲ有スルニ過キサレ者ハ自己ノ申請ニ基キテ加入義務ヲ免除セラルヘシ。但シ一時的救済ノ義務アル救済組合ノ同意ヲ得ルヲ要ス(一七三條)。

(ロ) 雇主ノ申請アル時ハ特ニ前掲公共團體以外ノ事業又ハ勤務ニ従事スル者ハ現ニ充分ナル保護ヲ享有スル場合ニ限リ加入義務ヲ免セラル。又非公共ノ團體モ例外的ニ其労働者ノ義務免除ヲ許サルル事アリ。

[六] 保險加入義務以外加入權アリ。即チ此ノ場合ニ於テモ亦或ハ直接ニ帝國法ニヨルモノアリ或ハ聯邦ノ立法ニヨリテ一定制限ノ範圍内ニ於テ此權利ヲ有スルモノアリ(一七六條乃至一七八條)。
 (イ) 任意加入ノ權利ヲ有スル者次ノ如シ。

(一) 保險加入義務者ノ集團ニ屬スレトモ何等カノ理由ニヨリ加入義務ヲ免セラレシ者ニシテ一年ノ全收入二五〇〇馬克ヲ超エサル者例ヘハ修學中ノ公立學校教員ノ如シ。

(二) 雇主ノ家族ニシテソノ事業ニ無報酬且ツ本來労働關係ニヨラ

スシテ從事セル者

(三)普通多クモ二名ノ保險加入義務者ヲ使用スルニ過キサレ獨立ノ小企業者

不都合ナル分子ノ濫リニ侵入スルヲ防カン爲メ疾病金庫ハ任意加入者ニ對シテ年齢ノ制限ヲ設ケ並ニ健康診斷書ヲ呈出セシムル事ヲ得。

(ロ)任意繼續ノ權利ハ保險關係ヨリ脫離スヘキ者(例ヘハ以前ノ從屬狀態ノ止ミタル爲メ)ニ對シテ一定條件ノ下ニ許容セラル。

(ハ)次ニ任意保險ノ一新形態ト認ムヘキモノアリ。即チ一時小額ノ賃銀ヲ支拂ハレツツアル加入義務者カ若シ自ラ多額ノ掛金ヲ拂込ム場合ニハ以前通り高級ノ賃銀階級ニ留マルヲ得ル事之ナリ。任意保險ハ就中一定年收四〇〇〇馬克ニ達セル場合ニハ消滅ス。

保險加入義務者ノ範圍ヲ數ヘ來リテ吾人ハ保險加入強制ハ非獨立者ヲ包含シ單ニ勞働者ノミニ限ラルルニ非サルヲ知ルナリ。獨立者ハ保險加入強制ヨリ除外セラル。其ノ中間ノ地位ヲ占ムル家内工業者ハ一般ニ新シク保險加入ノ義務者タラシメラレタリ。從來市町村ハ保險擴張ニ關スル自己ノ權利ヲ行使スルニ際シ只々個別的ニ之ヲ行ヒタリキ。單ニ個々ノ地方法(バイエルン、ウエルテンベルヒ、ザクセン、バーデン、ヘッセン等但シプロシヤヲ除ク)ニヨリテ以前ハ農業勞働者ハ保險加入強制ノ下ニ服シタル事アリキ。今日ニ於テハ一般ニ農民ヲ除外セリ。蓋シ普通疾病保險ノ必要ハ農業ニ於テハ工業勞働者程緊切ニアラサレハナリ。

第二節 保險擔當者(二二五條乃至三〇五條)

上述ノ如ク被保險者ノ種類ハ甚タ多様ナレトモ保險機關タル金庫モ亦多種ナル事之ニ異ラス。其ノ然ル所以ハ實ニ各種ノ人集毎ニ其ノ現存設備及ヒ需要ノ種類ヲ顧慮スル事望マシク或ハ必要ナリシカ故ナリ。

本保險ノ擔當者ニアリテハ〔業務及ヒ同職組合金庫(Betriebs- und Innungskassen)〕ヲ除キ其地域の範圍ハ共通ナルヲ原則トス。而シテ各擔當者ハ總テ相互主義ニ基ケル團體ニシテ相互ニ相結合シ以テ多クノ部門ヲ有スル一系體ノ強制金庫ヲ構成ス。各被保險者ハ其職業ノ種類及ヒ存在地ニ從ヒ夫々適宜ノ部門ニ加入スルナリ。

各保險加入義務者ハ一定ノ金庫ニ屬スルヲ要ス(金庫強制 Kassenzwang)。若シ或者カ從來割増金庫(Zuschusskasse)トシテ一般ニ知ラレタル任意補助金庫ニ加入セル場合ニ於テモ是レ隱ニ金庫強制ニ服スルモノ

ト謂フヘシ、而シテ一ノ強制金庫ニ屬スル者ハ同時ニ他ニ屬スル事ヲ許サス。

個別的ニ觀察スル時ハ金庫ノ種類ハ次ノ如シ。

- (一) 地區疾病金庫 (Ortskrankenkassen) 更ニ一般的及ヒ特別的ニ別ツ
- (二) 地方疾病金庫 (Landkrankenkassen)
- (三) 業務疾病金庫 (Betriebskrankenkassen)
- (四) 同職組合疾病金庫 (Innungskrankenkassen)
- (五) 坑夫疾病金庫 (Knappschaftliche Krankenkassen)
- (六) 賠償金庫 (Ersatzkassen)

次ニ簡單ニ各項ヲ説明スレハ

(一) 地區疾病金庫(二二六條乃至二四四條)

公共團體ニヨリテ設置セラルヘキ地區疾病金庫ハ從來其地域内ニ

於テ從業スル者ノ爲メニ設立セラレ普通ハ一定産業又ハ事業ニ從事スル者ヲ包含シ來リタリ。換言スレハ主トシテ職業疾病金庫ナリキ。今日ニ於テ斯ル制度ハ只々次ノ如キ法規ノ要求ニ適應スル場合ニ限り例外トシテ即チ特別地區疾病金庫トシテ存在スルニ過キス。即チ其ノ組合員ハ少クモ二五〇名ヲ算スヘク且ツ其存在ニヨリテ一般地區金庫ヲ侵害スル事ヲ許ササルナリ。

一般地區疾病金庫ハ職業別ニヨラス單ニ地域ニヨリテ制限セラレ從ツテアラユル産業及ヒ職業ヲ包含スルモノトス。プロシヤニ於テハ普通一郡ヲ以テ此ノ範圍トス。而シテ此ノ範圍決定ハ主トシテ管轄保險局ニ一任セラル。

(二) 地方疾病金庫

地區疾病金庫ノ外ニ之ト同一地域内ニ於テ又ハ之ト區劃ヲ異ニセ

ル地域内ニ於テ地方疾病金庫設置セラル。但シ聯邦法規カ此ノ施設ヲ認メサル場合ハ此ノ限ニアラス。普通此ノ兩金庫ハ併置セラルト雖モ各金庫ハ二五〇名以上ノ加入者ヲ有スルヲ要件トシ然ラサル場合ニハ其ノ一ハ設置セラレス。地方疾病金庫ノ加入者ハ他ノ金庫ノ所屬者ニ比シ享有スル權利狹小ナルカ其ノ加入者ハ次ノ如シ。

一、農林業労働者

二、奴婢

三、巡回工業者並ニ家内工業従事者

但シ加入者ノ範圍ハ聯邦會議ノ決議ニヨリテ擴大スル事ヲ得。

(三) 業務疾病金庫(二四五條以下)

本金庫(工場疾病金庫ノ名稱ハ全然廢サレタリ)ハ個々ノ企業家カ自

己ノ一個又ハ數個ノ企業ノ爲メニ設置スルモノトス。在來ノ建築工事疾病金庫 (Bankrankenkassen) モ亦此ノ一種ナリ。企業者カ本金庫ヲ設置セントスルニハ其ノ事業ニ使用スル保險加入義務者ノ員數ハ少クトモ一五〇名ニ達スルヲ要ス。但シ農業及ヒ内水運輸業ニアリテハ五〇名ヲ以テ足ル。土木建築業ニアリテハ斯ル正確ナル最小限度規定サレズ。而シテ本金庫ノ爲メニ既設ノ一般地域疾病金庫又ハ地方疾病金庫ノ存立ヲ危カラシムル事ヲ得ス。而シテ本金庫ノ給付ハ上掲金庫ノ給付ト同價值ナル事ヲ必要トス。

(四)同職組合疾病金庫(二百五十條以下)

本金庫ハ同組合員ノ職工徒弟及ヒ労働者ノ爲メニ設置スル事ヲ得。其他ノ點ニ關シテハ本金庫ノ法律上ノ地位ハ新法律ニ從ヘハ業務疾病金庫ト全然同一トス。加入人員ノ最小限度ハ規定セラレズ。

(五)坑夫組合金庫

既ニ舊時ノ法律ニヨリテ設置セラレタル坑夫疾病金庫ハソノ存續ヲ認メラレタリ。之ハ各聯邦ノ鑛業法規ニ基キ其ノ範圍ハ單ニ鑛山労働者ニ限ラル。

(六)賠償金庫

從來任意ニ加入ヲ許シタル補助金庫ハ一八七六年四月七日及ヒ一八八四年六月一日ノ帝國法ニヨリテ設置セラレタルモノト其他ノ聯邦法規ニ基ケルモノトノ二種アリシカ一九〇二年十二月二十日ノ法律ニヨリテ一八八四年ノ補助金庫法ハ廢止セラレ從ツテ本金庫ハ相互主義ニ基ク疾病保險組合トシテ一九〇一年五月十二日公布ノ私營保險業ニ對スル監督法規ノ支配下ニ屬スル事トナレリ。但シ監督官廳ノ許可アルトキハ賠償金庫トシテ存續セシムヘシト

雖モ賠償金庫トシテ存センカ爲メニハ容易ニ實行シ難キ條件ヲ充ササルヘカラス。此ノ許可ヲ得サル場合ニハ本金庫ハ社會的疾疾病保險タル意義ヲ缺クモノト謂フヘシ。

然レ共賠償金庫ニ加入セル場合ト雖モソハ單ニ被保險者ノ權利及ヒ義務ヲ中止セシムルニ止リ企業者ノ權利義務ハ爲メニ何等ノ影響ヲ受ケス而モ其ノ拂込金ハ普通賠償金庫ニ入ル事ナク寧ロ正規ノ義務金庫ニ流入スルヲ常トナスナリ。

以上ノ中(一)乃至(四)金庫ハ皆保險局ノ監督ニ服ス。是等ノ金庫ノ加入員ハ少キハ二〇名ヨリ多キハ二〇萬人ニ及フト雖モ普通數百人ヲ算スヘク數金庫合シテ金庫組合(Kassenverbände)ヲ作り共通目的ノ貫徹ヲ計ルコトヲ得ルナリ。例ヘハ共同ノ計算係及ヒ金庫係ノ任命、病院ノ共同設備及ヒ利用等ノ如シ。斯ル組合ト嚴格ニ區別スヘキハ數金

庫合シテ一個ノ新組織ヲ構成スル場合ナリ。

加入者ノ一定集團ニ對シ又ハ一定地域ノ爲メニ支金庫(Sektion)ヲ設置スルヲ得。

第三節 保險ノ給付(一七九條乃至二二四條)

疾病ノ場合ニ充分ノ保護ヲ與フヘキハ實ニ本保險ノ目的ナルカ法律ハ之カ遂行ヲ期センカ爲メ先ツ一定ノ法定給付ナルモノヲ認メタリ。之レ以外ノ給付即チ超過給付モ亦適法ノモノトセラル。但シ後者ハ一定限度ノ制限ヲ受ク。蓋シ疾病保險本來ノ目的ヲ逸スルノ虞レアレハナリ。サレハ此ノ超過給付ハ同時ニ又最高限給付ト看做スヘシ而シテ法律ハ一方ニ亦特定ノ場合ヲ限リテ少額給付並ニ特殊ノ職業ニ對スル異種ノ給付ヲ認メタリ。更ニ金錢給付ト現物給付トヲ

區別スヘシ。

法定給付トハ疾病救済 (Krankenhilfe) 出産手當金 (Wohngeld) 及ヒ死亡手當金 (Sterbegeld) ノ三種之ナリ (一七九條)。

(イ) 疾病救済ハ次ノ各項ヲ包含ス (一八二條乃至一九四條)。

(一) 疾病ノ初メヨリ治療ヲ施ス事 (Krankempfege) 即チ無料ノ醫療、投藥並ニ眼鏡、繃帶及ヒ同様ノ輕微ナル治療用品ノ給付。

(二) 疾病手當金 (Krankengeld) 勞働不能トナリタル場合ニ第四日目ヨリ各勞働日毎ニ一定賃銀ノ半額ヲ支給ス。

(三) 上掲ノ給付ニ代フルニ入院治療 (Krankenhauspflege) ヲ以テスル事。即チ病院ニ收容ノ上無料ニテ治療及ヒ看護ヲ給付スル事ヲ得。

左ノ場合ニアリテハ患者ノ承諾ヲ經ルヲ要セス。

(1) 自己ノ家計ヲ有セサルカ家族ノ一員トシテ家計ヲ補助スル者

ナラサル時。

(2) 傳染病ナル時。

(3) 患者規則ニ數回違背シタル時。

(四) 入院治療ヲ受クル被保險者カ從來其ノ勞働所得ニヨリ全然又ハ大部分家族ノ生計ヲ給シタリシ場合ニハ別ニ家族手當金 (Haushilf) トシテ疾病手當金ノ半額ヲ家族ニ支給スルヲ得。

(五) 病院治療ニ代フルニ自宅治療 (Hauspflege) ヲ以テスル事新ニ認めラレタリ。即チ看護人、看護婦又ハ他ノ看護者ヲシテ保護及ヒ看護セシムル事ヲ謂フ。之カ爲メニハ被保險者ノ同意ヲ要シ更ニ次ノ各種ノ條件具備セラレサルヘカラス。

(1) 患者ヲ入院セシムルノ必要ハアレトモ實行シ難キ事。

(2) 自宅治療ヲ許シ家族ト同居セシム可キ重要ナル理由存スル事。

此ノ場合ニハ疾病手當金ノ四分ノ一ヲ限度トシテ支給スルヲ要ス。

給付期間ハ疾病ノ繼續ニ伴フト雖モ最長二十六週間ヲ超過スルヲ許サス。此ノ法定給付ヲ擴張シテ定款ヲ以テ次ノ超過給付ヲ支給スルヲ得。

- (1) 疾病救濟ノ期間ヲ一ケ年ニ延長スル事。
- (2) 平癒者ヲ保護スル事即チ疾病救濟期間滿了後一年ノ範圍内ニ於テ保養所ニ收容スル事。
- (3) 治療手續完了後不具廢疾ニ對スル救助方法ヲ講スル事。
- (4) 基本賃銀ノ四分ノ三ヲ限度トシテ疾病手當金ヲ増加スル事。
- (5) 日曜及ヒ祝祭日ニモ疾病手當金ヲ一般ニ支給スル事。
- (6) 次ノ場合ニハ勞働不能トナリタル初日ヨリ疾病手當金ヲ給ス

ル事。即チ

(一) 疾病カ一週間以上繼續シ疾病ノ結果死亡シ或ハ業務上ノ傷害ニ基キテ疾病ヲ生シタル場合。

(二) 他ノ疾病ニアリテモ保險監督局ノ同意ヲ得タル場合。

(7) 家族手當金ヲ法定疾病手當金額迄増加スル事。

(8) 被保險者カ家族手當金ヲ支給セラレサル場合ニ入院治療ノ外ニ尙法定額ノ半額以内ノ疾病手當金ヲ給與スル事。

(9) 保險義務ナキ家族員ニ對シテ疾病救濟ヲ給スル事 (家族救濟ノ一部)。

坑夫金庫及ヒ補助金庫ニ關シテハ法律ハ給付ノ最高制限額ヲ規定セス。

(ロ) 法律カ出産救濟 (Wochenhilfe) ト謂フハ分娩ノ前後ニ亘リ加入者タル

婦女ニ支給セラルヘキ疾病金庫ノ給付ナリ。其ノ法定給付ハ從來ノ立法例ヲ擴張シテ次ノ如ク規定セラレタリ(一九五條乃至二〇〇條)。

(一)出産手當金 (Wochengeld) 分娩ノ前年ニ於テ少クトモ六ヶ月間被保險者タリシ産婦ニ對シ疾病手當金ト同額ヲ八週間支給ス。但シ少クトモ六週間ハ分娩後ニ割當ツヘシ。

地方疾病金庫ニ對シテハ一ノ例外存ス。即チ出産手當金ハ同金庫加入者ニ對シテハ四週間ニ短縮スル事ヲ得。コノ例外規定ハ頗ル非難セラレタルカ洵ニ正當ナリ。

(二)被保險者ノ同意ヲ得テ産婦預所ニ收容スル事。此ノ場合ニハ出産手當金ニ代フルニ預所ニ於ケル手當及ヒ看護ヲ以テス。

(三)自宅ニ於テ看護婦ノ手當及ヒ看護ヲ受クル事。之ニ對シテ出産

手當金ノ半額ヲ控除スル事。

許容セラレタル超過給付ハ次ノ各項ヲ包含ス。

(一)分娩救濟 (Geburtshilfe) 即チ保險義務アル妻及ヒ總テノ婦女ニ對シ分娩ノ際必要ナル助産婦及ヒ醫師ノ手當ヲ給スル事。

(二)妊娠救濟金 (Schwangerschaftsunterstützung) 六ヶ月以上一定ノ金庫ニ加入シタル妊婦ニ對シ次ノ場合ニ支給ス。

(1) 妊娠ノ結果勞働不能トナリタル時ハ六週間以内ニ於テ疾病手當金ト同額ノ妊婦手當金ヲ支給ス。

(2) 但シ前項ノ給付期間ニハ分娩前ノ出産手當金支給ノ日數ヲ算出ス。

(3) 妊娠ニ關シ必要アル時ハ助産婦及ヒ醫師ノ看護ヲ支給ス。

(三) 哺乳手當金 (Stillgeld) 産婦カ自ラ其生兒ヲ哺乳スル間疾病手當金

ノ半額ヲ支給ス。但シ産後十二週ヲ経過スル時ハ止ム。

(四)家族救済ノ一部トシテ被保險者ノ妻ニシテ保險義務ナキ者ニ對シテ出產手當金ヲ支給ス。

(ハ)死亡手當金(Starbegriff)法定給付トシテ支給セラル、ハ被保險者ノ死亡當時ノ基本賃銀ノ二十倍額ヲ支拂フヲ謂フ(二〇一條乃至二〇四條)。超過給付ハ次ノ如シ。

(一)死亡手當金ヲ基本賃銀ノ四十倍額ニ増加スル事ヲ得。

(二)最低額ヲ五〇馬克トナス事ヲ得。

(三)被保險者ノ配遇者又ハ子ノ死亡シタル際ニ死亡手當金ヲ支給スル事(家族救済ノ一ノ場合ナリ)。配遇者ノ場合ニハ被保險者ニ對スル死亡手當金ノ三分ノ二子ノ場合ニハ半額ヲ限度トス。而シテ更ニ死亡者自身ノ死亡手當金ノ額ヲ超ユルヲ得ス。

金錢給付ノ額ヲ決定スヘキ標準タル基本賃銀(但シ現物給付ハ賃銀ノ高ニ關スル事ナシ)當該金庫ノ任意ニ決定スル處トス。ソノ標準ハ或ハ被保險者ノ階級例ヘハ職業、性、年齢等ナルコトアリ。此ノ場合ニ於テハ同一階級ニ屬スル者ノ平均日給額ヲ以テ金庫上ノ基本賃銀トナス。最高額ハ五馬克ヲ超ユヘカラス。或ハ被保險者ノ得ル賃銀ノ率ナルコトアリ。此ノ場合ニハ六馬克ヲ超ユル者ハ皆最高級ニ屬スルモノトス。此ノ最後ノ方法ハ從來主トシテ行ハレ階級ニヨル算出法ト結合スル事モ亦許サレタリ。是等ノ諸方法ノ外ニ各被保險者ノ労働ノ實收入ヲ標準トシテ算出スル事ヲ得。此場合ニハ六馬克ヲ最高限トス。地方疾病金庫ニハ特別規定存ス。

上掲ノ如ク各金庫ハ給付擴張ノ權利ヲ有スルト同時ニ又給付制限ノ權利ヲモ有ス。殊ニ加入者カ他ノ疾病保險ニ參加セル時ニハ之ヲ

參酌シテ縮小額ヲ決定ス。疾病手當金ノ减小セララル、事次ノ如シ。

(一)他ノ保險給付ト合シテ平均日給ヲ超過セサル額ニ達スル迄。

(二)刑事犯罪ニヨル公民權ヲ剝奪セラレタル時其ノ犯行以後一年間全部又ハ一部支給ヲ休止ス。

(三)故意ニ疾病ヲ誘致シ又ハ詐欺竊盜ノ際疾病ヲ被リタル場合ニハ其ノ疾病繼續中全部又ハ一部支給ヲ休止ス。

以上ノ外保險者ノ疾病上ノ過失ハ何等關係ナシ。

尙農業巡回工業家内工業ノ従事者、僕婢並ニ一時的従事者ニ關シテハ特別規定存ス。而シテ是等特別規定ノ關スル所ハ主トシテ給付及ヒ掛金ヲ減少スル事並ニ療養ヲ増加スル事等ナリ。次ニ少シク是ヲ敍フレハ

(イ)農林業労働者四一七條以下四三四條ハ一定ノ條件ノ下ニ事業主ノ

申請アル時ハ保險加入ノ義務ヲ負ハセラル。即チ疾病ニ際シ疾病金庫ノ給付ト同價值ノ保護ヲ事業主ヨリ請求スル權利アル場合之ナリ。人或ハ是等ノ點ニ於テ農林業者ハ工業者ヨリ不利ノ地位ニアリトナサンモ是レ主トシテ地方ニ存スル諸種ノ事情ハ大部分都市ニ居住スル工業者ト同一待遇ヲコノ農民ニ給與スルヲ許ササルモノアルニ起因スト解セサルヘカラス。本法理由書ハコノ事情ヲ論シテ曰ク「地方ニアリテハ醫師ノ手當及ヒ病院治療ハ之ヲ要スル者トノ距離ニ妨ケラレテ極メテ高價ノモノタラサルヲ得ス。然ルニ一方ニアリテハ同一原因ハ又虚偽ノ申告ヲ誘致スルニ到ル。特ニコノ距離遠隔ナルカ故ニ労働不能ノ事故止ミタル時期ヲ正確ニ定ムル事難ク其他病者ノ監視モ亦不可能ナリ。更ニ冬期ニ於テ普通労働ノ休止ヲ見ルカ如キモ亦我社會保險ノ制度ヲ一層痛切ニ

要求スル所以ノ一タラスンハアラサルナリト。

(ロ) 僕婢ニ對シテモ農業勞働者ノ爲メニ設ケラレタル例外規定ハ一部適用セラル(四三五條乃至四四〇條)。更ニ聯邦政府ハ次ノ如キ規定ヲ説クルヲ得。即チ若シ帝國勞働保險法公布ニ際シ僕婢ノ疾病事故ニ對スル地方法上ノ保護存センカ彼等ハ帝國勞働保險法上ノ義務ヲ免除セラルヘシ。

(ハ) 例外規定ハ更ニ一時的從業者ノ爲メニ設クル事ヲ要スヘシ(四四一條乃至五四八條)。茲ニ一時的從業者ト稱スルハ事業ノ性質ニ從ヒ又ハ豫メ勞働契約ニ依リテ一週間以内ニ局限セラレタル活動ニ從事スル者ニ外ナラス。此種ノ從業者ニアリテハ絶エス異ル雇主ヲシテ其都度如何ニシテ適當ニシテ且ツ過大ノ煩勞ナク出捐ヲ爲サシムヘキヤノ困難ナル問題ヲ生スルナリ。一時的從業者ハ保險義

務ヲ免除セラレサル場合ニ於テハ一般地區疾病金庫又ハ特ニ農業ニ從事セル時ハソノ住所地ノ地方疾病金庫ニヨリテ保險セラルヘシ。假令保險加入義務存スルニ拘ラス一時從業者カ如何ナル金庫ニモ加入セサル場合ニ於テ是等管轄金庫ノ知ル處トナラハ職權ニヨリテ其者ヲ帳簿ニ記入スヘシ。而シテコノ種勞働者ハ自ラ掛金ヲ爲ササルヘカラス。市町村組合ハ又毎年四半期ノ終リニ於テ企業者ノ掛金部分ノ金額ヲ交付セラレシ計算ニ基キテ金庫ニ支拂フヲ要ス。而シテ組合ハコノ支拂額ヲ或ハ管轄地區内ノ全住民ニ或ハ保險加入全員ニ對シテ賦課スルコトヲ得。

(ニ) 巡回獨立工業者(四五九條乃至四六五條)ノ保險技術上ノ取扱ヒ方法ハ亦甚タ困難ナリ。何トナレハ是等ノ者ニアリテハ一定セル勞働工場ト稱スルモノ存セス。絶エス勞働スル處ヲ異ニスルカ故ニ同

一場所ニ繼續的ニ労働スル者ニ對スル規定ヲ適用スル事不可能ナレハナリ。而シテ其ノ加入スヘキ金庫トシテ最モ適當ナルハ蓋シ該巡回工業者ノ免許證ヲ發行スル場所ノ地方疾病金庫ナラン。保險料ハ一般ニ統一的ニ且ツ豫メ地方疾病金庫ニ拂込ムヘシ。而シテ被保險者ハ本來タタ該金庫ノ法定給付ヲ請求スルヲ得ルノミナレトモ其ノ旅行中疾病ニ罹レル場合ニハ罹病地ヲ管轄スル金庫ニ對シテ請求スル事ヲ得ルナリ。但シ此場合ニ於テハ給付ヲ爲シタル金庫ハ其ノ費用ノ賠償ヲ罹病被保險者所屬ノ金庫ニ對シテ請求スルコトヲ得ルモノトス。

(ホ)更ニ又例外規定ヲ要スルハ家内工業者(四六六條乃至四九三條)ナリ。此者ハ獨立企業者ト労働者トノ中間的地位ヲ占メ普通一二名ノ徒弟ト共ニ從業スルモノナルカ從ツテ又是等從業者ト共ニ帳簿ニ記

入セラレテ其ノ仕事場ヲ管轄スル地方疾病金庫ノ一員タルニ到ルモノナリ。家内工業者ハ自己及ヒ其ノ其使用人ノ爲メニ掛金ヲ爲ス。其ノ出捐額ハ該被保險者ノ所得ノ額ニ比例シ金庫ハ之ニヨリテ其ノ給付中現金支出ニ非サル部分就中主トシテ疾病手當又ハ病院療養ノ費用ニ相當スル部分ノ財源ヲ得ルナリ。自己ノ計算ヲ以テ家内工業者ニ仕事ヲ委託シタル者ハ補給金ヲ支拂フノ外掛金ヲ爲ス事ナシ。此ノ補給金ノ額ハ委任者ヨリ家内工業者ニ對シ其ノ勞務ノ報酬トシテ支拂フヘキ金額ニヨル。換言スレハ該報酬額ノ一定割合ニシテ一九一四年末迄ハ一般ニ二分ト規定セラレタリ。其後家内工業ノ全種類ニ亘リ全帝國一樣ニ其ノ出捐率ハ四年毎ニ統一的ニ決定セララル事トナレリ。

(ハ)最後ニ見習中ノ徒弟ニ關シテハ次ノ規定存ス。即チ一般ニ無給見

習ハ疾病手當金ヲ給與セス。從ツテ其ノ掛金モ相當ニ輕減セラレヘシ(四九四條)。

第四節 財源ノ調達(三八〇條乃至四一五條)

- 一、保險費用ハ保險加入義務者及ヒ其ノ雇主ノ双方ヨリ徴收セラレ。任意被保險者ハ掛金全額ヲ自ラ拂込ムヲ要ス。舊法改正法共ニ保險加入義務者ノ掛金割合ヲ規定シテ掛金全額ノ三分ノ二トナシ雇主ヲシテ其ノ三分ノ一ヲ拂込マシム。コノ割合ヲ變更シテ双方ヨリ半額宛拂込マシムル事ト爲スハ一般ニ認メラレス。タタ同職組合疾病金庫ニアリテノミ定款ニヨリテ之ヲ規定スル事ヲ得。
- 二、掛金額ハ勿論各金庫ノ給付範圍如何ニヨリテ同シカラス。當該金庫ノ收入ヲ以テ拂戻額ヲ含ム支出額ヲ填補スルニ足ラサル時ハ定

款ヲ變更シテ給付額ヲ法定給付ニ留メ又ハ掛金額ヲ増加スル事ヲ得。掛金ヲ引上ケテ基本賃金ノ百分ノ四半ヲ超過セシムル場合ハ只タ法定給付額ヲ填補シ又ハ委員會ニ於テ雇主及ヒ被保險者ノ滿場一致ノ議決ニヨルトキニ限ル。掛金カ基本賃銀ノ百分ノ六ニ達スルモ尙ホ法定給付ヲ填補スルニ足ラサル場合ハ地區疾病金庫ニアリテハ委員會ニ於テ雇主及ヒ被保險者ノ滿場一致ヲ以テ議決シタルトキニ限リ掛金ヲ更ニ増加スル事ヲ得。其他ノ金庫ニアリテハ保險監督局ハ當該金庫ト他ノ地區疾病金庫トノ合併ヲ勸告スル事ヲ得。若シコノ合併ニシテ不可能ナルカ又ハ合併スルモ尙ホ掛金ヲ以テ法定給付ヲ填補スルニ足ラサル場合ニハ市町村組合ハ自己ノ財産中ヨリ所要ノ補助ヲ爲ス事ヲ要ス。地方疾病金庫業務疾病金庫又ハ同職組合疾病金庫ニアリテハコノ種ノ場合ニ夫々市町

村組合事業主又ハ同職組合ヨリ上掲ノ補助ヲ爲スモノトス。

新法ハ入會金ノ引上ケヲ許サス。而シテ掛金額ヲ決定スルニ際シテハ經常費及ヒ積立金ヲ支辨スルニ足ラシムルヲ要ス。ソノ額ハ定款ヲ以テ被保險者ノ従事スル産業及ヒ職業種類ニヨリテ高低ヲ附シ更ニ疾病ノ危険率甚タ高キ場合ニアリテハ各事業ノ雇主ハ掛金率ヲ高ムル事ヲ得。家族救済ノ金庫ハ家族ヲ有スル被保險者ヨリ割増掛金ヲ増徴スル事ヲ得。

三、掛金全額ノ拂込ヲ爲スヘキハ雇主ニシテ被保險者タル労働者ノ支拂ヒ部分ハ貸銀拂渡ノ際ニ控除スヘキモノトス。任意保險ニアリテハ雇主ハ斯ル支拂義務ヲ負フ事ナシ。但シ新法ハ使用人カ賠償金庫ニ屬スル場合ニ於テコノ義務ヲ認めタリ。

四、疾病金庫掛金徴收ノ方法ハ他ノ部門ト異リ殆ント著シキ意見ノ相

異ヲ惹起スルノ餘地ナシ。金庫ハ正確ナル數學的基礎ヲ欠クト雖モ尙ホ全然満足スヘキ狀勢ニアリ。被保險者ハ何等ノ危険ニモ遭遇スル事ナシ。何トナレハ同金庫ノ繼續的給付能力ハ創立及ヒ操業ニ際シ官廳ヨリ認容セラレタル權能ニヨリ充分保障セララルヲ見レハナリ。官廳ニヨリテ給付能力ナキ金庫ヲ閉鎖スルハ市町村、雇主及ヒ同職組合等ノ補助金支拂ヒノ保證義務ト相俟チテ極メテ適宜ノ安全設備ト謂フヘキナリ。

第五節 事業ノ管理(三二〇條乃至三七六條)

一、各疾病金庫ハ定款ヲ作成シ保險監督局ノ認可ヲ受クヘシ。而シテソノ記載事項次ノ如シ。

一、金庫ノ名稱及ヒ所在地

- 二、給付ノ種類及ヒ範圍
- 三、掛金額及ヒ拂込期
- 四、理事及ヒ委員會ノ組織及ヒソノ權能ノ範圍
- 五、豫算及ヒ決算ノ變更
- 二、理事及ヒ委員會ハ金庫事務ヲ處理ス。法律ニ別段ノ定メナキ時ハ理事ハ金庫ヲ管理ス。
- 委員會ハ法律定款及ヒ職務規律カ理事ニ命セサル總テノ事項ヲ議決ス。更ニ豫算ノ査定及ヒ歳計ノ編成等ノ職務アリ。委員會ハ又患者規則ヲ設ケテ患者ノ届出監視及ヒ患者ノナスヘキ義務ヲ規定ス。

委員會ニ於ケル雇主及被保險者ノ代表者ハ各別ニソノ集團中ヨリ理事ヲ選出ス。而シテ理事ノ三分ノ一ハ雇主ニシテ三分ノ二ハ

被保險者タルヲ要ス。

(イ) 地區疾病金庫ノ理事ハ理事長ヲ互選ス。同時ニ一名又ハ數名ノ理事長代理人ヲ選フ。雇主及ヒ被保險者ノ各理事中總投票ノ多數ヲ得タルモノヲ被選人トス。二回ニ亘ル理事選舉不成功ニ終ルトキハ保險局ハ代理人一名ヲ任命ス。

(ロ) 地方疾病金庫ニアリテハ市町村組合ノ代表機關カ理事長及ヒ理事ヲ選出スルヲ原則トシ又理事中ヨリ一名又ハ數名ノ理事長代理人ヲ選フ。理事ノ三分ノ一ハ當該雇主ニシテ三分ノ二ハ當該金庫ニ加入スル被保險者タルヲ要ス。更ニ市町村ノ代表機關ハ各別ニ當該事業主及ヒ被保險者ノ代表者ヲソノ集團中ヨリ選出ス。

(ハ) 業務疾病金庫ニアリテハ理事及ヒ委員會ハ雇主又ハソノ代表者

及ヒ被保険者ノ代表者ヨリ成ル。委員タル被保険者ハ五〇名ヲ超ユヘカラス。雇主又ハソノ代表者ノミ理事長又ハ委員長ニ選ハレ又定款上被保険者ニ與ヘラレタル票數ノ半數ヲ有ス。

コノ種ノ制度ニアリテハ黨争ノ弊ハ殆ト之ヲ絶滅スル事難キカ故ニ舊法ノ下ニアリテモ多數ノ疾病金庫ニ激烈ナル政黨的精神ノ混入シタル痕跡ヲ見ルヘク屢々企業家ハ金庫管理ニ參與スル事ヲ得サリキ。斯クテ理事者ノ地位ヲ占領スルノ如何ハ實ニ久シキニ亘ル政黨問題タリシナリ。新法施行セラレテ比例選舉ノ方法ヲ採用スルニ及ヒ昔時壓倒セラレタル小數黨ハ稍ヤソノ實權ヲ擴大スルヲ得ルニ至レリ。

保險義務者ハ當該業務ニ從事シ始メタル日ヨリ當然加入者タルノ資格ヲ取得スヘク何等ノ通知ヲ要セス。而シテ當該業務ヨリ脱

退スルノ日ハ同時ニ資格喪失ノ時ナル事亦同シ。

雇主ハ従業員ノ加入其他ノ届出ヲナスノ義務ヲ負フ。之ヲ懈怠セル時ニハ罰則ノ定メアリ。又届出ヲナス迄ニ必要起リタル場合ニハ使用人ヲ保護スルノ義務ヲ負フ。

次ノ事項ニ關シテモ亦帝國法ハ規定ヲ設ケタリ。

(一)金錢及ヒ有價證券ノ利用

(二)收入ノ確定

(三)歲計ノ編成

(四)理事會計係及ヒ金庫係ノ責任

更ニ疾病金庫ハ其ノ資金ヲ其加入者ノ疾病者及ヒ疾病豫防上ノ一般的目的ニ使用スル事ヲ得。

三係争事件ノ裁決ハ從來諸種ノ官廳ニヨリテ行ハレタリシカ新法ニ

於テハ之ヲ統一シテ混亂ヲ防キタリ。即チ之ニ參與ノ權限アルハ
 タタ保險局、保險監督局、帝國保險院並ニ地方保險院之ナリ。

疾病金庫ノ給付ノ申請ハ此等ノ諸院ニ呈出スヘク此ノ申請ニ基
 キテ該金庫ハ口頭又ハ書面ニヨリテ其裁決ヲ與フヘシ。給付ノ係
 争ニ關シテハ保險局第一審トシテ之ヲ裁決ス。普通申請當時被保
 險者カ居住シ又ハ從事シタル地方ヲ管轄スル保險局之ニ當ル。裁
 決ハ原則トシテ口頭辯論ヲ經ルヲ要ス。此辯論ニハ二名ノ保險代
 表者參加ス。申請人及金庫理事ハ自ら出廷シ又ハ代理人ヲ出ス事
 ヲ得。ホ場合ニ依リテハ保險局長ハ口頭辯論ヲ行ハスシテ假決定
 ヲ爲ス事ヲ得。此ノ假決定ニ對シテハ口頭辯論ノ請求ヲ爲シ又ハ
 保險局ノ判決ニ對シテ爲スヲ許サレタルト同一ノ裁判上ノ手續ヲ
 爲スヲ得。斯シテ假決定確定セサル時ハ審判委員會開カレ而シテ

其判決與ヘラル。但シ給付金額小ナル場合ニハ例外トシテ局長ハ
 公開口頭辯論ヲ行ヒテ裁決ヲ爲ス。保險局ノ裁決ニ不服ナル者ハ
 保險監督局ニ控訴スル事ヲ得。此ノ場合ニモ法律ハ局長ノ假決定
 ヲ認ムト雖モ勿論終審ニ非サルナリ。審判員ハ口頭辯論ヲ行ヒテ
 裁決ス。此裁決ニ對シテハ更ニ帝國保險院又ハ地方保險院ニ上告
 シ得レトモ實際行ハルル事稀ナリ。左記ノ場合ニハ上告ヲ許サス。
 (一)患者手當金、家族手當金又ハ死亡手當金ノ額ニ關スル事。
 (二)患者ノ勞働不能ヲ伴ハサル又ハ勞働不能ナルモ八週間ニ滿タ
 サル救濟事件ニ關スル事。

(三)出產救濟、家族救濟、元本濟清又ハ訴訟費用ニ關スル件。

四、本金庫ノ使用人及ヒ吏員ニ關スル法律ノ規定ハ其ノ法律自體、規定
 セラルル處モ將タ又此ノ法律ニ基キテ發セラレタル服務規律ニ就

キテ見ルモ全然革新セラレタルノ觀アルナリ。而シテ此ノ服務規律ハ服務關係其他使用人ニトリテ重要ナル事項ヲ規定スルモノナルカ金庫機關ニ關スル此ノ新規定ハ舊時ノ雇傭契約ニ基ケル多數ノ服務關係ニ交渉スル所大ナルカ故ニ其ノ施行細則ハ重要ナル經過規定ヲ種種包含スルヲ見ルナリ。

五 疾病保險ハ其ノ金庫ト醫師トノ關係ニ關スル問題ヲ解決スルニ當リ次ノ如キ方針ヲ以テ之ニ臨メリ。即チ一方ニ於テ從來ヨリ遙ニ大ナル範圍ニ亘リ醫療ヲ施スヘキト同時ニ他方ニ於テナルヘク廉價ナル費用ニテ目的ヲ果サント努力シタル事之ナリ。殊ニ此際經驗セル興味深キ現象トモ云フヘキハ絶エス其ノ勞働ノ報酬大ナラシムル事ヲ絶叫スル人々カ事一度自ラ醫療ニ對スル報酬ヲ支拂フノ段ニ到ルヤ最低限度ノ費用ニ對シテモ尙ホ恰モ不當ニ高値ナルカ如ク

ク啣チ動モスレハ支拂ヒ遲滯勝チナラントスル事ナリ。

扱テ疾病金庫ハ具體的方法トシテ如何ニセハ最モヨク被保險者ニ無料ノ醫療ヲ與フヘキ責務ヲ盡ス事ヲ得ヘキカ。本問題ニ對シテハ實ニ左ノ如キ諸種ノ解決方法ヲ考フルヲ得ヘシ。

(イ) 金庫醫主義ハ金庫カ一定ノ醫師ヲ指定シ又ハ其ノ目的ノ爲メ一定ノ醫師ヲ任命ス。

(ロ) 無制限自由醫師選擇主義ヲ採ル時ハ被保險者自ラ管轄區域内ニテ自由ニ醫師ヲ選擇スル事ヲ得。

(ハ) 狹義ノ自由選擇主義ニアリテハ金庫ハ先ツ一定ノ醫師ヲ選ビテ患者取扱ニ關スル諸種ノ條件ヲ守ルヘキ事ヲ宣セシメ然ル後ニ患者ヲシテ其醫師中ヨリ任意ニ好ム者ヲ選擇セシムナルリ。醫師ノ報酬ニ關シテハ醫師ト金庫トノ間ニ諸種ノ方法ニ於テ之ヲ

規定スル事ヲ得。患者一人毎ニ一定率又ハ不定率ニテ支拂フ事モアルヘク或ハ年額ノ最高限ヲ定ムヘク又ハ定メサルヘシ。更ニ年額ヲ確定スル事モ考ヘ得ヘク又ハ加入者ノ頭割ニテ俸給ヲ定ムル事モアリ得ヘシ。

之ヲ實際ニ徵スルニ從來金庫ハ時ニ金庫醫主義ヲ採用シ又時ニハ狹義ノ自由選擇主義ニ依リ斯クテ疾病金庫ニ於ケル此ノ問題ノ動搖ハ延イテ今日ニ及ヒタリ。而シテ自由ニ醫師ヲ選擇セシムヘシトナス主義ノ貫徹ヲ計ランカ爲メニ特殊ナル醫師組合即チ所謂ライプチヒ組合ナルモノノ成立ヲサヘ見ルニ到レリ。今同組合ノ主張スル所ヲ聞クニ醫師ノ殆ントアラユル階級代表者ノ考フルカ如ク醫師ヲ自由ニ選擇スル事ハ醫師及ヒ疾病金庫双方ノ等シク有利トナス處ニシテ同時ニ又醫師及ヒ金庫加入者ノ合理的要求ニ最モ完全ニ適合スル

モノナリト謂フニアリ。斯クノ如クニシテ久シキ年月ニ亘リ醫師ト金庫トノ間ニ激烈ナル反目繼續シタルカ殊ニ醫師ノ不滿トスル處ハ報酬ノ過小ナル事ト彼等ヲ遇スルニ禮ヲ失スル事トノ二點ニアリキ。サレト此ノ競争モ遂ニ金庫側ニ於ケルボーイコツトト醫師ノ行ヘル同盟罷業ヲ夫々採用セル最後ノ手段トシテ爾後次第ニ熱度ヲ減シ醫師自由選擇ノ制度行ハレテ一部ハ醫師ノ勝利ニ歸シ他方金庫側モ亦勝利ト考フヘキ一部ノ事由ヲ維持シテ終結ヲ告クルニ到レリ。

此ノ脈フヘキ事情ヲ全然革新スルニ必要ナル法律上ノ改良ハ現行帝國勞働保險法ニ於テハ未タ規定セラルル事ナク政府ノ提案モ參與者ノ許容スル處トナラサリシカ如シ。現時モ舊時ト同シク次ノ如キ根本原則行ハル。曰ク疾病金庫ト醫師トノ關係ハ要式契約ヲ以テ之ヲ定ム。其他ノ醫師ノ支拂ハ緊急ノ場合ニアラサレハ金庫ハ之ヲ拒

絶スル事ヲ得。金庫ニ負擔過重ノ恐レナキ限リ金庫ハ法律ニ基キ其ノ加入者ニ對シ少クトモ二名ノ醫師ニツキ之ヲ自由ニ選擇セシムヘク被保險者カ自ラ超過費用ヲ負フ時ハ金庫所屬ノ各醫師ニツキ自由選擇ヲ爲スヲ得ヘシ。但シ定款ヲ以テ受療者ハ該保險事件又ハ該事業年度内ハ理事ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ濫ニ醫師ヲ變スヘカラサル旨ヲ規定スル事ヲ得。又疾病金庫ノ相當ノ條件ニテ所要數ノ醫師ト契約ヲ爲ス能ハサル爲メ又ハ多數ノ醫師カ契約ヲ履行セサルカ爲メ醫療ヲ與フルニ多大ノ危險ヲ感シタル時ハ保險監督局ハ金庫ノ申請ニ基キテ治療等ニ代フルニ法定ノ疾病手當金ノ平均額ノ三分ノ二以内ノ現金給付ヲ爲スヲ得ルノ權能ヲ金庫ニ與フルヲ得。但シ此ノ申請ハ取消ス事ヲ得。保險監督局ハ同時ニ次ノ規定ヲ設クル事ヲ得。

(一) 金庫ノ給付ヲ受クヘキ者ノ症狀ハ醫師ノ診斷書ニ依ルノ外他ノ方

法ニテモ之ヲ證明シ得ヘキ事。

(二) 完全ニ證明セラルル迄ハ金庫ハ其ノ給付ヲ停止シ又ハ一時休止シ得ル事。

(三) 請求權ノ發生後一年以内ニ完全ニ證明セラレサル時ハ金庫ノ給付義務ハ消滅スル事。

(四) 金庫ハ其ノ醫療ヲ與フルヲ要スル者ヲ入院セシメ得。

保險監督局ノ決議ニ不服ナル時ハ金庫理事ハ最高行政官廳ニ抗告スル事ヲ得。

藥劑師ニ對スル關係ニツイテハ制限的自由選擇ノ主義採用セラレタリ。即チ其ノ意ヲ考フルニ金庫ハ定款ニヨリテ所管内又ハ保險局ノ許可アル時ハ所管外ニ涉リテモ藥劑供給ニ關シ一名又ハ數名ノ藥局主ト特約ヲ爲スノ權利ヲ規定スル事ヲ得ト謂フニアリ。此ノ協定

ニハ金庫所管内ニ居住スル藥劑師ハ皆參加スル事ヲ得。藥局ハ金庫ニ對シテハ割引ヲナスヲ要シ其ノ率ハ最高行政官廳之ヲ定ム。

第二章 傷害保險(帝國勞働保險法第三編參照)

第一節 被保險者

五三七條乃至五五四條。九一〇條。四六條。乃至一〇六四條。

傷害保險モ亦直接ニ國法ニヨリテ規定セラレタル一定範圍ノ人員ニ對シ保險義務ヲ認ム。此種ノ範圍ハ同業組合ノ定款又ハ國家ノ企業行政ノ執行官廳ニヨリテ任意擴大セラルヘシ。此ノ保險義務ト共ニ更ニ保險權利ナルモノ存ス。

他ノ強制保險ノ場合ト異リ保險義務者ノ範圍ハ雷ニ職業ニヨリテ定マルノミナラス又從事スル事業ノ種類ニヨリテ定マル。

一、爾後行ハルヘキ法律ニ從ヘハ傷害保險ニ屬スヘキ者次ノ如シ。即チ無條件ニ屬スル者即チ賃銀如何ニ拘ラサル者ハ總テノ勞働者、助手、

職工徒弟見習及ヒ海員乃至航海業ト關係アル者等ナリ。又條件付ナルモノ即チ賃銀若クハ俸給年額五〇〇〇馬克從來ハ三〇〇〇馬克ヲ超エサル者ハ企業従事者職工長及ヒ技術員之ナリ。是等ノ人々ハ左ニ掲クル保險義務アル企業ニ従事スル場合ニハ被保險者タルヘシ。其ノ企業トハ

- (一) 鑛山製鹽所精煉所石材採掘所土砂採掘所
- (二) 製造工場造船所熔鑛所製藥所工業的釀造業及ヒ製革業
- (三) 建築場建築作業飾裝作業石工作業鎖錠作業鍛冶作業鑿井業等ヲ營ム諸種ノ工的企業及碎石業並ニ營業上ノ建築業ニアラサル土木工程
- (四) 煙突掃除業窓拭業賣肉業及ヒ浴場營業
- (五) 鐵道業及ヒ郵便電信事業並ニ海陸軍直轄事業全部
- (六) 内水航海業筏業平低船業及ヒ渡船業曳船業内水漁業養漁業池沼利

用及ヒ製氷業營業トシテナサレ若クハ帝國聯邦市町村市町村組合若クハ他ノ公共團體ニヨリ管理セラルル時ニ限ル) 浚渫業並ニ内水ニ於ケル船舶類ノ操縱事業。

(七) 荷車業貨物運送業旅客運送業貨馬業厩業營業トシテナス時ニ限ル) 船舶以外ノ運輸機關(天然力若クハ獸力ニヨリテ運轉スル時ニ限ル)ノ操縱業乗用獸ノ操縱業。

(八) 倉庫業酒藏業及ヒ酒類小賣業。

(九) 貨物包裝作業荷揚作業運搬作業商品分類作業計量作業檢定作業及ヒ積込作業。

(一〇) 人又ハ貨物ノ運搬業若クハ材木斫伐業ニシテ小事業ノ範圍ヲ超過スル商業ト聯絡アル場合。

(一一) 商品取扱ニ關スル事業ニシテ前號ト同様ノ場合以上各號五三七

條

- (二二) 農林業。但シ如何ナル業務ヲ農林業ト認ムヘキカハ帝國保險院ノ定ムル所ニ依ル(九一五條)。
- (二三) 獨逸ノ海船ニ乗組メル船長、船員、機關士、給仕又ハ其他ノ職務ニ在ル者。但シ船長ハ報酬ヲ受ケテ從業スル者ニ限ル(一〇四六條第一項)。
- (二四) 帝國社會保險ニ基キ他方面ニ於テ傷害保險ニ加入スル場合ヲ除キ凡ソ乗組員ニ非ストモ獨逸ノ海港、運河若クハ河川ニ於ケル獨逸海船ニ乗務スル者(同條第二項)。
- (二五) 獨逸内國地ニ於テ浮動船渠及ヒ之ニ類スルモノニ從業スル者、水先案内ニ關シ或ハ難破ノ際ニ人又ハ物ノ救助若クハ保護ニ關スル内國事業従事者或ハ海運用ニ供セラルル一般水流ノ監視、點燈又ハ保存ニ關スル内國事業従事者(同條第三項)。

(二六) 漁業ノ爲メ聯邦會議所定ノ境界内ニ使用セラルル船舶ノ乗組員(二〇四九條)。

保險義務ノ範圍ハ労働者、企業従事員ニ止マラス獨立企業者就中航海業、遠海漁業及ヒ普通ノ漁業ヲ一定ノ營業トシテ營ムモノニモ及フ。但シ此ノ場合ニ於テ企業者自ラ船舶ノ乗組員トナリ該事業ニハ普通多クトモ二人以下ノ保險義務者有償ニ従事スル場合ニ限ラルルナリ。

又從來ノ規定ヲ擴張スルニ際シテ製造工業ト稱スルハ次ノ諸種ノ企業ヲ指稱ス。

(イ) 營業トシテ材料ニ加工シ之ヲ精製シ而シテ少クトモ普通十名以上ノ労働者從業スルモノ。

(ロ) 營業トシテ爆裂彈若クハ爆發物ヲ製作或ハ精製シ又ハ發電、送電ヲ

行フモノ。

一七〇

(ハ)單ニ一時的蒸氣機關又ハ自然力若クハ獸力ニヨリ動カサルル動力ヲ利用スルニ止マラサルモノ。

(ニ)帝國保險院ヨリ製造工業ト同一視セララルモノ。

扱テ茲ニ一言スヘキハ當該ノ被保險者カ企業ニ從事スル以外ニ雇主又ハ其ノ代理人ノ命ニヨリテ他ノ事業ノ手傳ヒヲ爲ス場合ニハ保險ハ亦此方面ニモ適用セララル事ナリ。海上傷害保險ハ亦人命及ヒ物ノ救助ノ爲メニスル被保險者ノ行動ノ上ニモ及フモノナリ。

二、直接ニ帝國法ニ依ラス他ノ規定ニ依リテ保險義務者ト定メラレタルモノ次ノ如シ。

(イ)普通ノ地理上ノ境界即チ獨逸國境ヲ超エテ活動スヘキ企業ハ獨逸ノ企業ヨリ出テテ外國ニ引續キ定住スル者ニ關シテ宰相ノ命令ニヨ

リ保險義務者ト宣セララル。

(ロ)保險義務者ノ範圍ハ普通非獨立者ニ限ラルト雖モ定款又ハ執行官應ニヨリテ小企業者即チ通常二名以内ノ賃銀勞働者ヲ使用シ若クハ年所得三〇〇〇馬克ヲ超エサル程度ノ小企業者ニ擴張セララル。更ニ小船主及ヒ家内工業者ニモ及ヒ又企業ニ從事セル配偶者ニ迄擴張セララル。

(ハ)三〇〇〇馬克ヲ限度トスル年收ノ普通限界ハ同様ニ五〇〇〇馬克以上ノ年給ヲ得ル企業従事者ニ對シテ擴張スル事ヲ得(五四八條第三項)。

(ニ)定款上ニテ普通ノ非保險者ノ限界ヲ擴張シテ企業ニ從事スト雖モ保險ノ義務ナキ者及ヒ企業ニ從事セスト雖モ工場ニ通フ者最後ニ同業組合ノ機關及ヒ従事員ニ及ホス事ヲ得。

三、此點ニ關シ特ニ重要ナルハ改正規定ニシテ之ニ從ヘハ聯邦會議ノ決議ニヨリ傷害保險ハ一定ノ工業的職業病(工業病)ニ擴張セラレ得ル事ナリ。聯邦會議ハ之カ施行ノ爲メニ特別規定ヲ發布スルヲ得。元來保險ニ於テ傷害トハ身體ヲ傷害スヘキ偶然ナル外界ノ作用力ヲ稱スルモノナルカ職業病ノ本質ハ瓦斯毒物等ノ漸進的作用ニ在リ。

四、保險義務ト共ニ存スル保險權利カ直接ニ法律ニヨリテ附與セララルモノハ未タ保險義務ニ服セス其ノ年收三〇〇〇馬克ヲ超エス而シテ通常多クトモ二名ノ賃銀勞働者從事スルニ過サル如キ企業ノ主體ナリトス。海事業者、船主、獨立ノ水先案内者ニハ勞銀ノ程度ニ關セス保險權利與ヘラルルナリ。年額三〇〇〇馬克以上ノ勞働所得ヲ得ル他ノ企業者ハ同業組合ノ定款ノ規定ニ依リ始メテ加入權ヲ得ルナリ。

五、帝國勞働保險法ノ外尙ホ現行ノ官吏及ヒ軍屬ノ傷害救護法並ニ俾

虜傷害救護ニ關スル法律ハ傷害保險義務者ノ範圍擴張ヲ規定ス。以上ノ外ニ任意ニ人命救助及ヒ物件救助ヲ企テタル行爲ニ因リテ受ケタル傷害救護ノ施設ニ關スル帝國法ハ此種行爲ノ際存在スヘキ水火ノ危險ニ顧ミテ將來制定セラレントス。

第二節 保險擔當者

六二三條乃至七二一條。九
一五六條乃至九八四條。一一
一八條乃至一一五七條。

一、疾病保險ニ關シテ觀察シタル疾病金庫ノ制度ニ比スレハ傷害保險擔當者ハ遙ニ單純ナリ。何トナレハ此ノ制度ハ全然新シク創造セラレシモノニシテ吾人ハ歴史的ニ存在スル制度ヲ回顧スルノ要ナケレハナリ。傷害保險ニアリテ特ニ重要ナル同業組合ハベテケル氏ニ從ヘハ寧ロ「全然ビスマルク」ノ創造物ニシテ傷害保險ノ義務アル企業ノ經營者ノ相互主義ニ基ケル公法的團結ナリ。之ハ法律ニヨル強制ノ

基礎ノ上ニ設立セラルト雖モ同業組合内部ノ事情ハ自選自律ニ基ク極メテ自由ナル自治制度ナリ。「此ノ組合ノ上ニ在リテ之ヲ規律シアラユル認可ト干涉トヲ加フルヲ職分トセル機關ハ一モ存セス。國家ノ官廳タル帝國保險院ハ彼等ニ對シテハ寧ロタタ管理スヘキ親切ニ相談スヘキ而シテ統一スヘキ地位ヲ占ムルニ過キサレモノナリ」。

私人ノ營ム集合傷害保險ニアリテハ一人若クハ數人ノ企業者保險ヲ經營シ保險料ハ自己之ヲ支拂ヒ保險金ハ其ノ使用スル労働者ヲシテ傷害ノ場合ニ之カ請求權ヲ得セシムルカ如クスルヲ得ヘシ。同様ニ公立傷害保險ニアリテモ保險義務アル企業ノ經營者ノミ同業組合ノ組合員ニシテ又彼等ノミ保險料拂込ミヲ爲ス。從ツテ保險セラレタル労働者カ保險擔當者ト關係ヲ生スルハ常ニタタ傷害ニ依リ填補請求權發生シタル場合ノミニ限ル。

傷害保險ニアリテハ保險強制ノ外ニ更ニ組織上ノ強制存ス。即チ已ニ名稱ノ示ス如ク獨逸國ニアリテハ職業別ニ從ヒテ立テタル組織アリ。一同業組合ハ或ハ唯一ノ職業ヲ包含シ或ハ更ニ相互ニ密接ノ關係アル一團ノ職業ヲ包含スル事アリ。例ヘハ織物業組合ハ紡績業、織物業、編物業、縫物業、洗濯業、漂白業、染物業、組糸製造業等ヲ包含スルカ如シ。同業組合ノ地理上ノ區域ハ或ハ全帝國ニ及フ事アリ。例ヘハ海事業組合、化學業組合ノ如シ。或ハ一定ノ地方ニ限ララルル事西南建築業組合カバールデン及ヒエルザス・ロートリンゲンニ限ララルルカ如シ。茲ニ特例トシテ注目スヘキハ繼續的ニ營マレサル即チ非營業的ノ事業例ヘハ自宅建築ノ如キ又乗用獸及船車類ノ操縦ノ如キニ對シテハ同業組合ノ支部以前ハ保險所ト稱セラルカ附屬セル事之ナリ。斯クノ如キハ已ニ以前ヨリ地下工事組合及ヒ十二個ノ土木建築業組合、更

ニ又海事業組合内部ニ於テ小企業ノ爲メニ存在シタルモノナリ。
元來各個ノ同業組合ハ類似ノ企業ノ經營者ノ自由意思ニヨル團結
ニ基キテ發生シタルモノナリ。特ニ營業的傷害保險ニアリテハ組合
ノ職業上乃至地理上ノ區域ニ關シテ何等條規ノ存スルナシ。只タ例
外ト見ルヘキハ海事業組合及地下工事組合ニシテ兩者共ニ帝國法ニ
ヨリ創立セラレタルナリ。更ニ又農林業組合ニ關シテハ聯邦政府ニ
廣汎ナル立法權ヲ附與セラル。新法ハ被保險者ノ範圍ヲ擴張スル事
ニヨリテ亦多數ノ新同業組合ヲ創設シタリ。例ヘハ運動傷害保險
(Sportunfallversicherung) ノ如シ。

同業組合ニハ地理的區域ニヨリテ支部ヲ配置シ出張所ヲ設ケ企業
ノ監督ノ爲メニ特別代理人ヲ命スル權ヲ認メラル。大抵ノ同業組合
ニハ支部アリ。時ニ數百ノ支部ヲ有スル事アリトス。

二同業組合及ヒ多數ノ支部以外傷害保險ノ擔當者トシテハ帝國各聯
邦及ヒ自治組合並ニ公共團體等アリ。帝國及ヒ各聯邦ノ國庫經營事
業並ニ帝國又ハ聯邦ノ計算ノ下ニ監理セララル交通業及ヒ自治組合
若クハ他ノ公共團體ノ非營利建築事業カ充分給付能力アリト認メラ
レタル場合ニハ執行官廳ハ保險擔保者タルナリ。斯ル執行官廳ハ例
ハハ鐵道行政ニアリテハ鐵道管理局及ヒ鐵道院ニシテ軍務行政ニア
リテハ經理部之ナリ。

第三節 保險ノ給付(第三編各部第二章參照)

舊時ノ傷害保險ノ理由書ハ保險給付ノ範圍ニ關シテ次ノ如ク説明
セリ。

立法ノ趣旨ニ從ヘハ勞働狀態ノ種類ニ應シテ此ノ規律ノ適用範圍

内ニ入ルヘキ總テノ工業労働者ハ傷害ニヨル所得能力ノ喪失ニ際シテハ自己自身ニ對シテハ從來ノ收益ニ相應スル手當ヲ又遺族ニ對シテハ同様ニ相應ノ救済ヲ如何ナル場合ニモ確實ニ期待シ得ヘキ權利ヲ與ヘラルヘキナリ。此ノ目的ノ爲メニ保險ハ企業ニ關シテ生スヘキ總テノ傷害ヲ包含セサルヘカラス而シテ此ノ傷害カ企業者又ハ其ノ代理人ノ責ニ歸スヘキヤ若クハ被害者自身ノ行爲ニヨルヤ又ハ何人ノ責ニモ歸スヘカラサル事由ニ起因スルヤハ問フ處ニアラサルナリ。此種ノ區別カ全然認メラレサル場合ニ於テ初メテ労働者ノ地位ハ安固トナルヘク即チ傷害ニヨリテ所得能力喪失ト共ニ併セテソノ生計ヲモ失フ事ナク又傷害ニヨリテ死亡セシ場合ニモ遺族ハ路頭ニ迷フノ憂モナカルヘキナリ。然ルニ若シ傷害カ労働者ノ過失不熟練又ハ偶然ノ事由ニ因リテ發生シタル場合ニハ之ヲ保險ヨリ除外セン

カ一々ノ場合ニ給付請求權存否ノ争起リ請求權存在主張ノ結果トシテ假令労働者ニ舉證ノ責任ノ存セサル場合ニ於テスラ事件ノ落着ハ多クノ場合極メテ不確實ノモノトナルノ危険ヲ生スヘシ。

之ニ反シテ保險カ傷害ニヨリテ生シタル財産上ノ損害ノ全部ヲ填補スル事ハ完全ナル規定ノ要件トセス。公務ニ服スル者カ服務能力ヲ失ヒタル場合ニ假令其ノ原因カ服務ト關連セル危険ニヨル時ニモ恩給ハ從來ノ俸給全部ヲ支給スルニアラスシテ其ノ一部ニ過キサレ事自明ノ事理タルカ如ク私的業務ニ服スル労働者カ職業ニ關連スル危険ニヨリテ所得能力ヲ喪失シタル際ニモ從來ノ賃銀ニ等シキ年金ヲ與ヘラルヘキ理由存セサルナリ。

傷害保險ノ給付ニ關シテハ保險義務ニ基ケルヤ保險權利ニ基キテ給與セラルルヤハ區別スル事ナキナリ。同時ニ亦保險擔當者カ同業

組合ナリヤ帝國ナリヤ聯邦ナリヤ將又公共團體ナリヤハ顧慮スルヲ要セス。

傷害ノ結果ニヨリテ次ノ二種ノ給付ヲ觀察スルヲ得ヘシ。

(1) 負傷ニ對スル保險機關ノ給付。

(2) 死亡ニ對スル保險機關ノ給付。

(1) 負傷ニ對スル賠償ハ更ニ其ノ傷害ノ程度カ一時的所得不能ナリヤ繼續的不能ナリヤニヨリテ異ル。

(二) 一時的所得不能ニアリテハ其レカ十三週以上繼續セサル場合ハ全然傷害保險ノ問題ヲ生セス(所謂待期)。此ノ場合ニハ疾病保險ノ填補ヲ受ケ若シ負傷者之ニ屬セサル場合ニハ同業組合ノ救濟ヲ得ヘシ。五週目ノ初メヨリ疾病手當金増額セラル(傷害割増金)。以上迄ハ勞働者ハ直接ニ傷害保險ノ費用ノ一部ヲ負擔スル事トナルナリ。何トナ

レハ傷害割増金ヲ給付スヘキ疾病金庫ニアリテハ勞働者ハ支出ノ三分ノ二ヲ支拂フヲ要スレハナリ。疾病金庫カ傷害割増金ノ爲メニ増加スヘキ負擔ハ全傷害負擔ノ一割二分ニ當ルカ故ニ勞働者ハソノ八分ヲ支拂フ事トナルナリ。

傷害保險ハ傷害發生後第十四週日ヨリ開始シ被害者ニ左ノ如キ給付ヲナス。

(イ) 治療。無料ノ醫療、投藥其他被害ノ結果ヲ輕カラシムルニ必要ナル補助材料(丁字杖ノ如キ)ヲ包含シ更ニ又事情ニヨリテハ其他ノ手續ヲモ包含スル事アリ。

(ロ) 所得不能ノ繼續期間年金ヲ支給ス。

(二) 更ニ繼續的所得不能ノ場合ニモ同様ノ給付生ス。但シ年金ハ一時的ニアラスシテ恒久的性質ヲ有スルニ至ルナリ。

此ノ年金額モ繼續的所得不能ニアリテハ夫レカ全部的ナリヤ部分的ナリヤニヨリテ異ル(五五九條五六〇條五六二條)。

(イ)全部喪失ノ場合ハ一年労働收益ノ三分ノ二ヲ支給ス(全額年金)。

(ロ)一部喪失ノ場合ニハ其ノ不能ノ程度ニ應シテ全額年金ノ一部ヲ支給ス(部分年金)。例ヘハ一眼ノ喪失ニ對シテ全額年金ノ二割五分乃至三割三分三分ノ一ヲ支給セラレ私立傷害保險ニ於ケルカ如ク確定額ノ存スル事ナシ。而シテ一部年金ハ寧ロ個々ノ場合ノ事情ニ應シテ計算セラルルナリ。

(ハ)被害者ハ單ニ所得能力ヲ全部喪失シタルニ止マラス傷害ノ結果ソノ日常生活モ他人ノ看護ニ依ラスンハ營ム事能ハサルニ至リタル場合ニハ彼ハ其ノ一年労働收益ノ全額迄ノ範圍内ニ於テ相當ニ年金ヲ増額セラル。

(ニ)被害者カ傷害ノ結果トシテ過失ナクシテ失業シタル場合ニハ失業年金ヲ給付セラル。此ノ場合ニハ一部年金ハ一時全額年金ノ額迄増額セラル。

年金ハ被害者カ最近一年間ニ於テ企業ヨリ得タル報酬ノ多寡ニ應シテ算出ス。但シ其所得一八〇〇馬克以前ハ一五〇〇馬克ヲ超過スル時ハ其ノ超過額ハソノ三分ノ一ヲ加算スルニ止ム(五六三條)。

一年労働收益カ少クトモ毎週拂ノ給料ヨリ組成セラルル場合ヲ除キテハ一日平均労働收益ノ三百日分ヲ以テ之ニ充ツルモノトス(五六四條)。普通業務ノ性質ニヨリテ労働日數ニ異動生スル如キ企業ニ從事スル被保險者ニ對シテハ三百日ヲ標準トセスシテ此ノ労働日數ヲ標準トスルナリ(五六四條後段)。是等ノ規定ニヨリテ計算シ難キ場合ニハ特別規定ノ適用アリ(五六五條以下)。